

「参画と協働」に関する審議について

- 1 第 10 期県民生活審議会提言「兵庫のふるさとづくり～多様性を包摂し、共感の力で参画と協働の輪を広げる」（平成 27 年 11 月）を受け、県は、平成 28 年 3 月に「参画と協働の推進方策」を改訂した（運用期間 平成 28 年度～32 年度）。同方策に基づき、「参画と協働」関連の諸施策を展開している。
- 2 平成 28 年 6 月に発足した第 11 期県民生活審議会では、第 10 期までの審議に引き続き、「参画と協働」関連施策の年次報告に関する審議や、推進状況のフォローアップを実施してきた。
審議過程で、運営上の課題や、今後の展開可能性等について意見交換を行った結果を中間的にまとめ、次期（第 12 期）参画と協働の更なる展開に向けた検討につなげていく。

1 第 10 期県民生活審議会提言（平成 27 年 11 月）の概要

- (1) テーマ：「兵庫のふるさとづくり～多様性を包摂し、共感の力で参画と協働の輪を広げる～」
- (2) 内 容：「ふるさと意識の醸成」「ふるさと活動の活性化」を継続して推進することを提言
地域資源の発掘・再発見、地域の中での世代間連携、ふるさと活動に関わりやすい
仕組みづくり、活動資金を生み出す仕組みづくり、地域での若者の居場所づくり 等
- (3) ねらい：地域創生戦略を推進していくなか、提言内容が具体化されていくことをめざす。
 - ① 一人ひとりが、地域を舞台に自己実現できる地域社会
 - ② 多様な人々を迎え入れ、緩やかなつながりをもとに支え合い助け合う地域社会
 - ③ 活動人口の増加による地域社会の活性化

2 参画と協働の推進方策（運用期間：平成 28 年度～32 年度）の概要

- (1) 性 格：参画協働条例に基づく「地域づくり活動支援指針」及び「県行政参画・協働推進計画」として一体的に策定
- (2) 内容（方向性）
 - i 地域づくり活動の支援の方向（地域づくり活動支援方針）
 - ① 情報提供・相談体制の整備
 - ② 知識・技能の習得機会提供
 - ③ 活動・交流拠点確保
 - ④ 人材確保
 - ⑤ 資金調達支援
 - ⑥ 連携支援
 - ii 参画と協働による県行政推進の方向（県行政参画・協働推進計画）
 - ① 情報公開の推進
 - ② 政策形成への参画機会確保
 - ③ 協働事業の機会確保
 - ④ 評価・検証への参画機会確保

3 第11期県民生活審議会（県民生活部会）の審議経過等

第1回部会（H28.7.12） 年次報告・参画と協働のフォローアップに係る意見交換

第2回部会（H29.5.12） 年次報告・参画と協働のフォローアップに係る意見交換

第3回部会（H29.12.21） 参画と協働のフォローアップ
：参画と協働の更なる展開に向けて 中間まとめ骨子に係る意見交換

第4回部会（H30.6.14） 参画と協働の更なる展開に向けて 中間まとめ 【今回】



H30～32年度 第12期県民生活審議会

※「参画と協働」の更なる展開に向けた議論を深め「参画と協働の推進方策」「県民ボランティア活動の促進のための施策の推進に関する基本方針」の見なおしに向けた議論を進めていく

「参画と協働」の推進に係る県民生活審議会（全体会・県民生活部会）での主な意見・方向性

区分	第10期県民生活審議会 提言	「参画と協働」の推進方策（運用期間：H28～32年度）	平成28年度 審議会での意見	平成29年度 審議会での意見
I 課題解決に向けて (総論)			<input type="checkbox"/> 課題に先回りして対応するために「参画と協働」は必要（#1部会） <input type="checkbox"/> 「参画と協働」が県民の意識から離れていないか確認が必要（#1部会） <input type="checkbox"/> 県民や活動している皆さんに評価してもらえるようにするのが良い（#1部会）	<input type="checkbox"/> 「参画と協働」参画と協働の新しい理念や問題提起が期待されている（#2部会） <input type="checkbox"/> 頑張っていることへの評価基準や指標が必要（#2部会） <input type="checkbox"/> 地域社会の暗い実情も記述すべき（#3部会） <input type="checkbox"/> 地域の構成者の個性を反映する必要がある（#3部会） <input type="checkbox"/> 合意形成は必要なか/地域コミュニティの適切なサイズの検討が必要/課題ごとに合意形成できる単位を考える必要がある。（#3部会）
II 課題解決に向けて (各論) 1 多様な主体との協働	<ul style="list-style-type: none"> 多様な価値観・個性を認め合う ⇒空き家等を活用したアーティスト等の受入 等 地域をこえた連携・交流の促進 ⇒都市・農村交流事業の実施 等 企業の力が活きる環境づくり ⇒地域と企業の連携協定締結 等 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な主体の連携を支援 (ネットワーク会議等を通じたつながり支援 等) 地域を越えた連携・交流を促進(新) (都市と農村の交流、災害に備えネットワークづくり 等) 地域活動に取り組む多様な主体を育成(新) (企業の地域貢献活動への支援、協定締結促進 等) 	<input type="checkbox"/> 一人ひとりが住むところに対する問題意識を持つこと必要。すそ野は広がっており中間支援機能は重要（#1全体会） <input type="checkbox"/> 行政と住民の距離を近づけたい。地元での消費や環境への配慮も重要（#1全体会）	<input type="checkbox"/> 大学、専門機関、企業等、地域の中にあるすべての職業、様々な立場の人々のつながりが最終的な形（#2部会） <input type="checkbox"/> 自主財源（寄附）等で頑張る自治会もあるが、地域づくりを前に進めるための補助金も必要（#2部会） <input type="checkbox"/> お金による参画の方法もある/企業協賛に対する意識をあげる必要がある（#2部会）
2 事業の展開	<ul style="list-style-type: none"> 活動資金を生み出す仕組みづくり ⇒寄附、会費収入、対価徴収等による活動基盤強化 等 	<ul style="list-style-type: none"> 活動の立ち上げと自立に向けた財政的支援 (ボランティア基金を活用した助成 等) 活動資金を生み出す仕組みづくりを支援(新) (資金調達のノウハウ・事例提供、寄附文化醸成 等) 	<input type="checkbox"/> 県の事業の方向性だけでなく、どのように県民が自立していくのかという視点での議論が大切である（#1全体会）	<input type="checkbox"/> 21世紀型参画と協働の柱にお金（事業展開の資金確保等）の仕組み、金融機関とのパートナーシップという点を考え、取り組んではどうか（#2部会） <input type="checkbox"/> 資金確保力というよりも、人々が集まることにより生まれる（課題解決）力という点から評価すべき（#3部会）
3 情報収集・発信	<ul style="list-style-type: none"> 地域の魅力を広く発信する仕組みづくり ⇒“すごいすと”情報発信事業、「コラボネット」等情報発信システムの充実、 等 	<ul style="list-style-type: none"> 地域づくり活動に関する情報をわかりやすく提供 (ICTの活用、コラボネット(ボランティアプラザHP)充実、ビッグデータ活用促進 等) 	<input type="checkbox"/> 兵庫県のボランティアの取組を全国発信していきたい（#1全体会） <input type="checkbox"/> 活動している人になかなか情報が届いていない。きっかけとなる情報を集約して伝えるシステムがあれば良い（#1部会）	<input type="checkbox"/> 情報発信にあたり、誰が興味を持っているかという視点が必要。身近な情報を発信できるよう、コーディネーターやファシリテーターできる人材に育っていくプログラムがあった方が良い（#2部会） <input type="checkbox"/> 地域活動に関してインターネットで情報収集する人が増えていることに留意すべき（#3部会）
4 地域の持続的運営	<ul style="list-style-type: none"> 活動の推進力を高める人づくり ⇒専門的知識を持つ人材の育成 等 あいさつ・声かけによるコミュニケーションの創出 ⇒あいさつ・声かけ運動 等 地域の中で三世代のつながりをつくる ⇒地域里祖父母事業、三世代近居支援 等 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 地域づくり活動支援を総合的に進めることにより、地域の自立・活動の継続 等につなげていく 	<input type="checkbox"/> 地域づくりの専門家を育て、行政のプロと対話できるようにすべき（#1部会） <input type="checkbox"/> 普通の生活者が「生活の専門家」と言える空気の醸成が必要（#1部会）	<input type="checkbox"/> 地域課題を発見し、課題を設定して取組内容を考え、運営につなげていく一連のスキルが必要。（#2部会） <input type="checkbox"/> 高齢者が一生懸命貯めたお金が、都市部に流出している現実がある。誰もが役割を担うことができる社会づくりを進めるべき。また、お金を貯めた人のためになるお金の廻し方を考えている（#2部会） <input type="checkbox"/> コーディネーターやファシリテーターの機能を住民が持つようフォローするために中間支援が大事（#3部会） <input type="checkbox"/> 地域担当制は行政による中間支援でもある（#3部会）
5 できる時にできる方法で関わる仕組み	<ul style="list-style-type: none"> できる時にできる範囲で活動に関わる仕組み ⇒短時間ボランティア機会の創出(公的施設管理や交流イベント) 等 	<ul style="list-style-type: none"> 活動に参画・協賛する人材を確保 (短時間でも活動できる活動機会の提供 等) 	<input type="checkbox"/> 皆さん忙しいので、会議などでも参加しやすいように「目玉商品」をつくって回数を減らすことも必要だ（#1部会）	<input type="checkbox"/> 人材確保の議論で、女性・シニア・若者という議論が多いが、男性がどう活動するかということにも目を向けるべき/短時間でも参加できる仕組みが重要（#2部会）等
6 参加・スキルアップのきっかけ	<ul style="list-style-type: none"> 活動のきっかけづくり ⇒実践活動家との語り、生涯学習 等 育ちの中で体験活動を広げること ⇒子ども体験教室の実施 等 地域資源の発掘・再発見、地域課題を学ぶこと ⇒地域の魅力再発見ウォークイベント実施 等 	<ul style="list-style-type: none"> 活動の段階に応じた幅広い相談に対応 (生活創造センターや中間支援組織等(ボランティアプラザと連携)における相談充実 等) 地域で活動するための知識や技能の学習機会を提供 (地域学など地域の魅力や課題を学ぶ取組支援 等) 	<input type="checkbox"/> 「シチズンシップ」「市民教育」がキーワード。生活の基盤となる“ふるさと”を理解することが重要。どのように生涯教育と結びつけていくかが課題（#1全体会） <input type="checkbox"/> 何をやりたいかわからないという人のために条例制定した経緯がある（#1部会）	<input type="checkbox"/> 県民意識調査で、仕事や学校が忙しく暇がないという回答が多い。気軽に参加できることが意欲のきっかけとなる（#2部会） <input type="checkbox"/> 地域資源の掘り起こしに対するヒントを与え続けていく必要がある（#3部会）
7 若者がチャレンジできる機会や雰囲気	<ul style="list-style-type: none"> 地域の中での若者の居場所づくり ⇒高校生ふるさと貢献活動事業、地域イベントへの参画(高校生による企画・運営など) 等 若者がチャレンジする機会づくり ⇒ふるさとづくり青年隊事業 等 	<ul style="list-style-type: none"> 活動に参画・協賛する人材を確保 (短時間でも活動できる活動機会の提供 等) 活動団体の担い手を育成(新) (リーダー育成の支援、女性・シニア層の環境づくり支援 等) 	<input type="checkbox"/> 子どもたちに生活力が無くなってきている。生きる力・判断する力をつけてもらえるような情報提供が必要（#1全体会） <input type="checkbox"/> 高校生等若者に楽しく参加してもらうような工夫が必要（#1部会）	<input type="checkbox"/> 若者に活動に入ってもらえるかが課題（#2部会） <input type="checkbox"/> 教育委員会とよく連携すべき。高校生が自由時間に参加できるようにすれば地域活動等が広がる（#2部会） <input type="checkbox"/> 中学・高校生について、地域の担い手として役割があるという視点を入れるべき（#3部会）
8 何かしたいときに気軽に立ち寄れる拠点	<ul style="list-style-type: none"> たまり場、交流機会の創出による関係性の広がり ⇒商店街空きスペース活用、朝マルシェやお花見等の交流イベント 等 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な活動拠点や地域の「たまり場」づくりを支援 (空き家、遊休施設、地域の公共施設の活用 等) 	<input type="checkbox"/> 誰かが常駐してたまり場となるよう公民館等を活用してはどうか（#1全体会）	<input type="checkbox"/> 地域力をつけるためにも、立場を超えて話し合うことができる場を持ち、合意形成に向けて熟議することが大切（#2部会）

地域力の強化について（案）

現状と課題

■地域社会運営上の課題

担い手不足
役員の後継者不足

若い世代の参加が少ない
役員の高齢化・固定化

活動内容の
マンネリ化

同じ行事の繰り返し
参加者が毎回同じ 等

■地域社会の脆弱化に伴う課題

個人・家庭への支援機能(共助機能)低下

災害時の対応力低下、治安の悪化、児童虐待・青少年の問題行動、高齢者・障害者への見守り機能低下、交通弱者対策、買い物難民対策等

地域の活力の低下

地域への愛着や帰属意識低下、地域魅力の喪失・没個性化、空き家・耕作放棄地の増加、地域経済循環の停滞、人口や資産の流出 等

時代の変化や、複雑・多様な課題・ニーズに主体的に対応できる地域社会づくりが必要

課題解決への糸口

☆各地域で活動するリーダーや多様な取組の顕在化

- 自治会やまちづくり協議会等のリーダーとその経験・スキル・ノウハウ
 - ・買い物難民対策（巡回販売）やコミュニティバス運営、6次産業立上げ等、地域での事業展開例
- NPO・中間支援組織、ボランティアグループ等の活動が多様化・充実
 - ・県内のNPO団体数約2,200
 - ・中間支援団体ネットワークの広がり 等
- 企業、大学・学校など多様な主体の活動が展開
 - ・CSR、CSV、寄附等
 - ・地域をフィールドにした研究、分析等

☆市町の生涯学習・地域づくり活動支援施策の展開

- ・生涯学習センター、公民館・市民活動センター充実
- ・地域包括交付金導入 18市町
- ・職員の地域担当制 17市町 等

重点方向

地域力（課題解決力+人材確保・養成力）強化

課題解決力：住民自ら課題を発見し、課題解決に向けて、地域の人材や資源を活かすとともに多様な主体と協働しながら事業を展開し、住民主体で地域を運営する力

人材確保・養成力：地域において、担い手・リーダーとなる人材を発掘、地域の中でその人に合った活躍の場と機会を提供し、スキルアップを支援していく力

地域の課題解決力を高める仕組み

- ・多様な主体と協働する力（団体・NPO、企業、大学等との協働、地域間交流）
- ・事業を展開する力（寄附や投資が集まる仕掛け、生活支援ビズ初展開等）
- ・情報収集・発信する力（情報紙、HP・SNS等多様なメディアを活用する力）
- ・地域を持続的に運営する力（合意形成・プロセス重視により構成員の力活用）
など

地域の人材確保・養成力を高める仕組み

- ・できる時にできる方法で関わる仕組み（ちょボラ・プロボノ等）
- ・参加・スキルアップのきっかけづくり（交流機会、学習機会、活動機会等）
- ・若者等がチャレンジできる機会や雰囲気（若者に一定の役割を委ねる等）
- ・何かしたいときに気軽に立ち寄れる拠点（拠点の充実支援等）
など

ふるさと意識 = 地域への愛着と誇り+帰属意識

- ・多くの人が地域の魅力を知っている（自然・文化・社会体験機会、地域資源の発掘・再発見の取組み等）
- ・多くの人が地域の課題をわがこととして感じている（防犯、防災、青少年育成、環境・緑化、消費者問題、交通安全等）
- ・人と人のつながりが豊か（信頼、互酬性の規範、緩やかなネットワーク、多様な価値観・個性の受け入れ）等

関連施策・新たな施策イメージ

多様な主体の協働推進

- ・地域づくり活動応援事業
- ・中間支援活動助成
- ・地域活動コーディネーターによる支援
- ・専門家・アドバイザーの紹介
- ・参画協働フォーラム
- ・地域づくり活動ネットワーク会議 等

事業展開の支援

- ・地域での起業に関する支援
 - ・コミュニティ・ビジネス等総合支援事業、高齢者コミュニティ・ビジネス離陸応援事業、女性起業家支援事業、若手起業家支援事業
- ・生きがいしごとサポートセンター
- ・地域づくり活動情報システムによる情報提供
- ・寄附・投資による地域づくり活動支援の推進 等

情報収集・発信支援

- ・地域づくり活動情報システムの運営（再掲）
- ・「のじぎくボランティアネットワーク」の運営 等

地域の持続的運営支援

- ・専門家・アドバイザーの紹介
- ・地域運営組織法人化支援 等

ちょボラ・プロボノ等多様な関わり方提案

- ・参画と協働ガイドブックの活用 等

交流機会・学習機会・活動機会充実

- ・ふるさとひょうご創生塾
- ・先導的な人材養成手法の検討
- ・各種人材養成講座の実施
- ・参画協働フォーラム（再掲）
- ・地域づくりネットワーク会議（再掲） 等

若者のチャレンジ支援

- ・ふるさとづくり青年隊
- ・若手起業家支援事業（再掲） 等

拠点の充実支援

- ・県民交流広場を活用した地域力の強化
- ・参画と協働ガイドブックの活用（再掲） 等

(中間まとめ案)

— 参画と協働のさらなる展開に向けて —
地域力の強化について

1 現状と課題

(1) 地域社会の運営上の課題

① 人材不足等の課題

都市部をはじめとした地域のつながりの希薄化や帰属意識の低下、中山間部を中心とした人口減少・高齢化に伴う地域コミュニティの維持困難な状況など、地域社会は依然として深刻な運営上の課題を抱えている。

(担い手不足、リーダー・後継者不足)

自治会・まちづくり協議会等へのアンケートでも、最も多くの地域が課題として挙げるのは「活動の担い手不足」「リーダー・役員の後継者不足」である。そのような地域においては、若い世代の参加が少ないことや役員の高齢化・固定化等の実情が見られる。

(活動のマンネリ化)

上記に関連する課題として「活動のマンネリ化」も課題として挙げられる。同じ行事の繰り返し、参加者が毎回同じという実情が指摘されている。

地域運営上の課題 (H28 年度県民交流広場へのアンケート (N=568))

「スタッフの固定化・高齢化、人材不足」(75%)

「リーダーの後継者育成」(71%)

「活動内容のマンネリ化」(45%)

「活動資金不足」(33%)

② 地域社会の脆弱化に伴う不安

地域社会の、個人・家庭を支援・バックアップする機能が脆弱化するとともに、地域の活力減退すること等が危惧される。

(共助機能の脆弱化)

災害時の対応力低下、危険箇所の放置、治安の悪化、児童虐待・青少年の問題行動、ひきこもり、高齢者・障害者見守り、交通弱者、買い物難民等の課題は、地域社会がこれまで担ってきた共助機能が脆弱化していることにより、一層深刻化する傾向が見られる。

(地域の活力低下)

地域への愛着や帰属意識の衰退、地域魅力の喪失・没個性化、空き家・耕作放棄地の増加や地域経済循環の停滞・人口や資産の流出などにより、地域の人材や資源が生かされず活力が低下する傾向が見られる。

③ 地域社会の機能への期待

(きめ細かな対応力)

地域課題が複雑するとともに、価値観やニーズの多様化が進む中では、行政による一律のサービスでは必ずしも十分な満足度は得られず、グループや団体・NPO、企業など多様な主体によるきめ細かい対応が効果的である。

(自助・共助・公助の適切なバランス)

少子高齢化・人口減少の進展に伴い、財政状況が厳しさを増し、各自治体は行財政改革を余儀なくされているが、その中で最適な自助・共助・公助のバランスを実現していくことが重要である。

このように、時代の変化や、複雑・多様な課題・ニーズに主体的に対応できる地域社会づくりが期待される。

〔地域コミュニティ概念との関係〕

概ね小学校区の「まちづくり協議会」や「地域自治協議会」など団体の連合組織を含む、一定地域を基盤とする人のつながりを「地域コミュニティ」と呼び、住民主体での地域づくり推進を図ってきた。

「地域コミュニティ」の規模は、顔が見える関係が成り立つ程度にコンパクトであることが求められる一方、多様なグループ、団体等が相互に協働する規模も求められる。

但し、地域課題に応じて、取組の内容や関連する主体、必要な合意形成の範囲も異なり、また地域の組織の状況を踏まえたあり方が考えられるべきであることから、本稿の中で必ずしも固定的な組織を想定しない場合は「地域社会」の語を使用する。

(2) 地域づくり活動の状況

県民運動や、阪神・淡路大震災の経験・教訓を生かしたまちづくり活動が広がり、地域づくり活動支援施策展開と相まって地域団体やグループ・NPO等の活動も多彩となり、県内各地での多様な取組が顕在化し、企業や大学・学校等の活動も顕著になってきている。これらに伴って、事例やノウハウも蓄積しつつある。

中でも、地域での起業をめざす動きが顕著であり、地域創生の取組をはじめ、地域内の経済循環と地域づくり活動の関係はより密接になっている。また、グループ、団体、NPO等だけでなく、企業や大学などを交えた多様な協働の姿も見られるようになってきている。

① 地域団体

単位の地縁組織も含め地域団体の活性化を目指してきた「地域づくり活動応援（パワーアップ）事業」（H15～、累計4,899件）や、概ね小学校区単位のコミュニティで実施されてきた「県民交流広場事業」（H18～本格実施、727地区）では、自治会やまちづくり協議会等の地域に密着した活動を行う組織のリーダーが、それぞれに経験・スキル・ノウハウを蓄積し、地域内のネットワークを生かして、防犯・防災、子育て支援、青少年の健全育成、高齢者支援、障害者支援や環境・緑化など、様々な分野にわたる活動を展開してきた。

その中で、特産物の生産・加工・販売等を広げていく事例、買い物難民対策と安否確認を兼ねた移動販売、地域でコミュニティバスを運営するようになった事例など、地域での「事業」の展開を目指す傾向も見られる。（参考：県民交流広場へのアンケート（H28）で、「農産加工品の販売やふれあい喫茶等によりコミュニティビジネスに取り組んでいる」と回答した地区は、549地区のうち197地区）

② NPO・中間支援組織

NPOについては、平成10年の「特定非営利活動促進法」施行以来、県内法人数が約2,200にのぼり全国第4位、また、他府県に類を見ない多様な中間支援組織（中間支援ネットワーク28団体）がその活動を展開している。

NPO・中間支援組織の中には、地域に入り込んでワークショップや、パソコン教室などの講座開催などに取り組む例もある。

今後、NPOや中間支援団体が、地域の課題解決力の強化支援に向けて、その業務を広げていく可能性も考えられる。

③ 企業

地域社会の一員として、企業が社会貢献活動に取り組む例が顕著に見られる。CSR活動（企業の地域社会への貢献活動）や、CSV（本来事業を通じて地域貢献を図っていく取組）も広がっている。企業による社会活動の特色・強みは、社員や施設などを活かして活動できること等である。一方、活動のノウハウ確保やネットワークづくりのために、地域団体やNPO等の協力を求める例が見られる。

④ 大学・学校

地域と学校の連携・協働の取組が進められている。大学等では、地域をフィールドとして、研究を進める取組も広がっている。その強みとしては、地域課題に関する実態調査や分析、研究で貢献するほか、学生の参加促進にも力を発揮できることが挙げられる。一方、活動のフィールドを確保するために、地域団体やNPOの協力を求める例が見られる。

⑤ 市町施策（生涯学習・地域づくり活動支援の充実）

生涯学習・地域づくり活動支援の施策は、各市町においてそれぞれの地域特性を踏まえて展開されており、これらが地域社会の課題解決力強化につながっていくことが期待される。

地域の課題解決力強化に向けた支援は、地方自治における補完性の原則からも、第一義的に市町が担うことが望ましい。

県の役割としては、

○ 広域的なネットワークづくり支援や情報・ノウハウの収集提

○ 専門的支援など県が担うことが効果的・効率的であるものを中心とする連携等が考えられるが、各市町における取組の経験・教訓が共有されるよう、引き続き、県も一定の役割を果たしていくことが望ましい。

（参考）県内各市町において、地域社会での課題解決を想定した施策としては、例えば、様々な分野の補助金を統合し、地域の自主的な活用の余地を拡げた「地域包括交付金」を導入している例は18市町（41市町中）、一定地域について分野を超えた総合的観点から担当者を配置する「地域担当制」を導入している例は17市町である。

2 取組の重点方向

地域力の強化を重点に、次の2点に留意して取り組んでいくことが重要である。

- ① 課題解決力：住民自ら課題を発見し、課題解決に向けて、地域の人材や資源を生かすとともに、多様な主体と協働しながら事業を展開し、住民主体で地域を運営する力
- ② 人材確保・養给力：地域において、担い手・リーダーとなる人材を発掘、地域の中でその人に合った活躍の場と機会を提供し、スキルアップを支援していく力

(1) 地域コミュニティの課題解決力を高める仕組み

① 多様な主体と協働する力 (多様な主体の協働の意義)

地域課題を解決するためには、必要に応じて専門家や、関連分野に取り組むNPO等の団体、大学・研究機関、企業・金融機関等多様な主体と協働することにより、相乗効果を実現していくこと効果的である。

(必要な時につながるができる関係づくり)

必要な時に円滑に協働するためには、日頃からゆるやかなネットワークを育んでおくことが重要であり、地域課題の広域的なフォーラム等、意見交換・ネットワークづくりの機会を増やしていくことが重要である。

○大学生とともに取り組む地域の活性化（丹波市久下地区）

県内の女子大学生で構成された「ミライの輪」と連携して地域活性化を図っている。

学生には、特産物の小豆の種まき等の農作業、収穫した小豆を使った餅つき大会、小学生と一緒に地域にちなんだカルタづくり等々様々な活動に取り組んでもらっている。

学生が企画した「久下フェスタ」は、踊りや演奏、写真撮影会などで大いに賑わい、参加者みんなが楽しんだ。



② 事業を展開する力 (事業性)

効果的に地域の課題を解決するためには、活動の収支をあらかじめ想定し、必要な資金を確保し、必要な物品、専門的な団体等への委託や専門家への謝金、アルバイトの人件費も加味して、多くの人々の力を生かすことができる「事業」として活動を展開していくことが効果的である。

(寄附・出資等による参画)

資金確保の手段としては、行政からの補助や、住民の負担金、企業協賛のみならず、独自のビジネス収入（喫茶運営、コミュニティレストラン、コミバス、6次産業等）や、地域内外に広く寄附・投資を募る手法（クラウドファンディング、ソーシャル・インパクト・ボンド（SIB）等）など、多様な手法があり、また各種起業講座等を通じて、事業展開のノウハウを共有していくことが重要である。また、寄附・出資をはじめ、社会的に認知され協働の輪を広げていくためには、評価の仕組みについて具体化・共有していくことが重要である。

地域コミュニティが主体となったビジネスの事例

①移動販売車の運営（西脇市比延地区）

西脇市内でも特に過疎化・高齢化が進む比延地区で、「人がつながり未来へつなげる比也野里づくり」をテーマに地域活性化に取り組む中、移動販売車「笑顔いっぱい比也野号」による、地域の見守りを兼ねた惣菜や日用品等の移動販売等を実施している。

笑顔いっぱい比也野号→



②コミュニティバスの自主運行

住民の交通利便のため、市町等と連携しながらコミュニティバス、デマンドタクシー等公共交通を自主的に運行する地域も増えつつある。

- ・淡河町地域振興推進協議会（神戸市淡河地区）「淡河町ゾーンバス」
- ・きよみずバス協議会（加東市鴨川地区）「きよみずバス」
- ・チクタク奥山運営協議会（豊岡市奥山地区）「チクタク奥山」
- ・NPO 法人兵庫ふるさと創成センター（淡路市興隆寺地区）「おでかけ号」
- ・山田地区外出のしづらさを地域で考える協議会（淡路市山田地区）「山田地域デマンド交通」
- ・宮区会（姫路市家島地区）「家島コミュニティバス」
- ・坊勢区会（姫路市坊勢地区）「坊勢コミュニティバス」
- ・米田地区区長会（加東市米田地区）「米田ふれあい号」
- ・上荘公共交通協議会（加古川市上荘地区）「上荘くるりん号」
- ・江川地域づくり協議会（佐用町江川地区）「江川ふれあい号」 ほか計 26 地区

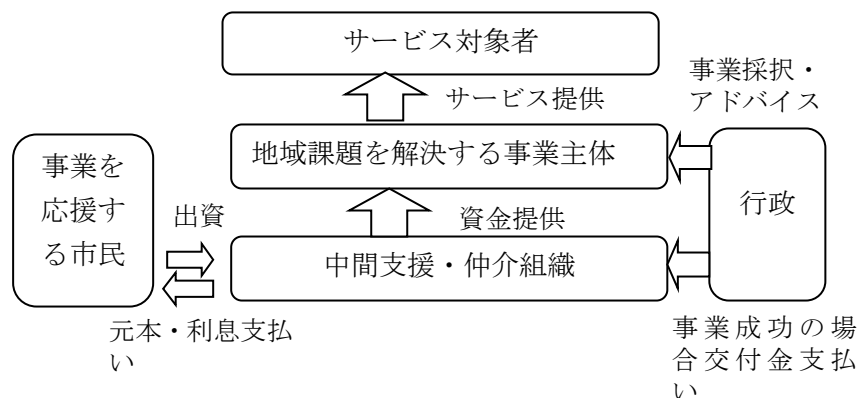
③コミュニティレストランの運営

地域の特産物や、郷土料理を活かしてコミュニティレストランを開設する例も次第に増えており、手作り作品の販売や地域の紹介の展示を併せて行うなど、地域内外の交流促進の効果を上げている例も見られる。

- ・篠山市大山地区「キッチンゆらり」（とふめし等）
- ・篠山市雲部地区「里山工房くもべ」（地元産野菜料理等）
- ・神河町川上地区「交流庵」（平家そば等）
- ・小野市小野地区「コミュニティレストラン陣屋」（地元産小麦を利用したラーメン等）
- ・小野市来住地区「ぷらっときすみの」（そば、巻き寿司等）
- ・淡路市生田地区「そばカフェ生田村」（地元産そば等）等



（参考）ソーシャル・インパクトボンドの仕組みイメージ図



③ 情報収集・発信する力 （地域メディアをつくる）

課題解決に役立つ地域資源や人材、制度等の情報を、収集・分析を行うとともに

に発信し合うことが重要である。

媒体としては、地域づくり活動情報システムやのじぎくボランティアネットの充実を図っていくほか、各地域独自のメディアづくりが期待される（回覧板のほか、地域情報紙、ホームページ、ツイッターやフェイスブックなど）。

また、地域情報から防災情報まで取り扱うケーブルテレビやコミュニティFMなどの地域に密着したメディアにおいては、SNSとの連携により若年層にもアピールしていくことが重要である。

(情報ボランティアの養成)

幅広く住民に情報提供を行うためには、情報発信する内容を編集するスタッフが必要である。スタッフとしてはボランティアのほか、インターネットで情報収集する人が増えていることから、若者の活用も考えられる。但し、効果的に発信するためには、コーディネート・ファシリテートのスキルを含め、専門家から学ぶ機会を設けるなど、常にノウハウの向上を図っていくことも重要である。

メディア活用の事例

①ケーブルテレビ「さようチャンネル」(佐用町)

住民参加型の「さようチャンネル」は、NPO法人まちかどが運営。地域の身近な情報（地域イベント、保育園・学校行事等）や行政情報、防災情報等を、住民ボランティア（まちかどリポーターとまちかどカメラマン）が制作。シニアの能力発揮、生きがいつくりにもつながっている。



まちかどリポーターによる番組制作風景

②地域情報誌「ともも」(西宮市・芦屋市)

西宮・芦屋の地域情報を発信する地域情報誌。『甲山をシンボルとした芦屋・西宮の街を、次世代にとってより豊かな街に育てていくお手伝いをする』をコンセプトに毎月1回(77,000部)発行、商店街の各店舗に設置、ポスティング等により住民に配布

(掲載情報)

- ・地域の有名人紹介（インタビュー）
- ・街のショップ情報
- ・イラストレーターによる連載漫画
- ・美術館などの催し情報 等



地域情報誌ともも

③地域ポータルサイト「神楽の郷」(丹波市神楽地区)

丹波市の地域自治組織の一つである神楽地区では、神楽地区の山林を管理する財産法人、地域づくり活動を推進するNPO法人、神楽地区自治協議会の3団体により、一般財団法人神楽自治振興協議会を設立。地域の魅力を発信し、UJIターンにつなげるため、地域ポータルサイトを開設し、住民に身近なイベント情報や、田舎暮らしに関する情報等を提供。

(発信情報)

- ・地域の魅力（自然、文化、歴史等）
- ・イベント情報
- ・都市住民向け田舎体験施設の予約受付
- ・田舎暮らし体験者の体験レポート
- ・資料館の展示情報
- ・棚田オーナーの募集情報 など



地域ポータルサイト（神楽の郷）

④ 地域を持続的に運営する力

(プロセス重視のしくみ)

多くの人々が、地域の将来像に関するビジョンを共有し、オープンなルールのもと意思決定過程に関わっていきける、いわばプロセス重視の仕組みが重要である。但し、課題やテーマにより、合意形成や協働の範囲・規模は多様であるため、地域特性を踏まえつつ弾力的な仕組みが考えられることが重要である。

また、コーディネーター、ファシリテーターの役割を地域の構成員が担うことができるよう支援・連携することも、中間支援組織等に期待される。

(必要に応じ法人化も検討)

また、専門家・団体への委託や、地域独自の収益事業など、経済活動を伴う取組を広げていくためには、経理内容・組織運営ルールの透明化や、責任の所在の明確化が必要であり、法人化（又は事業別の法人を設立）することが望まれる。

○地域の組織をNPO等の法人化した事例

西宮市瓦木・深津地区	特定非営利活動法人 人と地域の活動応援団ぽっかぽか
尼崎市神崎・浜第1地区	特定非営利活動法人 スマイルひろば
姫路市網干・網干西地区	特定非営利活動法人 あぼしまちコミュニケーション
相生市相生地区	特定非営利活動法人 あいあいひろば
丹波市神楽地区	一般財団法人 神楽自治振興会
篠山市雲部地区	合同会社 里山工房くもべ 等

(2) 地域コミュニティの人材確保・養成力を高める仕組み

① できる時にできる方法で関わる仕組み

(それぞれの人に合った参加ができる工夫)

より多くの人々が、地域のための活動に関わり、多彩な個性や能力、経験を活かすためには、開かれた活動参加の仕組みを構築することが重要である。

時間がないなどの理由から、これまで地域づくり活動への関わりが希薄であった人々が参加しやすいよう、個々のライフサイクルやライフステージに応じたゆるやかな関わり方ができる事業実施に配慮することが重要であり、そのためのノウハウが共有される機会づくりが重要である。

※1 地域活動に参加しにくい・しない理由 (出典：H28 県民意識調査)

仕事や学校が忙しく、時間がなかったから	41.3%
いつ、どんな活動をしているのかわからなかったから	36.0%
一緒に参加する知人や友人がいなかったから	23.2%
参加したい地域活動がなかったから	18.2%
子育てや家事等が忙しく、時間が無かったから	13.8%

※2 ちょボラ

「ちょっとしたボランティア」の略、ボランティア団体に入ったり、被災地に行く等大がかりなものだけでなく、福祉施設で歌う、絵手紙づくりの指導、車椅子の人の買い物手伝いなど、できること、得意なことを生かして、短時間でも活動すること。

※3 プロボノ

職業を通じて培った知識、スキル、経験を活かして社会貢献するボランティア活動。弁護士などの法律の専門家をはじめとする、いわゆる「士業」のほか、企業の経理や金融機関での審査、理容・美容、造園等、様々な専門性が地域づくりの場で生きる可能性がある。

② 参加・スキルアップのきっかけづくり (地域に参加するきっかけを充実させる)

集合住宅・住宅地の入居説明会で自治会やまちづくり協議会が出向いて地域への参加についてのガイダンスを行ったり、PTAに加入した若い世帯に地域の課題解決に関する取組への参加を呼びかけること、趣味の活動ではじまったグループが得意なテーマについてのワンコインでの講座を開くことを奨励するなど、様々な機械をとらえて、地域づくり活動に参加し活動の幅を広げていくことができる環境づくりが重要である。

(生涯にわたる「学び直し」の機会)

人生 100 年時代とも言われる中、教育機関で学んだ後で職業に就くだけでなく、ワークライフバランスの中で地域づくり活動にも一定の割合で取り組むライフスタイルや、就業・地域づくり活動を行いながら生涯にわたり学び職業や活動に生かしていく考え方(リカレント教育)がますます重要となっており、各種学習支援機関や実践活動団体の連携による様々な選択肢提示や、就業・地域づくり活動の展開に役立つ仕組みの充実を図っていくことが重要である。

(主体的な学びの支援)

各種学習の講座は、一方的な「講義」ではなく、能動的に仲間と一緒に学んだり、現場体験・試行錯誤を重ねる中で、既に持っている価値観、知識・技能と統合され活かした知恵となる。すなわち、主体性・働きかける力・実行する力を持ち、創造的に考え、チームで動くための情報発信・傾聴・柔軟な思考力を養い、地域課題解決にあたる人材としての能力を高めていくことにつながる。これらを踏まえ、各種人材養成講座の充実を図っていくことが望まれる。

(活動のキーパーソンとつながる機会充実)

既に活動に携わり、第一線で活躍している人たちとの意見交換や情報交換を通じて、活動意欲の喚起を図るとともに、自らの活動や独自のネットワークをステップアップしていくことが重要である。地域団体、NPO、社会貢献企業、研究者・専門家や各種講座の受講者OB等と交流し、意見交換・情報交換できる機会の充実が重要である。

③ 若者がチャレンジできる機会や雰囲気 (若者の発想やエネルギーを生かす)

中学生・高校生が災害時に地域を守る担い手として期待されるなど、次代を担う若者が地域づくり活動の担い手として成長する取組を進めることが重要である。また、若者の柔軟な発想や、若者が主体となった活動の展開は、地域に新たな魅力を付加するとともに、多様な年齢層をつなぐ可能性を持つ。

(若者が成長して行くための工夫)

地域の中で若者の役割・居場所をつくるため、地域の祭りや行事など、活動への参画機会を提供し、達成感を感じさせること、そして次第に地域の中で重要な役割を担うようになりリーダーとして育っていくように、見守っていくノウハウを蓄積していくことが重要である。また、シチズンシップ教育や、若者が地域で役割を担うことを推進するために、教育委員会・学校との連携も重要である。

○若者が活躍している地域づくり活動（ふるさとづくり青年隊事業の事例から）

- ・万葉の里・猪名寺忍者学校（尼崎市）：忍たま乱太郎にちなみ小学校1～4年生を対象に忍者学校を開設。活動を通じてふるさと意識を醸成
- ・龍野城下町むかしみらい地図づくりプロジェクト（たつの市）：ICT ツール（QR コード、WEB 記事等）を効果的に活用し、地域住民・観光客など幅広い層へ情報発信
- ・伊丹ダンスバル（伊丹市）：「ストリートダンス世界大会のアジア予選」を伊丹で開催、県外及び海外からの集客を促進
- ・家島の PR を兼ねた特産品販売の仕組みづくり（姫路市）：若者の感性を活かして家島のお土産・特産品開発。販売の仕組みづくり
- ・あけのべ・ふるさとづくりプロジェクト（養父市）：「一円電車体験乗車会」、「一円電車まつり」などと連携しながら、イベントの支援、交流拠点の整備、おもてなしできる名物料理の開発等

④ 何かしたい時に気軽に立ち寄れる拠点

（地域のヒト・コト・モノをつなぐ機能）

地域の集会所、公民館、コミュニティセンター等は、情報やネットワークが集まる場所となり、何かしたいときに立ち寄る場、日頃からの意見交換・熟議の場、交流の場となるだけでなく、地域でどんな活動がなされているか。どのような課題があるか、どのような主体と連携すればよいか等がわかる、いわば玄関口としての機能や、ヒト・コト・モノの新たな協働を生み出す場となりうる。

（様々な活動に役立つ拠点機能）

さらには、図書、展示設備、印刷機器、映像機器、ICT機器、健康づくり機器、音楽・パフォーマンス用舞台、講座・セミナー用の音響機器、ワークショップや打合せに使えるテーブル等、活動の展開に役立つ機能を備えることで、地域の学習、実践、情報収集・発信の基地としてさらに充実していくことができる。

（公共空間の活用）

上記のような機能を持つ拠点として、集会所、公民館、コミュニティセンター等の活用はもとより、ショッピングモールなど商業施設の空きスペースや使われなくなった余裕教室・廃校、旧庁舎等を活用することが考えられる。

（拠点運営のルールづくり）

多くの人が使えるようなルールを話し合い、公平な運営をしていくことが望ましい。管理運営にあたるボランティアが常駐する仕組みをつくるなど工夫していくことが必要である。

（地域づくりの事務局機能の強化）

加えて、更なる地域力強化に向けては、それらの拠点間のネットワーク化や情報収集発信等、地域課題解決に向けた地域の事務局機能を強化していくことが望まれる。

（拠点間のネットワーク）

身近な地域の拠点が相互につながり、情報交換し、機能をステップアップするとともに、広域的な取組へのニーズにも応えられるよう、拠点間のネットワークが重要である。

3 施策展開の考え方

(前提となる“ふるさと意識”醸成)

地域の課題解決力強化や、人材の確保・養成も、第10期で提言した“ふるさと意識”即ち、地域への愛着と誇り、帰属意識の醸成が前提となる。

ーふるさと意識の地域像ー

- ・多くの人が地域の魅力を知っている
(自然・文化・社会体験機会、地域資源の発掘・再発見の取組み等)
- ・多くの人が地域の課題をわがこととして感じている
(防犯、防災、青少年育成、環境・緑化、消費者問題、交通安全等)
- ・人と人のつながりが豊か
(信頼、互酬性の規範、緩やかなネットワーク、多様な価値観・個性の受け入れ) 等

(既存施策の再構築と新たな取組)

これまでも、様々な地域づくり施策を展開してきた。これらを効果的に活用し、地域課題解決力の強化・人材確保及び養成につなぐ主体は第一に地域社会の担い手である住民である。住民主体の取組の中で十分効果を発揮するように、施策のあり方を見直すとともに、これまでの発想にとらわれない施策展開を図っていくことが重要である。

関連施策

多様な主体の協働推進

- ・地域づくり活動応援事業
- ・中間支援活動助成
- ・地域活動コーディネーターによる支援
- ・専門家・アドバイザーの紹介
- ・参画協働フォーラム
- ・地域づくり活動ネットワーク会議 等

事業展開の支援

- ・地域での起業に関する支援
コミュニティ・ビジネス等総合支援事業、高齢者コミュニティ・ビジネス離陸応援事業、女性起業家支援事業、若手起業家支援事業
- ・生きがいしごとサポートセンター
- ・地域づくり活動情報システムによる情報提供
- ・寄附・投資による地域づくり活動支援の推進 等

情報収集・発信支援

- ・地域づくり活動情報システムの運営 (再掲)
- ・「のじぎくボランティアネット」の運営 等

地域の持続的運営支援

- ・専門家・アドバイザーの紹介
- ・地域運営組織法人化支援 等

ちょボラ・プロボノ等多様な関わり方提案

- ・参画と協働ガイドブックの活用 等

交流機会・学習機会・活動機会充実

- ・ふるさとひょうご創生塾
- ・先導的な人材養成手法の検討
- ・各種人材養成講座の実施
- ・参画協働フォーラム (再掲)
- ・地域づくりネットワーク会議 (再掲) 等

若者のチャレンジ支援

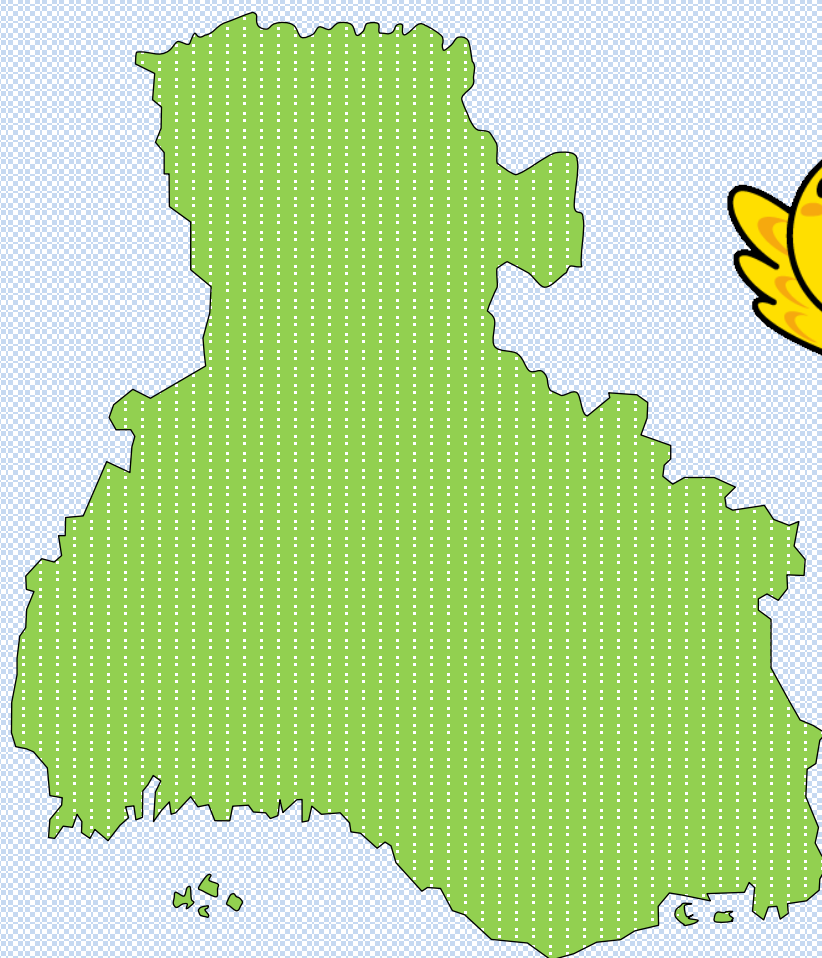
- ・ふるさとづくり青年隊
- ・若手起業家支援事業 (再掲) 等

拠点の充実支援

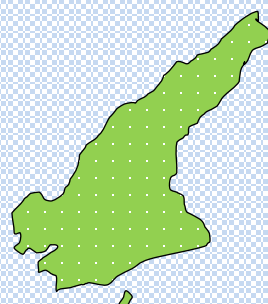
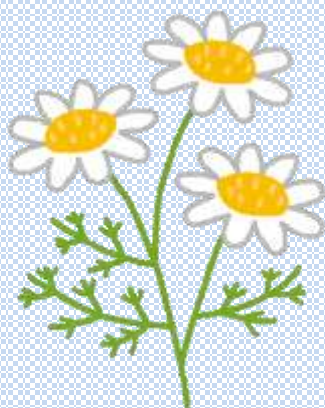
- ・県民交流広場を活用した地域力の強化
- ・参画と協働ガイドブックの活用 (再掲) 等

みんなが主役 “ふるさと兵庫”

平成29年度 参画と協働関連施策の年次報告



兵庫県マスコット はばタン



平成30年7月
兵 庫 県

～ 目 次 ～

I 「参画と協働」とは	1
II 参画と協働関連施策の推進状況	2
1 地域づくり活動の支援	3
① 情報提供・相談体制整備	3
② 知識・技能の習得機会提供	6
③ 活動・交流拠点確保	8
④ 人材確保	10
⑤ 資金調達支援	12
⑥ 連携支援	14
2 県行政への参画と協働の推進	15
① 情報公開の推進	15
② 政策形成への参画機会確保	15
③ 協働事業の機会確保	16
④ 評価・検証への参画機会確保	17
[参考]	
1 県民の参画と協働の推進に関する条例	18
2 市町の実施状況	19

資料編（別冊）

※ 全施策の概要については、資料編（別冊）をご参照ください

I 参画と協働とは

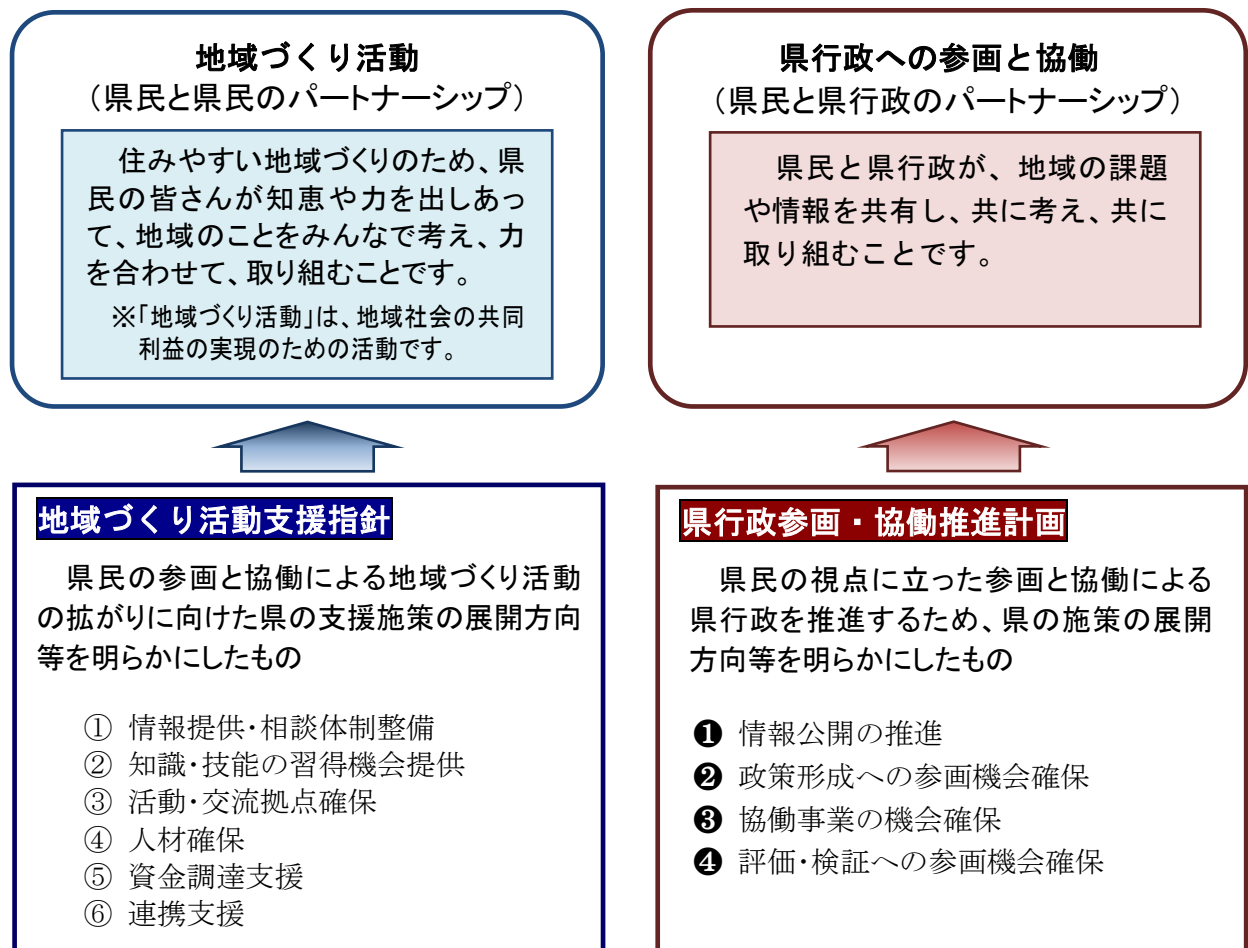
「参画と協働」とは、わたしたち一人ひとりが、自分たちの地域を住みやすくするために、知恵やアイデアを出し合い、みんなで力を合わせて地域の課題解決に主体的に取り組んでいくことです。少子高齢化や人口減少が進み、地域課題が複雑・多様化する中、地域創生の取組をはじめ、元気で豊かな地域社会を築いていくためには、「参画と協働」が欠かせません。

兵庫県は、今後とも社会の変化を的確に捉え、常に時代の先を見据えた地域づくりを進めていくため、「参画と協働」を基本姿勢とする県政を展開していきます。

〇県民の参画と協働の推進に関する条例

兵庫県では、県民の地域づくり活動や県行政への参画と協働を促進するため、参画と協働のあり方や基本理念等を明らかにした「県民の参画と協働の推進に関する条例（以下「参画・協働条例」という。）」を平成 15 年 4 月から施行しています。

〔参画と協働の2つの場面〕



〇参画と協働関連施策の年次報告

参画と協働の推進に関する兵庫県の取組状況を、県民の皆さんにお伝えするとともに、これからの取組について考えるきっかけとなるよう、参画・協働条例第 11 条の規定に基づく年次報告を作成しています。

年次報告を参考に、自治会、婦人会等の地域団体、ボランティアグループ、NPO 法人、企業、学校など、様々な活動主体が「参画と協働」の考え方を共有し、明日の兵庫づくりに向けた取組の輪が広がっていくことを期待しています。

II 参画と協働関連施策の推進状況

平成 29 年度も、県民の参画と協働を推進するため、620 施策を実施しました。

○地域づくり活動の支援については、地域創生や県政 150 周年プレ事業など 440 施策を実施。事業分野別では、「まちづくり」が 149 施策（34%）と最も多く、「環境保全」が 51 施策（12%）、「農山漁村振興」が 39 施策（9%）の順となっています。

○県行政への参画と協働の推進については、①情報公開の推進、②政策形成への参画機会の確保、③協働事業の機会確保など 180 施策を実施しました。



<分野別の施策数>

■地域づくり活動の支援に関する施策

項 目	施策数
① 情報提供・相談体制整備 *地域づくり活動に関する情報をわかりやすく提供 *活動の段階に応じた幅広い相談に対応	47
② 知識・技能の習得機会提供 *実践活動につながる知識や技能の学習機会を充実	71
③ 活動・交流拠点確保 *身近な活動拠点や地域の「たまり場」づくりを支援	39
④ 人材確保 *活動に参画・協賛する人材を確保 *活動団体の担い手を確保 *地域活動に取り組む多様な主体を育成	194
⑤ 資金調達支援 *活動の立ち上げと自立に向けた財政的支援を実施 *活動資金を生み出す仕組みづくりを支援	15
⑥ 連携支援 *人や活動のネットワーク形成 *地域を越えた連携・交流を促進	74
合 計	440

■県行政への参画と協働を推進する施策

項 目	施策数
① 情報公開の推進 *主体的に選択できる情報を提供	16
② 政策形成への参画機会確保 *県民提案の具体的な取組の推進 *審議会などへの県民の参画機会の拡充	24
③ 協働事業の機会確保 *公民協働の取組の拡充	128
④ 評価・検証への参画機会確保 *県行政の評価・検証への県民参画の促進	12
合 計	180

1 地域づくり活動の支援

県では、県民の主体的な地域づくり活動を広げ、支えるための多様な支援施策を実施しました。これらの中から、平成 29 年度の主な取組事例を紹介します。

1 情報提供・相談体制整備

情報提供の充実

若者層を中心に ICT 利活用が普及する一方で、「地域づくりに参加しない理由」として、多くの人が「どんな活動があるのかわからない」を挙げるなど、効果的な情報発信が課題となっています。

そこで、若者目線でのひょうごのイメージづくりと魅力発信の取組をはじめ、即時性、拡散性を生かしたインターネット、SNS 等多様な媒体を活用し、地域創生に関する情報や地域づくり活動に役立つ情報を発信しました。

【SNS 利用率】10 代～60 代 71.2%、20 代 97.7% (情報通信白書・総務省(H29))

【地域づくりに参加しない、しにくい理由】

・情報不足 36.0%[2 位] (県民意識調査「参画と協働による兵庫のふるさとづくり」(H26))

【活動を展開する上での課題】

・情報不足、情報不足等による活動のマンネリ化 57% (県民交流広場アンケート(H28))

地域創生ユースチームによる魅力発信事業 (新規)

35 歳以下の行政職員、大学生、IT 企業関係者等で結成する「地域創生ユースチーム」を結成し、若者目線でひょうごのイメージづくりと魅力を発信

平成 30 年度の本格活動に向け、チームを 6 グループに分け、企画案を策定

〔主な企画案〕

- ・若者が興味を持って参加するアウトドアイベントの開催
- ・若者が兵庫の良さを発信する仕組みづくり
- ・住民の地域への愛着を育むきっかけとなる仕掛けの提案



講師による企画案へのアドバイス

『ひょうご五国の地域創生』の広報展開

各種メディアを活用し、他府県との差別化を図りつつ、年齢層・地域ごとの PR を行い、地域間交流等を通じて兵庫県への移住・定住に直結する広報を重点的に展開

また「ひょうご博覧会 in 大阪」を開催し、兵庫県の魅力を発信

○メディアを活用した交流促進

①地域創生インスタグラム

(https://www.instagram.com/love_hyogo/)

[フォロワー約 8,500 人、いいね件数約 1,000 件]

・フォロワーによるオフラインミーティングの開催

②マスメディアの取材誘致 (地域創生版ファミトリップ等)

③フリーペーパー・WEB 等広告掲載

(若者向け) WEB 広告、フリーペーパーによる大学 PR

(ファミリー層向け) 各戸配布型新聞広告

(シニア層向け) ラジオパーソナリティによる五国 PR、新聞広告



Instagramに掲載した
芦屋市のスイーツ



Instagramに掲載した
朝来市の虎臥城大橋

○兵庫県政 150 周年イベント「ひょうご博覧会 in 大阪 2017」の開催

毎日放送とタイアップし、兵庫五国の「食」「文化」「暮らし」の魅力を発信

- ・ブース展示：兵庫五国の食、伝統文化を発信（47 ブース）
- ・ステージ：淡路人形浄瑠璃「戎舞」等

〔会場：ちゃやまちプラザ（大阪市北区） 11/11～11/12
参加者 約 5 万人〕



ひょうご博覧会 in 大阪 2017

Facebook、Twitter、メールマガジン等を活用した情報提供

地域づくり活動等に関する情報を SNS 等を通じて発信

【実施件数】 Facebook 71 件、Twitter 20 件、LINE 3 件、Instagram 1 件

※地域づくり活動に関する情報については以下の URL を参照

https://web.pref.hyogo.lg.jp/jouhou/mm_twitter_blog/index.html



相談体制の充実

人口減少対策に関しては、移住・定住の効果的な推進にあたり、移住したいと思う条件として、移住する人に対する自治体の支援が重視されています。

そこで、兵庫県への移住を考えている人や県内で活躍したいと考えている人に、先輩移住者等の協力を得て県内の魅力発信や、相談支援体制の充実を図りました。

【地方へ移住する条件】

- ・移住に必要な情報提供などの自治体の支援があること 35.3%
(人口、経済社会等の日本の将来像に関する世論調査・内閣府(H26))

地域さがしの旅キャンペーン（新規）

兵庫県への移住（UJI ターン）の希望者等に対し、県内各地の職・住・遊の魅力に直接触れ、本県の暮らしやすさ、働きやすさを体感する機会を提供するためのバスツアーを開催

各行程において、市町、地域おこし協力隊、先輩移住者、ガイドボランティア等の協力を得て県内の魅力発信を行い、ガイドブックにはない兵庫県の魅力に多数触れ、移住を検討するきっかけとなったとの感想多数



先輩移住者との交流会

〔取組例〕

- ・魅力体感型ツアー（東京発：播磨・但馬コース／丹波・淡路コース）：44 人参加
- ・新名神高速道路開通記念バスツアー（大阪発・2 台）：77 人参加

カムバックひょうご促進事業

兵庫県への移住（UJI ターン）を促進するため、東京・神戸のカムバックひょうごセンターにおいて、ハローワークやひょうご住まいサポートセンターと連携し、移住に必要な様々な相談を総合的に実施

- ・カムバックひょうごセンターでの移住相談：
窓口相談 652 人/年、イベント相談 3,866 人/年
- ・就農/就職セミナー、移住相談会等への出展：39 回/年
- ・移住者数：48 人（H28.1～）

※「カムバックひょうごセンター」Facebook
<https://www.facebook.com/comebackhyogo/>

※「カムバックひょうごポータルサイト」
<https://www.comebackhyogo.com/>



ハローワークと連携した移住セミナー
（カムバックひょうご東京センター）

平成 30 年 7 月 12 日に兵庫県は成立 150 周年を迎えます。この節目を、これまでの歩みを振り返り、これからの兵庫を考える契機として生かしていきます。

そこで、県政 150 周年の機運を盛り上げるため、イベントを開催。多くの県民の皆さんが地域の魅力を再発見し、交流の輪を拓げる契機となりました。

県政 150 周年記念プレフェスタの開催（新規）

兵庫県が成立して 150 周年の節目を迎えるのに先立ち、兵庫の歩みを振り返り、また未来の兵庫を考える機会とするため、プレフェスタを開催

- ・「未来に残したい地域のお宝」「兵庫の未来の姿」をテーマにした小学生作文・図画コンクール表彰式を開催
- ・「五国を味わおう！」ブースで、五国の名産品、スイーツ、日本酒等の販売
- ・まんが「ひょうごの歴史」作成のデモンストレーション 等
〔会場：神戸ハーバーランド スペースシアター
11/23 約 2 万人参加〕



小学生作文・図画コンクール表彰式



スーパーキッズオーケストラによる演奏

県政 150 周年記念県民連携事業（新規）

県内の地域団体、NPO 法人、ボランティア団体等が「五国の魅力を磨く」、「交流の輪を拓げる」、「兵庫の未来を創る」といったテーマのもとで企画・実施する様々な取組を支援

〔実施件数〕 234 件（H30.1～3）

〔取組例〕

- ・神戸海軍操練所をテーマとした演劇を上演
- ・ひょうご食材でつくる！美♥ランチレシピ
- ・中播磨地域資源かるた作成事業
- ・ジオパーク再認定に向けた住民学習会
- ・あわじしまマルシェの開催～地元食材や手仕事を学ぶ～



神戸海軍操練所がテーマの演劇

※県政 150 周年事業 URL <http://www.hyogo150.jp/>



中播磨地域資源かるた

県政 150 周年に向けた情報発信（新規）

県政 150 周年にあたり、様々な催しにおいて、VR（仮想現実）技術で再現した 150 年前の初代兵庫県庁舎へタイムスリップするような体験の場を提供し、県政への親しみを深めるなど、県政 150 周年をアピール

県政 150 周年 1 年前記念シンポジウム、ふれあいの祭典等にて VR 体験コーナーを設置（計 12 日出展）



VR 体験

2 知識・技能の習得機会提供

地域の魅力や課題を学ぶ

地域創生を実現する上で、ふるさとを愛する心を育てることが、参画と協働による地域づくりの推進力になります。

そこで、多様な世代が地域の魅力や課題について学び、ふるさとへの想いを高める取組を各地域で幅広く展開することにより、ふるさと意識の共有につなげました。

【住んでいる地域に愛着や誇りを感じる人の割合】 68.3% (兵庫のゆたかさ指標 (H29))

【郷土の自然や文化などの感動体験を通して、ふるさとを愛する心を育てることがこれからの兵庫を担う人づくりのために大切だと思う人の割合】 40.7% (県民意識調査 (H29))

シニア世代から子育て世帯へのふるさとと伝承事業の実施 (新規)

シニア世代と子育て世帯が交流する機会を増やし、地域での一体感やきずなを深めるとともに、地域の伝統を再認識し、愛着心や誇りを育み、子どもや子育て世帯のふるさとへの想いを高める取組を支援

【実績】 実施地区 19 地区、実施団体 17 団体、実施テーマ 19

【取組例】 伝統食、季節食 (県産アナゴの節分恵方巻づくり)、昔遊び、伝統行事・歴史を学ぶ

【具体の取組】

季節の行事の体験や郷土料理を学ぶ：赤穂市地域活動連絡協議会

地元の製塩企業と連携して、特産の塩を使った「鯛の塩釜蒸し」などの郷土料理の調理を体験し、併せて塩田等の歴史も学ぶ取組を実施
また、地元大学の学生や義士祭とも連携して事業を実施



活動拠点の様子

伝統文化の学びの充実事業

伝統文化に関する学習を充実するため、モデル校を指定し、指導方法や地域の人材とともに取り組む方法について、実践研究と成果の普及・啓発を推進

また、県政 150 周年記念事業の一環として、「伝統文化の学びの充実事業全県発表会」を開催

【モデル校】 12 か所 (小・中学校対象)

【取組例】 ざんざか踊り、手漉き和紙「杉原紙」、淡路人形浄瑠璃、狂言発表会、デカンショ節、相生ペーロン等

【具体の取組】

相生ペーロンの学習：相生市立中央小学校 (相生市)

ペーロン体験乗船に加え「相生ペーロン」の歴史を専門家から直接教わることで、地域の人々の願いや思いに直に触れ、ペーロン文化についての理解を深め、地域への愛着を醸成



ペーロン体験乗船

県民局・県民センターにおける多彩な事業への参画機会の提供

各地域の歴史、文化、自然等で十分知られていない地域の魅力を学ぶ機会を提供

○ミュージアムロードを核とした地域活性化の推進〔神戸〕

ミュージアムロードとその周辺地域の活性化のため、周辺の文化施設や地域団体等と連携し、賑わい創出活動を支援 (県政 150 周年神戸開港 150 年 H A T ミュージックレガッタフェスティバル 10/15 約 800 人参加)



県政 150 周年神戸開港 150 周年 HAT
ミュージックレガッタフェスティバル

○尼崎の森ファミリークラブ植樹会の実施〔阪神南〕

長期にわたる森づくり活動（植樹・除草・間伐）を子どもの成長とともに家族で体験することにより、森への愛着、家族愛、ふるさと意識を醸成するとともに、森づくりの担い手を養成

（11/12～12/9 計 117 人参加）



植樹会

○「北摂里山博物館（地域まるごとミュージアム）」構想の推進〔阪神北〕

「新宮晋 風のミュージアム」水上ステージにて野外イベントを開催。「北摂里山博物館」構想のシンボルとして、有馬富士公園の新たな魅力を情報発信し、公園の活性化を促進

・薪能「第二回 風の能」（4/28 約 500 人参加）



第二回 風の能

○いなみ野ため池ミュージアムの推進〔東播磨〕

地域の特徴である水辺空間を“守り・活かし・次代に継承”するため、ため池保全活動等を実施

・漁業者と農業者が連携した、ため池保全・海辺保全（2回、計 110 人参加）

・ため池保全活動の実施

（350 回実施、計 23 万 8 千人参加）



里海連携で池の栄養を流す様子

○高校生による北播磨地産地消活動の推進〔北播磨〕

地産地消に積極的に取り組む管内の高校生が実施する特産物の加工品開発や販売実習、高校生レストランを支援し、斬新な若者の視点で北播磨の「農」と「食」の魅力を発信（味付け播州百日どりの開発等）



高校生が開発した商品を対面販売

○銀の馬車道プロジェクトの推進〔中播磨〕

銀の馬車道ネットワーク協議会が主体となって銀の馬車道をPR

・日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」ジオラマ製作

・絶景フォトコンクール（応募 47 点）

・人情喜劇公演（500 人参加）

・国内外の人々をおもてなしするため飲食店・宿泊施設の従業員向け講習会等開催を支援（7回）

・インバウンド向けに銀の馬車道プロモーション動画（英仏語）製作



「銀の馬車道・鉱石の道」ジオラマ

○西播磨フロンティア祭 2017 の開催〔西播磨〕

播磨科学公園都市の賑わい創出、地域の活性化と連携・交流の促進を図るため西 108 播磨フロンティア祭を開催（平成 29 年 4 月 29 日 約 1 万 8 千人参加）

・第 16 回出る杭大会（59 団体）

・西播磨ふるさとバザール（45 団体）

・第 6 回イケ麺グランプリ in 西播磨（16 団体）



西播磨フロンティア祭 2017

・親子ふれあいキッズランド、安全・安心コーナー

○山陰海岸ジオパーク活動の推進〔但馬〕

山陰海岸ジオパーク推進協議会が中心となり、ジオパークの普及啓発やジオパークの素材を活かした地域づくり事業を展開（ビジネス創出支援事業 10 件、ジオパークガイド魅力向上支援事業 11 件、ジオパークを守る活動への補助 15 件）



ビジネス創出支援事業

○学生等による地域貢献活動推進事業〔丹波〕

丹波地域で大学のフィールドワーク等に参加した経験のある学生が、自治会などの地域団体と連携し、地域の祭りや農作業の手伝い、放置竹林の整備と獣害対策等に取り組み、地域活性化を推進（累計 16 地区 9 大学、学生団体 36）



ライトアップイベント
（かいばららいと）の運営に協力

○「国生みの島」発信事業～松帆銅鐸～〔淡路〕

「松帆銅鐸」の発見を契機に全国へ「国生みの島」淡路島を発信するとともに、島民のふるさと意識の醸成を図るため、銅鐸復元品の島内全中学校（17 校）への巡回展示、文化施設等での常設展示及び銅鐸イベント（南あわじ市と共同）を実施



中学校での銅鐸復元品の展示

3 活動・交流拠点確保

🍌 地域の活動・交流拠点づくりを支援

空き家をはじめ農山漁村や中心市街地の遊休施設を有効に活用することにより、地域のつながりや活力の維持増進を図っていくことが期待されます。

そこで、それらを活用した活動・交流拠点づくりを支援するとともに、拠点のネットワーク化を推進しました。

【県内公民館数】 326（教育委員会調べ（H27 年度末））

【県内廃校数】 197（H14～H27）、【余裕教室数】 4, 466（H29）（文部科学省調べ）

【県内空き家数】 357 千戸（住宅・土地統計調査（H25））

古民家再生促進支援事業の実施

古民家を地域の活性化につながる地域交流施設等に再生する場合、改修費を補助

〔実績〕 3 件

〔取組例〕

- ・ コワーキングスペースを有する施設として活用（洲本市）
- ・ 地域食材を中心とした食事を提供する農家食堂、マルシェとして活用（神戸市）
- ・ 地域産品を提供する飲食店として活用（南あわじ市）

【具体の取組】

コワーキングスペースを有する施設として活用（洲本市）

三熊山の麓、往時の城下町の街並みを今に伝える本町にある商家を、設、地域づくり担い手発掘・育成のためのコワーキングスペース等に再活用



建物の外観

商店街新規出店・開業等支援事業の実施

商店街の空き店舗への新規出店・開業や、子育て・高齢者支援等の地域交流・生活支援施設の設置運営等を支援し、商店街の魅力向上と活性化・コミュニティ機能強化を促進する取組に加え、若者・女性チャレンジ枠を拡充し、幅広い世代の参画を推進

○空き店舗再生支援事業（13件）

読書会やワークショップを行う古書店、気軽に通える蕎麦教室等

【具体の取組】

新しい「本」や「人」との出会いを楽しめる古書店：

古書 みつづみ書房（伊丹市）

従来の古書店のイメージにはない、読書スペース、喫茶スペースを設け、「本好き」でなくても利用しやすい雰囲気を作る。読書会やトークイベント、ワークショップを開催し、会話や議論 楽しんだり、新しい「本」と「人」との出会いを楽しめる古書店



トークイベント

「子ども食堂」応援プロジェクト

経済的な理由等により食事が十分にとれていない貧困家庭等の子どもたちに、空き店舗や公民館等を活用し、温かい食事を提供する「子ども食堂」の立ち上げ経費を補助

【実績】13団体

【具体の取組】

「食育」と「学習支援」：さくらCafé（神戸市）

地域の福祉力により、地域の子どもたちを地域で見守り・育てることを目指し、山手さくら苑、神戸親和女子大学、地域住民等が連携して開催

単に食事を提供するだけでなく、「食育」と「学習支援」も目的とし、食事の作法や食文化の知識の習得、栄養バランスが優れた「日本型食生活」等の実践を促進

生活創造センター・文化会館等の運営

多様な分野にわたる県民の活動の拠点施設として、生活創造センターや文化会館等を運営し、生涯学習・地域づくり活動を支援するとともに、市町の市民活動センター、生涯学習センター、公民館等のネットワーク化への取組を推進

（単位：万人）

施設名	場 所	指定管理者	利用者数	取組例
神戸生活創造センター	神戸市中央区	大阪ガスビジネスクリエイト(株)	12.3	グループ・団体との連携事業展開
東播磨生活創造センター	加古川市加古川町	(特) シミンズシーズ	24.0	ボランティアスタッフによる事業企画運営
丹波の森公苑	丹波市柏原町	(公財) 兵庫丹波の森協会	23.8	里山ボランティア、シェーベルティアード
但馬文教府	豊岡市妙楽寺	(公財) 兵庫県生きがい創造協会	6.9	但馬文庫、科学チャレンジ2017
西播磨文化会館	たつの市新宮町		9.5	播州段文音頭伝承
淡路文化会館	淡路市多賀		5.4	人形浄瑠璃伝承
嬉野台生涯教育センター	加東市下久米		15.4	野外活動体験・リーダー養成、HAP

4 人材確保

シニア、若者、女性をはじめとする全ての世代の活躍推進

高齢者がこれまで培ってきた知識や技能を生かし、将来の後継者となる若者が活躍し、女性が持てる力を発揮するなど、全ての人それぞれのライフステージで社会を支える主人公になることが期待されます。

そこで、活動の機会づくりや就業促進等に取り組みました。

【住んでいる地域の活動に参加している人・したい人の割合】 36.5% (兵庫のゆたかさ指標 (H29))
【50歳以上が中心となっているボランティア活動団体】 85.1% (県民ボランティア活動実態調査 (H26))
【34歳以下が中心となっているボランティア活動団体】 2.7% (〃)
【女性が中心となっているボランティア活動団体】 64.3% (〃)

地域祖父母モデル事業

子育て支援に携わりたいというシニア世帯が、支援を受けたい子育て世帯に対して祖父母のように日常的に行う見守りや相談、緊急時の一時預かり等を通じ、地域における三世代家族の育成、地域全体で安心して子育てができる環境づくりを推進

○「子育て世帯」と「シニア世帯」との信頼関係を築くための交流事業

【実施地区】 40 地区 (神戸 10 地区、阪神南 16 地区、阪神北 5 地区、中播磨 7 地区、淡路 2 地区)

【実施団体】 16 団体

【取組実績】 マッチング数 457 組

〈1対1 (在宅) : 10 組、1対1 (拠点) : 57 組、複数 (拠点) : 390 組〉

【取組例】

- ・シニア世帯と子育て世帯との交流事業を重ね、信頼関係を構築 (交流事業 : 室内遊戯、歌遊び、お菓子づくり、散歩遠足、クリスマス会、餅つきなど)
- ・一時預かり、保育所等への送迎、子育て相談などを実施

【具体の取組】

児童ホームを拠点とした交流 : NPO 法人シンフォニー (尼崎市)

団体が運営する児童ホームを拠点に、親が迎えに来るまでの一時預かりを実施するほか、子育て世帯に対する、シニア世代の知識・経験を活かした学びの場を通じた交流を実施



シニア世代による子育て世帯との交流

ふるさとづくり青年隊の支援

地域の青年が地域外の青年と協力し、地域の課題解決や地域活性化に取り組む活動を支援

【実施件数】 9 件

【具体の取組】

万葉の里・猪名寺忍者学校 : 猪名寺自治会 (尼崎市)

「地域の子は地域で育てる」を合い言葉に猪名寺の忍者 (忍たま乱太郎) を礎として、小学校 1~4 年生を対象に地元青年と忍者学校を開催



万葉の里 猪名寺忍者学校

※ふるさとづくり青年隊 URL <http://www.seishonen.or.jp/business/category/senku/>

◆「地域おこし協力隊」の活動

都市から過疎地域等の条件不利地域に生活の拠点を移した人が、概ね1～3年、地域協力活動（地域おこし支援や農林水産業への従事、住民の生活支援など）を行いながら、その地域への定住・定着を目指す取組（隊員の約7割が20～30歳代）

〔県内隊員数〕113人（16市町）

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/02gyousei08_03000066.html

女性起業家支援事業

地域経済の活性化を図るため、有望なビジネスプランを有し、県内で起業を目指す女性起業家等を支援

〔実績〕補助件数 45件（申請件数 196件）

【具体の取組】

「コウノトリ育むお米」を活用したスイーツ

：ULURU BAUM LABO（豊岡市）

「コウノトリ育むお米」の米粉を使い、伝統の直火一本焼きにこだわったバウムクーヘンの製造・販売。秘伝のレシピを受け継いだしつとりのど越しの良い商品を提供



地元食材を用いたバウムクーヘン

ひょうごで輝く女性農業者の活躍促進（新規）

農業分野での若い女性の就業を促進するため、都市部等の若い女性へのPRや農業体験、就業相談・セミナー等を実施するとともに、地域での交流や相互研鑽を支援

〔取組実績〕

- ・女性農業者向けの就農セミナー相談（2回実施、セミナー38人、相談20人参加）
- ・活躍する女性農業者を紹介する『ひょうご農業女子応援BOOK』を発行
- ・女性農業者交流会の実施（36人参加）等



女性向けの就農セミナー相談

地域づくり活動に関する人材養成講座

地域の担い手・リーダーとして活躍する人材を養成するため、地域づくり活動に関する講座を実施

- ・ふるさとひょうご創生塾（36人）
- ・高齢者大学・大学院（3,014人）
- ・ひょうご地域再生塾（125人）
- ・こころ豊かな人づくり500人委員育成事業（303人）



ふるさとひょうご創生塾でのグループ討論

地域活動に取り組む多様な主体の育成

持続的・自立的な地域づくりの基盤の再構築への取組が拡がりつつあり、市町の施策でも地域包括交付金や地域担当制の導入例が増えています。

そこで、地域団体等による地域課題を解決するための取組に対する支援を行い、地域活動の多様な主体の育成を図りました。

〔地域包括交付金〕18市町、〔地域担当制〕17市町（兵庫県県民生活課調べ）（H29）

地域相互見守りモデル事業（通称「地域となり組」）実施（新規）

子育て支援や高齢者の見守り、地域防犯活動など住民主体の地域づくり活動や住民

交流の場づくり等を通じて、近隣住民が互いの顔の見える関係をつくることにより世代・性別を問わず日頃から助け合いのできる地域コミュニティの構築を目指す取組を支援

【実施団体】 9団体

【具体の取組】

見守りネットワークの構築や勉強会の実施：NPO法人なごみ
(西宮市)

地域にある飲食店やスーパー、理髪店などを「自然の見守りの場」として、①場の見守り、②訪問型の見守り、③自然な見守りを備えたネットワークを構築。また、地域の担い手の発掘・育成を目的として住民主体の学びの場「地域のがっこう」を実施



地域のがっこう

地域創生会社設立・運営支援事業

地域経済活動の持続的発展や自立的な事業展開に向けて、財産管理や収益配分の仕組みを構築し運営の透明化を図るため、地域団体の法人化を支援

【実績】 3件

【具体の取組】

新たな特産物の開発・販売を目指す：篠山市日置地区

丹波篠山の黒豆の原産地の伝統を生かし、黒枝豆に続く特産物の開発・販売を行う法人組織の設立を目指すとともに、黒豆の産地の再生を図り、高齢農業者の生きがいをづくりや若者の農業への従事意識の活性化、また、農業者が黒豆づくりを発端とする日置の農作物へのプライドを醸成し、地域づくりに寄与

5 資金調達支援

寄附文化の醸成・活動資金を生み出す仕組みづくり

地域課題解決に向け、県民の自発的な取組が求められる一方、活動上の課題として資金不足を挙げる団体・グループも少なくありません。

そこで、活動資金を生み出すなど、団体・グループの行う持続的で自立に向けた取組を支援するとともに、ふるさとひょうご寄附金の活用や無利子貸付の実施など、多様な資金確保の仕組みによる地域活動への支援を行いました。

【団体が抱える課題】 3位：資金不足 24.1% (県民ボランティア活動実態調査 (H26))

【寄附経験がある】 41.2% (市民の社会貢献に関する実態調査・内閣府 (H28))

「ふるさとひょうご寄附金」の募集

地域づくりへの参画の手段として、寄附金を募集。寄附者の共感と賛同を得られる事業を寄附対象に追加した結果、寄附件数、寄附額とも増加

【実績】 1,792件、139,439千円

【具体の取組】

ひょうご若者被災地応援プロジェクト

ひょうごの若者が被災地で行う活動を応援し、被災地の復興を支援。今後の被災地支援を担う人材を養成する事業として実施。県内の高校・大学をはじめとする若者の団体・グループが、東日本大震災や熊本地震等の被災地に赴いて実施した活動に対する助成を行うとともに、12月には交流会を開催し、今後の取組に係る課題等について情報を共有 (派遣実績：17組)



交流会の様子

ひょうごボランティア基金助成事業

ボランティアグループ・団体やNPO法人等が行う地域づくり活動に対する資金支援を行い、活動の活性化を推進。交流会の開催等を通じ、団体・グループの活動のレベルアップを支援

○県民ボランティア活動助成

NPO法人格を持たないグループによる草の根の活動に対し助成

〔実績〕 3,546件・88,650千円

〔助成例〕 朗読ボランティア、点訳ボランティア、手話サークル、傾聴ボランティア、ふれあい喫茶、ふれあい給食、いきいきサロン、防犯パトロール、子育て支援、読み聞かせ、留学生支援等



ひょうごボランティア基金
助成事業報告会

○地域づくり活動NPO事業助成

NPO法人が地域団体等と連携し、機動力、専門性を生かして地域づくりを進める活動に対し助成

〔実績〕 33件・14,992千円

〔助成例〕 就学後の子育て支援、田舎暮らし体験、生活再建及び再犯防止のための支援、古民家再活用による地域活性化、認知症予防プログラムの実施等

○中間支援活動助成

地域のNPO法人等の活動を支援するNPO法人、公益法人等の活動に対し助成

〔実績〕 18件・13,551千円

〔助成例〕 団体の組織力向上、ファンドレイズを中心とした相談、NPO・地域団体連携マッチング、中堅スタッフ育成、ネットワーク強化等

地域づくり活動応援事業

地域団体の活性化やコミュニティの充実をめざして、地域団体が創意工夫により企画・提案する事業に対して助成。公開提案会や報告交流会を実施

〔実績〕 277件・49,941千円

〔取組例〕

- ・六甲を拠点とした世界とつながる地域コミュニティ（神戸市）
- ・高齢者社会対応調査研究事業（多可町）
- ・かいばら雛まつり（丹波市）等

地域創生！再エネ発掘プロジェクト事業（新規）

小水力発電は事業化までのステップが多く導入コストが高額だが、安定した収益が見込めることから、地域活性化を推進する地域団体等に、事業化に向けて実施する立ち上げ時の取組、基本調査・概略設計等の一部費用を補助

また、全県的なモデルとなり得る先進的な地域団体等の取組に、設備整備費用を無利子貸付により支援

〔実績〕 立ち上げ時の取組補助2団体、基本調査等補助1団体、無利子貸付2団体

【具体の取組】

勉強会や先進地視察の実施：おおや振興公社（養父市）

専門家を招いた勉強会や先進地視察を通じて、小水力発電について知識を深めるとともに、地域団体等の意識醸成を図った。

また、候補地の簡易的な流況調査を実施



小水力発電の勉強会

6 連携支援

多様な主体の連携促進

地域団体やボランティアグループ、NPO、大学、企業等がネットワークを形成し、分野や地域を越えて、多様化する地域の課題やニーズへの対応を図っていくことが求められています。

そこで、交流機会の提供等を通じ、多様な主体が連携して地域課題を解決するための取組を積極的に支援しました。

【NPO が望む支援】 2位：交流会・ネットワーク支援 32.4%（県民ボランティア活動実態調査（H26））

「がんばる地域」交流・自立応援事業

多自然地域の豊かな地域資源を活かした創意工夫に富んだ地域での自立的・継続的な取組を支援

【実績】 28 地区

【具体の取組】

波賀元気づくりネットワーク協議会：宍粟市波賀地区

かつてまちの中心であった旧上野商店街ににぎわいを取り戻すため、農産物をはじめ特産品や手作りを販売する「軽トラ市」を開催



はが軽トラ市

大学等との連携による地域創生拠点形成支援事業

大学等と地域等が連携して地域創生・再生に取り組むための活動拠点の形成・活動等を支援

【実績】 11 件（形成支援 3 件、活動支援 7 件、他大学等の活動支援 1 件）

【具体の取組】

八千代地域創生大学等連携センター（多可町）

（神戸親和女子大学岸上研究室、甲南女子大学佐伯研究室）

「体験学習」カリキュラムづくりや地域製品の加工品を開発。

また、SNS で地域の魅力や活動内容を発信



子どもたちとの農作業

ふるさと交流会 2017 の開催

県民交流広場事業実施団体など、地域コミュニティづくりに取り組む人々による、相互の情報交換、意見交換の場を設け、ノウハウの共有や新たな連携を促進

（開催日：8/30 100 人参加

（別途県民局・県民センターでも交流会実施））

—当日の事例報告—

- ・「地域資源を活かした活動の展開」赤松地区むらづくり推進委員会（上郡町赤松地区）
- ・「地域間交流による賑わいづくり」与布土地域自治協議会（朝来市与布土地区）
- ・「活動の担い手の輪を拡げる」なんなんまちづくりの会（稲美町天満南地区）等



グループセッション



鎧かぶとの展示

2 県行政への参画と協働の推進

県では、地域課題や県民ニーズの多様化に対応するため、県民参画による広報・広聴事業を通じた情報公開や、政策の企画立案、実施、評価・検証の各段階での県民の参画と協働により、県民の視点に立った県行政を推進しました。

1 情報公開の推進

県民が的確に判断できるよう、施策や各種調査データなどの情報を、様々な手段で提供しました。

各種媒体を活用した広報活動

きめ細かな県政情報をわかりやすく提供するため、読者編集員（7人）や広報モニター（308人）の参画を得て、県政情報を提供

○印刷媒体：

- ・全世帯配布広報紙「県民だよりひょうご」
- ・グラフ広報誌「ニューひょうご ごこく」
- ・「あなたの県政—ひょうごEYE—」

○電波映像等：

- ・県民情報番組「ひょうご“ワイワイ”」
- ・サンテレビ「日曜さわやかトーク」
- ・ラジオ関西「こちら知事室！井戸敏三です」
- ・ラジオ関西・兵庫エフエム「兵庫県からのお知らせ」
- ・兵庫県インターネット放送局「ひょうごチャンネル」 等



平成29年度 ひょうごEYE

情報公開制度の運用

公正で透明な県民に開かれた県政を実現するため、公文書の公開、情報提供等、情報公開制度を運営

〔請求件数〕6,053件

〔公開率〕94.0% ※公開率=（全部+部分公開）／（請求件数-取下げ）

2 政策形成への参画機会確保

県民から広く意見を求める機会を確保するとともに、県民による提案が行われる仕組みを運用し、県民が県行政に提案できる多様な機会を確保しました。

県民モニター

県民の意向を的確に把握し、施策や事業の立案等に生かすため、県民に身近な課題について、インターネットで募集した「県民モニター」の意見を聴取

〔登録者数〕2,585人

〔実施回数〕年4回（平均回答率74.7%）

さわやか提案箱

ホームページ上の送信フォームから、県政に関する意見・提案を受け付けて回答し、県民との対話機会を充実

〔受信件数〕226件

県民意見提出手続（パブリック・コメント手続）制度

県民生活に密接に関わる計画・方針等を策定する際に意見を募集し、対応を公表

〔実施件数〕 20 件

〔実施案件（主なもの）〕

- ・兵庫県がん対策推進計画
- ・兵庫県消費者教育推進計画
- ・ユニバーサル社会づくりの推進に関する条例
- ・ひょうご基幹道路のあり方
- ・明石港東外港地区再開発計画 等

審議会等の委員公募及び公開

県民の意見を審議会等の審議に反映させるため、委員公募を実施するとともに、傍聴や議事録等の公開を推進

〔公募機関数〕 24 機関

〔公開機関数〕 49 機関

〔実施機関（公募・公開とも実施した主なもの）〕

県民生活審議会、長期ビジョン審議会、男女共同参画審議会、地域安全まちづくり審議会 等



県民生活審議会

3 協働事業の機会確保

地域の課題解決に向けた、グループ、団体・NPO 法人、大学、企業等との協働事業を展開するとともに、県民との協働による、道路・河川等の共同管理、連携協定の締結、推進員の設置等を行いました。

NPO と行政の協働会議（ひょうご中間支援団体ネットワークとの意見交換会）の開催

中間支援団体と連携しながら、地域に関わる様々な課題について、NPO、団体、行政等が協働で解決に取り組むための情報交換・意見交換会を実施

また、NPO 法人の手引きプロジェクトチーム会議を開催し、「NPO 法人の手引き」を改訂

〔実施内容〕

- ・全体会、研修会の開催（2 回開催、53 人参加）
- ・NPO 法人手引きプロジェクトチーム会議（5 回開催）
- ・メーリングリストを活用した意見交換

NPO 法人の手引
1 設立・運営編



ひょうごアドプト

道路・河川・海岸などにおいて、地域団体・県・市町の 3 者による合意書を締結し、県民とのパートナーシップによる軽易な維持管理や美化活動を推進

〔団体数〕 388 団体

【具体の取組】

河川清掃・除草、ミズアオイの保護活動：谷山川を育む会（豊岡市）

但馬の小京都と呼ばれる出石の城下町を流れる谷山川において、河川内の清掃や除草作業、準絶滅危惧種に指定されているミズアオイの保護活動を実施し、地域住民や観光客に愛される環境・景観づくりに貢献



谷山川での河川清掃活動

連携協定の締結

男女共同参画社会づくりや子育て支援に向け、団体や企業、行政の協定締結を推進

〔実施内容〕

- ・男女共同参画社会づくり協定（1,289社・3団体）
- ・子育て応援協定（1,297社・38団体）
- ・健康づくり推進サポート企業との健康づくり応援協定（9社）
- ・地域見守りネットワーク応援協定（29社）

推進員等の設置

地域福祉、防犯・防災、教育など特定分野の課題の解決に向けて県行政と協働して取り組む推進員を設置。その活動が円滑に進むよう、必要な情報提供や活動のPR、他の推進員とのネットワークづくりを推進

〔推進員委嘱数〕70職種、28,509人

〔主な推進員〕子育て家庭応援推進員（2,043人）、男女共同参画推進員（1,416人）、くらしの安全・安心推進員（214人）、健康づくり推進員（2,002人）、地域ビジョン委員（780人）等

4 評価・検証への参画機会確保

県施策の推進状況や成果等をわかりやすく公表し、県民との情報共有を推進するとともに、県民が県施策の事業評価に参画する機会を確保し、兵庫づくりの目標を県民と共有することで、県政への理解と参加を促進しました。

○地域夢会議の開催

21世紀兵庫長期ビジョンの推進に関する意見交換を行うため、県民誰もが参加できる地域夢会議を開催

○「21世紀兵庫長期ビジョンの推進状況報告書」の作成

ビジョンの4つの社会像と12の将来像の体系に沿って報告書を作成しHP上で公表

○「ひょうごの男女共同参画」の作成

県における男女共同参画社会づくりの現状や、県・市町の取組状況を公表

○「ひょうごみどり白書」の作成

農林水産ビジョンの実現に向けた取組を評価・検証し、HP上で公表

【参考】

1 県民の参画と協働の推進に関する条例

県民の参画と協働の推進に関する条例（平成14年兵庫県条例第57号）

目次

- 前文
- 第1章 総則（第1条～第5条）
- 第2章 参画と協働による地域社会の共同利益の実現（第6条～第7条）
- 第3章 参画と協働による県行政の推進（第8条～第10条）
- 第4章 雑則（第11条～第12条）
- 附則

21世紀の本格的な成熟社会を迎えた今日、人々の価値観が量的拡大より質的充実を求める方向へと変化するとともに、中央集権・一極集中による画一性と効率性を優先する社会システムから、地方分権・多極分散による多様性と個性を優先する生活者の視点に立った新しい社会システムへの転換が求められている。

兵庫県では、これまで、自主的な生活意識の確立と生活の合理化を目指す「生活の科学化」や、生きがいなどの人間の内面に配慮する「生活の文化化」を推進するほか、県民が主体的に行動し、自ら社会を創り上げていく「生活創造」を推進し、様々な形で県民運動の展開を支援するなど、県民生活を基本とする県行政を展開してきた。

阪神・淡路大震災においても、被災者相互の助け合いの精神や、県民一人ひとり、自治会、婦人会等の地縁団体、ボランティア等による草の根の活動が、被災者への支援と被災地の復興を支える大きな力となったことに、自発的かつ自律的な意思に基づく県民による主体的な取組の大切さを改めて確認した。

また、新しい世紀における兵庫づくりを目指す「21世紀兵庫長期ビジョン」に県民自らが地域の将来像を描き、自らの責任でその実現を図ろうとする県民主役・地域主導による先導的な取組が進められつつある。

これらの貴重な経験とその積み重ねを踏まえつつ、自然と調和し、共に生きることを基本に、人類の安全と共生にも寄与する志高い地域づくりを進めるためには、県民一人ひとりが、自ら考え、判断し、責任を持って行動する取組が大切である。

あわせて、県民の多様なニーズに的確に対応しつつ、より一層県民生活を重視した県行政を推進していくためには、県民の参画と協働の多様な機会の確保を図り、県民とのパートナーシップに基づく県行政を推進していく必要がある。

このような認識に基づき、共に県民を代表し、地方自治を支える双輪である議会と知事の緊密な連携の下、施策の決定と確実な推進が図られることを基本に、参画と協働の理念を明らかにし、県民の参画と協働の推進に関する基本的事項を定め、もって県民の総意により、多様な地域に多彩な文化と暮らしを築く美しい兵庫を実現することを目的として、この条例を制定する。

第1章 総則 （参画と協働の意義）

第1条 多様な地域に多彩な文化と暮らしを築く豊かな地域社会は、自律と共生を基調とした、県民一人ひとり、地縁団体、ボランティア団体その他民間の団体及び事業者（以下「県民」という。）の参画と協働による地域社会の共同利益の実現及び県民の参画と協働による県行政の推進により、実現されなければならない。

第2条 地域社会の共同利益の実現のための活動（以下「地域づくり活動」という。）は、県民の自発的かつ自律的な意思に基づく参画及び県民の相互の協働により、行われなければならない。

第3条 県行政は、県民の積極的な参画及び県と県民との協働により、推進されなければならない。

第4条 県民は、前3条に定める参画と協働の基本理念（以下「基本理念」という。）にのっとり、地域社会の一員としての自覚と責任を持って、地域づくり活動に対する理解を深めるとともに、自らが県行政を推進するという自覚と責任を持って、県行政への積極的な参画と県行政の推進に係る県との協働に努めるものとする。

第5条 県は、基本理念にのっとり、県民の参画と協働の推進に関する基本的かつ総合的な施策を策定し、及びこれを実施するものとする。

2 県は、前項の施策を策定し、及びこれを実施する場合においては、地域づくり活動が、県民の自発的かつ自律的な意思に基づくものであるべきことに配慮するものとする。

3 県は、第1項の施策を策定し、及びこれを実施する場合においては、市町との役割分担に配慮するとともに、地域づくり活動に関する市町の施策を尊重するものとする。

第2章 参画と協働による地域社会の共同利益の実現 （地域づくり活動に対する支援）

第6条 県は、基本理念にのっとり、地域づくり活動に対して必要な支援を行うため、次に掲げる施策を講ずるものとする。

- 1 地域づくり活動に必要な情報を提供し、及び地域づくり活動に関する相談に応ずる仕組みを整備すること。
- 2 地域づくり活動に必要な知識及び技能の習得の機会を提供すること。
- 3 地域づくり活動及び県民の交流の拠点を確保すること。

（4）地域づくり活動を支える人材の確保及び資金の調達並びに地域づくり活動を行う県民相互の連携に対して支援をすること。

（5）前各号に掲げるもののほか、地域づくり活動を支援するために必要な措置を行うこと。

2 知事は、前項に規定する施策を総合的に講ずるための基本指針（以下「地域づくり活動支援指針」という。）を定めるものとする。

3 知事は、地域づくり活動支援指針に県民の意見が反映されるような必要な措置を講ずるものとする。

4 知事は、地域づくり活動支援指針を定めようとするときは、あらかじめ、附属機関設置条例（昭和36年兵庫県条例第20号）第1条第1項に規定する県民生活審議会の意見を聴くものとする。

5 知事は、地域づくり活動支援指針を定めたときは、これを公表するものとする。

6 第2項の規定は、地域づくり活動支援指針の変更について準用する。（登録）

第7条 地域づくり活動を行う県民は、自らが行う地域づくり活動に関する情報を相互に提供し、及び活用するとともに、相互の連携及び交流を深め、もって地域づくり活動の活性化に資することができるよう、地域づくり活動の内容その他当該地域づくり活動に関する事項の登録をすることができる。

2 県は、前項の登録をした地域づくり活動に対して、情報提供その他の必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

3 第1項の登録に関して必要な事項は、知事が別に定める。

**第3章 参画と協働による県行政の推進
（県行政における参画と協働の推進）**

第8条 県は、基本理念にのっとり、県民の参画と協働による県行政を推進するため、次に掲げる施策を講ずるものとする。

（1）県行政の透明性を高め、県民に対する説明責任を果たすための情報公開を推進すること。

（2）県の政策の形成に県民が参画する機会を確保すること。

（3）県が実施する事業と県民の地域づくり活動とを共同で実施する機会を確保すること。

（4）県の政策の評価及びその効果の検証に県民が参画する機会を確保すること。

（5）前各号に掲げるもののほか、県行政における県民の参画と協働の機会を確保すること。

2 知事は、前項に規定する施策を総合的に講ずるための計画（以下「県行政参画・協働推進計画」という。）を定めるものとする。

3 第6条第3項から第6項までの規定は、県行政参画・協働推進計画について準用する。（委員の公募）

第9条 知事その他の執行機関（以下「知事等」という。）は、県の政策の形成に県民が参画する機会を確保するため、地方自治法（昭和22年法律第67号）第138条の4第3項に規定する附属機関その他委員会等で、県の政策の形成に関して調査審議するために設けられるものの委員（以下「委員」という。）を選任しようとする場合において、これらの審議が県民生活に密接に関連し、県民の意見が反映されることが適当であると認めるときは、広く県民に対して公募を行うものとする。

2 公募により委嘱された委員は、基本理念にのっとり、誠実に職務を遂行するものとし、自らの学識、経験等に基づき、自己の責任において意見を述べるものとする。

3 委員の公募に関して必要な事項は、知事等が別に定める。（推進員等）

第10条 知事等は、特定分野の行政課題の解決を図り、県行政を効果的に推進するための職（以下「推進員等」という。）を県民に委嘱することが、県民の参画と協働による県行政の推進に資することにかんがみ、推進員等を委嘱された者の職務が円滑に遂行されるよう必要な措置を講ずるものとする。

2 推進員等を委嘱された者は、基本理念にのっとり、誠実に職務を遂行するものとする。

この条例は、「県民の参画と協働の推進に関する条例の施行期日を定める規則（平成15年兵庫県規則第6号）」により、平成15年4月1日から施行しています。

2 市町を取組状況

平成30年4月1日現在

市町名	条例等※1		主な制度・仕組み			
	条例	指針等	パブリック・コメント 手続	附属機関 等の委員 公募	地域包括 交付金※ 2	職員の地 域担当制 ※3
神戸市	○	○	○	○		○
尼崎市	○	○	○	○		
西宮市	○		○	○		○
芦屋市	○	○	○	○		
伊丹市	○	○	○	○	○	○
宝塚市	○	○	○	○		○
川西市	○		○	○	○	○
三田市	○	○	○	○		○
猪名川町		○	○	○		○
明石市	○	○	○	○	○	
加古川市		検討中	○	○		
高砂市		○	○	○		
稲美町		○	○	○		
播磨町			○	○		
西脇市	○	○	○	○	○	○
三木市			○	○	○	○
小野市			○	○	○	
加西市	○	○	○	○	○	○
加東市		○	○	○	○	○
多可町		○	○	○	○	
姫路市	○	○	○	○		
神河町		○	○	○		
市川町			○	○		
福崎町	○	○	○	○	○	○
相生市	○	○	○	○		
たつの市			○	○		
赤穂市	○		○	○	○	
宍粟市	○	○	○	○		
太子町	検討中	○	○	○		
上郡町	検討中	○	○	○		
佐用町	○		○	○	○	○
豊岡市		○	○	○	○	
養父市	○	○	○	○	○	○
朝来市	○	○	○	○	○	○
香美町	検討中	○	○	○		
新温泉町		○	○	○		
篠山市	○	○	○	○	○	○
丹波市	○	○	○	○	○	○
洲本市		○	○	○		
南あわじ市	検討中	○	検討中	○	○	
淡路市		○	○	○		
計	21	31	40	41	18	17

(兵庫県企画県民部県民生活局県民生活課調)

- ※1 ここでの条例とは、住民の参画と協働の推進に関する理念や基本的な考え方を定めた条例、指針・計画、都市宣言、市民憲章等
- ※2 「地域包括交付金」とは、おおむね小学校区単位で設立された複数の地域団体によって構成される自治組織に、地域の実情に応じて柔軟に活用できるよう、一括して交付される交付金
- ※3 「職員の地域担当制」とは、自治体の一定の地区ごとに担当の職員を定め、コミュニティづくりのための情報提供や計画策定支援など担当地域への支援を行う制度



平成 29 年度 参画と協働関連施策の年次報告

平成 30 年 7 月

兵庫県企画県民部県民生活局県民生活課
参画協働・ボランティア活動支援班
〒650-8567 神戸市中央区下山手通 5-10-1
電話：078-362-3996
E-Mail：kenminseikatsu@pref.hyogo.lg.jp

平成 29 年度 参画と協働関連施策の年次報告

[資料編]

～ 目 次 ～

1 地域づくり活動の支援 -----	1
(1) 情報提供・相談体制整備-----	1
(2) 知識・技能の習得機会提供-----	7
(3) 活動・交流拠点確保-----	13
(4) 人材確保-----	17
(5) 資金調達支援-----	30
(6) 連携支援-----	32
2 県行政への参画と協働の推進 -----	39
(1) 情報公開の推進-----	39
(2) 政策形成への参画機会確保-----	41
(3) 協働事業の機会確保-----	44
(4) 評価・検証への参画機会確保-----	52
3 平成 29 年度 参画と協働関連施策体系 -----	54

1 地域づくり活動の支援

(1) 情報提供・相談体制整備

◆ 地域づくり活動に関する情報をわかりやすく提供

地域創生の加速化・本格化を図るため、次代を担う若者目線でのひょうごのイメージづくりと魅力発信の取組をはじめ、即時性、拡散性を生かした SNS 等多様な媒体を活用し、地域創生に関する情報や、地域を元気にしている人、兵庫の魅力などを広く発信しました。

ふるさと意識醸成につながる情報発信

■ 地域創生ユースチームによる魅力発信事業

35 歳以下の行政職員、大学生、IT 企業関係者等で結成する「地域創生ユースチーム」を結成し、若者目線でひょうごのイメージづくりと魅力を発信。

平成 30 年度の本格活動に向け、チームを 6 グループに分け、企画案を策定
〔主な企画案〕

- ・若者が興味を持って参加するアウトドアイベントの開催
- ・若者が兵庫の良さを発信する仕組みづくり
- ・住民の地域への愛着を育むきっかけとなる仕掛けの提案

■ ふるさと兵庫“すごいすと”情報発信事業

兵庫を元気にしている人（すごいすと）や地域の伝統行事、場所、人材等の地域の魅力を高校生が取材し発信する「高校生が発見した“すごい〇〇”」など、ふるさとへの誇りや愛着につながる情報をインターネットを通じて発信

- （すごいすと 12 人、未来のすごいすと 3 グループ、高校生が発見した“すごい〇〇” 4 校）
- ・北条鉄道法華口駅ボランティア駅長と駅舎内のパン工房の店長を務め、地元酒造米等を使った米粉パンを販売
- ・「鹿工房 Los Cazadores」経営や有害鳥獣の駆除活動に加え、宿泊業・観光業・イベント興業など複数の生業を持つことを目標に、移住者の雇用につながる中山間地域ならではの生活モデルを構築

■ 『ひょうご五国の地域創生』の広報展開

各種メディアを活用し、他府県との差別化を図りつつ、年齢層・地域ごとの PR を行い、地域間交流等を通じて兵庫県への移住・定住に直結する広報を重点的に展開。また、「ひょうご博覧会 in 大阪」を開催し、兵庫県の魅力を発信

■ 県政 150 周年記念プレフェスタの開催（新規）

兵庫県が成立して 150 周年の節目を迎えるのに先立ち、兵庫の歩みを振り返り、また未来の兵庫を考える機会とするため、プレフェスタを開催

(11/23 神戸ハーバーランドスペースシアター 参加者約 2 万人)

■ 県政 150 周年に向けた情報発信（新規）

県政 150 周年にあたり、様々な催しにおいて、VR（仮想現実）技術で再現した 150 年前の初代兵庫県庁舎へタイムスリップするような体験の場を提供し、県政への親しみを深めるなど、県政 150 周年をアピール（VR 体験コーナー計 12 日出展）

■ロコミコンテンツによる魅力基盤形成（新規）

外国人旅行者誘客促進の取り組みとして、世界的な旅行ロコミサイト「トリップアドバイザー」と連携し、ロコミ投稿の拡大により県内観光地等の認知度向上を図るプロモーションを展開（県内観光施設 300 か所にロコミ投稿促進ツールを配布・掲出）

■兵庫県の祭り・行事調査の実施

県内の祭り・行事の実情把握のため地区ごとに調査票による基礎調査を行い、その中から、個別テーマによる実地調査を実施。調査成果を報告書として刊行し、保護措置を検討

■ひょうごの遺産魅力発見事業

県内の豊かな歴史文化を、地域への誇りや愛着の醸成に活かすだけでなく、地域振興や観光交流に活用。日本遺産認定への支援を行い、認定後は地域の魅力発信を支援（「播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道～資源大国日本の記憶をたどる 73km の轍～」平成 29 年 4 月 28 日認定）

■松帆銅鐸等埋蔵文化財を活用した地域振興への積極的支援

松帆銅鐸について国生み神話との関係を明らかにし、周知することで文化財を通じた地域振興、ふるさと意識醸成（「松帆銅鐸古代体験フェスティバル」参加者 1,287 人）

■神戸・五国交流事業

イベント開催を通じて神戸市民に県内他地域の情報を提供し、神戸の魅力を他地域からの来場者に発信（ひょうご五国秋の大収穫祭 in もとまち）

■ふるさとの魅力とにぎわいづくり（外国人ツーリストの東播磨への誘客促進等）

インバウンド観光を促進するため、観光果樹園や神社、酒造会社等の参画を得て、国内在住の外国人を対象に体験型のモニターツアーを実施。訪問地の魅力を SNS 等で情報発信（3 回、参加者 54 人）

■北播磨移住促進事業の推進（新規）

大阪圏等都市部の移住希望者に対して、北播磨地域の魅力・利便性等を紹介する移住相談会を開催（主催 1 件・出展 2 件）、管内市町との情報交換会を実施（2 回）

■「兵庫遺産街道-Hyogo Heritage Route」の魅力アップ（東播磨）（新規）

但馬と連携し、「観光」「グルメ」をキーワードにして国内外へのプロモーションを展開する。観光情報 Web サイトでの誘客促進記事の配信、フランス・パリでの情報発信、銀の馬車道レトロ洋食街道 Y-1 グランプリ、銀の馬車道クラスタラーリー（スタンプラリー）を開催

■播磨広域観光・インバウンド観光の推進

2020 年のオリンピックイヤーに向け、中播磨と但馬をストーリー性のある広域観光ルート「兵庫遺産街道-Hyogo Heritage Route-」としてつなぎ、国内外の旅行会社や個人旅行者に向けてダイレクトに情報発信（サイクリング・ウォーキングマップ改訂版作成 10,000 部）

■Web サイト「旅丹」活用事業

丹波地域の自然、様々なイベント、人々を撮影した Web 写真集「旅丹～旅人が見たありのままの丹波路」により、地域の魅力を発信し誘客を促進（H27.10 開設 写真公開数 1,608 枚、サイトアクセス数累計 228,046）

地域づくり活動に役立つ情報提供

■地域づくり活動情報システム「コラボネット」の運用

活動ノウハウの共有や団体間の交流を促進するため団体・NPO等の概要や活動概要を登録し、サイトで発信（活動登録件数 5,340 件）

■生涯学習情報コーナーでの情報提供

県民の生涯学習を支援するため、情報提供コーナーを設置（神戸クリスタルタワー 6 F で開設（月～金））

■県民運動情報「ネットワーク」の発信

各地域で実践活動を行うリーダーと知事との対談、地域で活躍する実践団体の活動を紹介（県民運動ホームページ「ココロン」での発信 2 回）

■のじぎくボランタリーネットの運営

登録者にメールマガジン等によりボランティア募集情報等を提供し、イベントや地域におけるボランタリー活動への参加を支援（個人登録 1,832 件、団体 254 件、メールマガジン発行回数 29 回）

■医療ビッグデータを活用した健康づくりへの支援（新規）

特定健診や医療費データ等を収集・解析し、健康課題を明らかにし、県・市町・県内企業の健康づくりの推進を図るとともに、個人の将来の健康リスクを提示するための「ひょうご健康づくり支援システム（仮）」の開発に着手（H31 年度運用開始予定）

<参考>

■SNS等を活用した情報提供

区分	名称	件数
Facebook	「ひょうごの元気ムラ」 「ひょうご減災活動の日」 「あいたい兵庫」 など	71 件
Twitter	「hyogokoho」 「兵庫県安全安心な消費生活推進本部」 「兵庫県子ども・子育て支援推進本部」 など	20 件
LINE	「ひょうごチャンネル」 「はばタン」 「ひょうごで働こう！プロジェクト」	3 件
Instagram	「兵庫県公式地域創生Instagram」	1 件
メールマガジン	「ひょうごさわやか通信」 「のじぎくボランタリーネット」 「県民交流広場メールマガジン」 など	8 件

■各分野別の地域づくりに役立つ情報紙

- | | |
|---------------------------|----------------|
| * [男女共同参画] ひょうご男女共同参画ニュース | 年12回、6,400部発行 |
| * [家庭応援] ひょうご家庭応援県民運動だより | ホームページ上で発信 |
| * [青少年] 青少年ひょうご | 年2回、14,000部発行 |
| * [消費] 生活情報レポートAらいふ | 年3回、11,000部発行 |
| * [人権] ひょうご人権ジャーナルきずな | 年12回、28,500部発行 |
| * [環境] エコひょうご | 年4回、2,000部発行 |

◆活動の段階に応じた幅広い相談に対応

活動の立ち上げや団体運営、NPO法人の設立、地域資源を生かした起業など地域づくり活動に関する様々な相談に応じました。

また、兵庫に移住しようとする人たちへの相談体制の充実を図りました。

■ひょうごボランティアプラザでの活動相談

ひょうごボランティアプラザにおいて、NPO法人の設立申請、報告書の書類作成や、災害ボランティア活動等に関する相談に対応。また、県内各地域で活動するNPO法人とも連携してコミュニティ・ビジネスの起業、法人運営、資金調達等に関する相談に対応を **(相談件数98件[プラザ受付分]確認中)**



ひょうごボランティアプラザ窓口

■中間支援組織を通じた活動相談

ひょうごボランティア基金「中間支援助成」により、中間支援組織による相談（活動相談、NPO法人立ち上げ相談等）業務を支援

■生活創造センター・生活創造情報プラザでの活動相談

子育て、青少年育成、男女共同参画、環境保全など多彩な分野の生活創造活動を支援するため、生活創造センターや文化会館等において相談対応や活動スペース等を提供（生活創造センター3か所、生活創造情報プラザ5か所）

■地域さがしの旅キャンペーン（新規）

兵庫県への移住（UJIターン）の希望者等に対し、県内各地の職・住・遊の魅力に直接触れ、本県の暮らしやすさ、働きやすさを体感する機会を提供するためのバスツアーを開催。

各行程において、市町、地域おこし協力隊、先輩移住者、ガイドボランティア等の協力を得て県内の魅力発信を行い、ガイドブックにはない兵庫県の魅力に多数触れ、移住を検討するきっかけとなったとの感想多数

〔取組例〕

- ・魅力体感型ツアー（東京発：播磨・但馬コース／丹波・淡路コース）：44人参加
- ・新名神高速道路開通記念バスツアー（大阪発・2台）：77人参加

■カムバックひょうご促進事業

兵庫県への移住（UJIターン）を促進するため、東京・神戸のカムバックひょうごセンターにおいて、ハローワークやひょうご住まいサポートセンターと連携し、移

住に必要な様々な相談を総合的に実施

- ・カムバックひょうごセンターでの移住相談:窓口相談 652 人/年、イベント相談 3,866 人/年
- ・就農/就職セミナー、移住相談会等への出展:39 回/年
- ・移住者数:48 人 (H28.1~)

■ICT を活用した市町消費生活相談支援事業 (新規)

県・市町の役割分担と連携による、消費者被害の相談・救済体制の一層の充実を図るため、遠隔地や一人体制の市町にも研修受講機会が設けられるよう、県及び市町消費生活センターを結ぶWEB研修(会議)システムを導入し、市町の消費生活相談の充実を支援

■ひょうご田舎暮らし・多自然居住支援協議会の運営

自然と調和した豊かなライフスタイルの実現、地域間連携の強化及び都市農村交流の促進による交流人口の拡大を図るため、県、市町、NPOからなる協議会を運営。ひょうご田舎暮らし臨時相談所を設置し、多種多様な相談に対応

■大学等における子育て支援の促進 (新規)

大学生等が子育て家庭を訪問し、様々な体験をすることで、子育てに対する不安を軽減するとともに、結婚や子育て等に係る意識啓発を行い、自身の体験した感想や意識の変容等を「若者目線」で広く発信する。(子育て家庭訪問学生数:69名 フォーラム開催:H30.3.8 参加者:約120人)

■西播磨暮らしの推進

西播磨地域への移住短期滞在など田舎暮らしに関する相談・情報提供等をワンストップで行う「西播磨暮らしサポートセンター」を運営するなどの取組を推進(西播磨暮らしサポートセンターでの情報提供・相談934件、移住14世帯)

■たじま暮らしの推進

但馬の多様な魅力とU・Iターン関連情報を、管内市町及び関係団体と連携して、「オール但馬」として総合的に発信(たじま田舎暮らし情報センターと管内各市町の相談件数1,003件)

■たんば移住・環流プロジェクトの推進

丹波地域での田舎暮らしの魅力を紹介するセミナー等を実施(たんば暮らしセミナー・交流カフェ 参加者331人、たんば暮らしファンNET登録者230人)

■都市住民の転入促進事業の推進(淡路)

「あわじ暮らし・交流」情報を一元的に受・発信を行うワンストップ窓口の運営業務をNPOに委託し、移住希望者へのきめ細やかな相談対応を実施(45件78人が「あわじ暮らし総合相談窓口」を経由し移住)。また、移住に関する支援策を検討するため、県、市、NPOからなる「あわじ島に住もう促進協議会」を通じて、移住者の受入体制づくりを促進

<参考>地域づくり活動に関する相談窓口

分野	機関・施設名
県民運動・地域づくり	各県民局・県民センター県民交流室
ボランティア活動	ひょうごボランティアプラザ
生涯学習・実践活動	生涯学習情報コーナー
	神戸生活創造センター 東播磨生活創造センター 丹波の森公苑 但馬文教府 西播磨文化会館 淡路文化会館 嬉野台生涯教育センター 中播磨消費生活創造センター
生きがいしごと (コミュニティ・ビジネス含む)	生きがいしごとサポートセンター神戸東 ワラビー 生きがいしごとサポートセンター神戸西 N E X T 生きがいしごとサポートセンター阪神南 U N (アソ) 生きがいしごとサポートセンター阪神北 C D C 生きがいしごとサポートセンター播磨東 生きがいしごとサポートセンター播磨西
N P O 法人制度ほか	兵庫県企画県民部県民生活局県民生活課
認知症高齢者見守り	兵庫県健康福祉部少子高齢局高齢対策課
健康づくり	兵庫県健康福祉部健康局健康増進課
環境学習・教育	ひょうごエコプラザ
男女共同参画	兵庫県立男女共同参画センター

※分野別の活動相談は、上記の他にも各分野の関係機関で受付

(2) 知識・技能の習得機会提供

◆ 地域で活動するための知識や技能の学びを支援

地域創生を実現する上で、ふるさとを愛する心を育てることが、参画と協働による地域づくりの推進力になることから、多様な世代が地域の魅力や課題について学び、ふるさとへの想いを高める取組を各地域で幅広く展開しました。

青少年の体験学習の充実

■ ふるさと芸術文化発信サポート事業

地域の文化団体や住民等が主体となって、かつて継承されていた民俗芸能の復活や維持発展、生活文化の伝承など、地域固有の魅力的な文化資源を体験し保存することで、ふるさとの魅力発信に取り組む事業を支援（補助件数 32 件）

[主な内容]

- ・ 現存の農村舞台を活用した農村歌舞伎の継承事業（神戸市）
- ・ 特産品の竹を活用した伝統的な遊びの復活プロジェクト（姫路市）
- ・ 13 の古民家を舞台にした人形劇フェスタ（篠山市）
- ・ 湯村の火祭り等の伝承行事を次代へ継承する事業（新温泉町）等
- ・ 担い手が減少している伝統的な踊りの保存と地域の祭りでの披露（宍粟市）等

■ 伝統文化の学びの充実事業

伝統文化に関する学習を充実するため、モデル校を指定し、指導方法や地域の人材とともに取り組む方法について、実践研究と成果の普及・啓発を推進（モデル校 12 か所、伝統文化の学びの充実事業全県発表会開催、連絡協議会の実施 2 回）

■ 高等学校における消費者教育モデル授業の実施

高校生自らが消費生活に関連するテーマについて理解を深める（モデル事業実施 5 校、消費生活センター等による出前講座 57 回）

■ 若者の消費者力アップ事業

大学生協との連携により養成した「くらしのヤングクリエイター」を活用し、大学生等の消費者力アップに向けた取組を実施（啓発活動 15 回、消費者教育講座の導入支援 2 回）

■ シニア世代から子育て世帯へのふるさと伝承事業（新規）

シニア世代と子育て世帯が交流する機会を増やし、地域での一体感やきずなを深めるとともに、地域の伝統を再認識し、愛着心や誇りを育み、子どもや子育て世帯のふるさとへの想いを高める取組を支援

（実施地区 19 地区、実施団体 17 団体、実施テーマ 19）

■ 「ひょうごっ子・ふるさと塾」の実施

青少年が、“身近な地域での社会体験”や、“豊かな自然に触れる多様な体験”をしながら、世代間や地域間で交流し、ふるさと意識を醸成（37 件）

■こどもの館子育てふれあい事業

高校生等が関係団体等と連携し、イベントを企画立案・運営し活躍するとともに、意識向上を推進（高校生ボランティア数延べ222人）

■はばタンの環境学習

幼稚園・保育所・認定こども園等をはばタンと訪問し、大型の紙芝居を使い、体験型環境学習の普及啓発を促進（訪問園数24園）

■地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」の推進

全公立中学2年生を対象に、地域や自然の中で生徒の主体性を尊重した様々な社会体験活動を展開（実施校数360校、生徒数44,922人、活動場所16,969か所、指導ボランティア数22,657人）

■地域に活かす「トライやる・アクション」の実施

中学生が土日や長期休業日等を利用して、地域の祭りや清掃事業など既存の地域行事を企画運営するなど、主体的に地域に貢献する取組を校区推進委員と協働で実施（実施校210校、参加生徒50,253人）

■特別支援学校交流・体験チャレンジ事業

特別支援学校において、在籍する児童生徒等の自立と社会参加に向け、交流・体験活動にチャレンジ。地域への特別支援教育の理解啓発を推進（県立校交流実施27校）

■高校生ふるさと貢献活動事業～トライやる・ワーク～の実施

高校生の地域社会の一員としての自覚を育むため、地域行事などふるさとへの貢献活動を支援（実施校147校、参加生徒86,763人）

■社会参画推進学習プログラム研究事業

高校生の主権者意識、社会発展に寄与する力など、社会参画のための実践力育成に資する調査研究を実施

■高等学校地域オープン講座の開設

地域に開かれた学校づくりを推進するため、学校の特色となる科目や地域住民の関心が高い科目について、地域住民に対して高校生とともに学ぶ場を提供（実施13校25講座、受講者181人）

多様な世代の生涯学習の充実

■高齢者大学講座の運営

園芸や健康づくり、教養など、受講者の多様な興味を深めると同時に、それらを地域活動にも活かせる学習プログラムを提供。地域活動支援センターを活用し、学生や卒業生に対して地域づくり活動に関する相談やマッチング等の支援を実施

【いなみの学園(受講生)】

4年制[園芸学科・健康づくり学科・文化学科・陶芸学科] 1,140人、大学院(2年制) 101人、高齢者放送大学(1年制) 2,042人

【阪神シニアカレッジ(受講生)】

4年制[園芸学科・健康学科・国際理解学科] 556人、阪神ひと・まち創造講座(2年制) 43人、

【地域高齢者大学講座(受講生)】

うれしの学園生涯大学講座、但馬文教府みてやま学園、西播磨文化会館ゆうゆう学園、淡路文化会館いざなぎ学園、丹波OB大学講座 1,174人

■ひょうごインターキャンパス

講座、イベント、学習場所等の生涯学習情報をインターネット上で一元的に提供(参画機関数 506 機関)

■県立広域防災センターの運営

来館者に対して県立広域防災センターの平常時と災害時の役割をPRし、災害時の自主防災組織の役割や防災関係機関との連携について周知するとともに、起震車による地震体験、煙避難体験等を通じて、県民の防災意識付けを強化(H29年間訪問者 34,441人)

■エコツーリズムバス運行支援事業

環境関連施設での学習機会や貴重な自然環境に触れる機会を提供するため、団体等が借り上げたバス等の経費の一部を助成(利用台数 300台)

■ひょうご環境体験館の運営

「ひょうご環境体験館」において、地球温暖化対策技術等の見学や体験型環境学習・教育事業を実施(利用者数 32,124人)

■ふるさとカムバック農業塾推進事業

中高齢者の就農を支援するため、農業・農村に係る知識及び技術習得等のための講座を実施(受講者 214人、うち就農者 63人)

■森林ボランティアの育成

森林ボランティア活動の維持・強化を図るため、地域の環境保全の担い手として、森林ボランティア講座や森林ボランティアリーダー養成講座を開催(受講者計 78人)

■ため池保全県民運動啓発促進事業

ため池等の適正な管理と、多面的機能の十分な発揮の促進のため、フォーラム等による啓発活動を展開(フォーラム参加者 500人)

■社会基盤学習の実施

道路・河川等の社会基盤施設を題材にした出前講座の実施により、子どもたちが災害の恐ろしさや社会基盤の役割・必要性を学ぶ機会を創出(86小学校、3中学校、7高等学校で実施)

■地域に学ぶ人権学習推進事業

地域にある豊かな学習素材を活用した人権学習資料集を開発・発信(6地区事務所設置をし調査員配置、13市町で44講座実施)

地域の魅力や課題を学ぶ取組の支援

■神戸：ミュージアムロードを核とした地域活性化の推進

ミュージアムロードとその周辺地域の活性化のため、周辺の文化施設や地域団体等と連携し、賑わい創出活動を支援(県政150周年、神戸開港150年HATミュージックレガッタフェスティバル参加者約800人)



県政150周年、神戸開港150周年HATミュージックレガッタフェスティバルの様子

- 兵庫津再発見事業の実施
- 農都こうべ食農教育推進事業の実施

■阪神南：尼崎の森ファミリークラブの実施

森づくり活動を子どもの成長とともに家族で体験することにより、森への愛着、家族愛、ふるさと意識を醸成するとともに、植樹会を行い森づくりの担い手を養成（参加者 117 人）



植樹会の様子

■阪神北：北摂里山博物館（地域まるごとミュージアム）」構想の推進

「新宮晋 風のミュージアム」水上ステージにて野外イベントを開催。「北摂里山博物館」構想のシンボルとして、有馬富士公園の新たな魅力を情報発信し、公園の活性化を促進

- ・薪能「第二回 風の能」（4/28 約 500 人参加）
- 「きらっと☆阪神北オートムフェスタ」の開催
- 地域ビジョン委員会シンボルプロジェクト「地域見本市」の開催



第二回 風の能

■東播磨：いなみ野ため池ミュージアムの推進

地域の特徴である水辺空間を“守り・活かし・次代に継承”するため、ため池保全活動等を実施

- ・漁業者と農業者が連携したため池保全・海辺保全（2回、計 110 人参加）
- ・ため池保全活動の実施（350 回実施、238 千人参加）
- 東播磨「農」のブランド化大作戦（スイートコーン、加古川和牛）
- 東播磨農業経営力アップ事業
- 若手農業者のステップアップ事業
- 見に来てや！東はりま観光プロモーション事業等の実施



里海連携で池の栄養を流す様子

■北播磨：高校生による北播磨地産地消活動の推進

地産地消に積極的に取り組む管内の高校生が実施する特産物の加工品開発や販売実習、高校生レストランを支援し、斬新な若者の視点で北播磨の「農」と「食」の魅力を発信（味付け播州百日どりの開発等）

- 北播磨ふるさと巻き寿司PR大作戦



高校生が開発した商品を対面販売

■中播磨：銀の馬車道プロジェクトの推進

銀の馬車道ネットワーク協議会が主体となって銀の馬車道をPR

- ・日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」ジオラマ製作
- ・絶景フォトコンクール（応募 47 点）
- ・人情喜劇公演（来場者 500 人）
- ・国内外の人々をおもてなしするため飲食店・宿泊施設の従業員向け講習会等開催を支援（開催 7 回）
- ・インバウンド向けに銀の馬車道プロモーション動画（英仏語）製作
- 列車通学非行防止推進事業（中播磨）



「銀の馬車道・鉱石の道」ジオラマ

■西播磨：西播磨フロンティア祭 2017 の開催

新都市の賑わいの創出、地域の活性化と連携・交流の促進を図るため西播磨フロンティア祭を開催(平成 29 年 4 月 29 日 約 1 万 8 千人参加)

- ・第 16 回出る杭大会 (59 団体)
- ・西播磨ふるさとバザール (45 団体)
- ・第 6 回イケ麺グランプリ in 西播磨 (16 団体)



西播磨フロンティア祭 2017

■但馬：山陰海岸ジオパーク活動の推進

山陰海岸ジオパーク推進協議会が中心となり、ジオパークの普及啓発やジオパークの素材を活かした地域づくり事業を展開(ビジネス創出支援事業 10 件、ジオパークガイド魅力向上向上支援事業 11 件、ジオパークを守る活動への補助 15 件)

- 産業活性化の推進
- コウノトリと共生する地域づくりの推進
- 因幡・但馬・丹後広域観光キャンペーンの推進
- 自然環境の保全と再生
- ウスイロヒョウモンモドキ保護対策と交流の促進
- 但馬グリーン・ツーリズムの推進
- 野生動物被害対策の推進
- 山林部境界資料作成の推進
- 『但馬みどりの回廊計画』の推進
- 地域包括ケアシステム構築の推進 (生活支援サービス提供体制の整備)



ビジネス創出支援事業

■丹波：学生等による地域貢献活動推進事業

丹波地域で大学のフィールドワーク等に参加した経験のある学生が、自治会などの地域団体と連携し、地域の祭りや農作業の手伝い、放置竹林の整備と獣害対策等に取り組み、地域活性化を推進 (これまで 16 地区に 9 大学、延べ 36 の学生団体が活動)

- 「丹波地域恐竜フィールドミュージアム構想」の推進
- 「丹波ファン」拡大チャレンジ事業
- 大丹波観光キャンペーンの展開
- 丹波地域観光情報の発信
- 関西学院大学柏原スタジオの運営支援

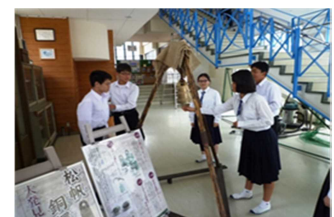


ライトアップイベント
(かいばららいと) の運営に協力

■「国生みの島」発信事業～松帆銅鐸～〔淡路〕

「松帆銅鐸」の発見を契機に全国へ「国生みの島」淡路島を発信するとともに島民のふるさと意識の醸成を図るため、銅鐸復元品の島内全中学校 (17 校への巡回展示、文化施設等での常設展示及び銅鐸イベント (南あわじ市と共同) を実施

- あわじ環境未来島構想の推進
- 「淡路くらしのひろば展」の開催
- 「あわじ菜の花エコプロジェクト」の推進
- 淡路島の景観づくり運動の推進
- ため池交流保全の全島展開
- 「あわじ緑花スタイル」の推進



中学校での銅鐸復元品の展示

地域づくり活動の実践的な知識やノウハウを学べる学習機会の確保

■「参画と協働ガイドブック」を活用した県民への普及・啓発

参画と協働に関する県民意識を醸成するため県民の地域づくり活動のためのヒントや県行政へのアプローチ方法などをまとめたガイドブックを公表

■高齢者の特殊詐欺被害防止に向けた啓発事業

特殊詐欺の標的となりやすい高齢者に対し、自治会・老人クラブ等のリーダーを対象とした出前講座を実施（14講座）

■「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンの実施

地域住民が共に支え合うことのできる社会づくりを進めるため、地域フォーラムの開催などの普及啓発事業に要する経費を補助（248団体参加・全県対象の「推進フォーラム」のほか、地域ごとのフォーラムを開催）

■地域サポート事業（安心地区）

高齢者等による地域住民への生活支援サービスを推進する安心地区の運営支援及び普及を推進（実施箇所15か所）

■地域における認知症支援体制の強化（啓発キャンペーン等）

認知症への理解を促進するため、啓発月間に街頭キャンペーンやウォーキング等により認知症の人とふれあう機会を創出（全県キャンペーン3回、ウォーク10回）

■ひょうご介護サポーター研修事業

特別養護老人ホームや介護老人保健施設において、中高年齢層、子育てが一段落した助成、離職者等を対象に、介護業務の1日体験を実施し、興味を抱いた方参加者に「ひょうご介護サポーター」として登録してもらい、就労関係等の情報を提供

（ 人）

■介護支援専門員への自殺予防研修の実施

介護を受ける高齢者や家族の自殺を防止するため、介護従事者に対する研修を実施（3か所237人参加）

■いのちとこころを支える相談職員養成研修

自殺対策に従事する職員等が自殺リスクの高いものから援助を求められた場合に適切に対処できる対応力を習得するための研修を開催（26人養成）

■ひょうごいのちとこころのサポーター養成事業

相手の心に寄り添い、安心感を与え、ほほえみや笑いを引き出す「いのちと心のサポーター」を養成（74人養成）

■新規就農駅前講座等推進事業

サラリーマン等が現在の職業を続けながら就農に必要な農業の基礎知識が習得できる講座を開催することにより、新規就農意欲を喚起し、就農を促進（受講者78人）

■児童養護施設の専門力による地域の子育てママ支援

児童養護施設が蓄積してきた子育ての専門性と実践性を活用し、地域の子育て支援の一助となる活動を展開（親子地域交流会及び相談会、親子育ち講座の開催）

(3) 活動・交流拠点確保

◆ 身近な活動拠点や地域の「たまり場」づくりを支援

地域づくり活動に取り組む団体が、住民の交流を促進する地域のたまり場づくりや地域間交流とにぎわいの拠点づくりを支援するとともに、生涯学習、地域づくり活動の広域的な拠点の充実を図りました。

身近なたまり場づくり支援

■ 県民交流広場事業の展開

概ね小学校区を単位として、地域づくり活動の場の整備と活動経費の助成を行うとともに、地域コミュニティの担い手確保や広場のネットワーク化を支援

ふれあい体育祭などのイベントやコミュニティカフェの開設・運営など多彩な活動を展開（広場実施数 727 地区（累計） 平成 29 年度助成 30 地区）



地域住民の交流行事
（広場事業で整備した施設でのイベント）



大学生と取り組む地域活性化
（地域住民と大学生との交流）

※新規開設は平成 25 年度末で終了

※助成限度額（1 小学校区あたり）整備費 1,000 万円以内 活動費 300 万円以内

※実施地域へのフォローアップ：全県から広場が集う「ふるさと交流会 2017」
県民局・県民センター単位の「地域交流フェスタ」
コミュニティ応援隊の派遣等

■ まちの子育てひろば事業の推進

子育て中の親子が気軽に集い、仲間づくりを通して子育ての悩みや情報共有の場として、「まちの子育てひろば」を開設し、コーディネーターや専門家を配置（ひろば開設数 2,046 か所）

■ 子どもの冒険ひろば事業の推進

身近な地域の大人が子どもたち（主に小学生）を見守り、安心して自由に遊べる場である「子どもの冒険ひろば」を開設し、地域ぐるみの子育てを推進（ひろば開設数 621 か所）

■ 高齢者自立支援ひろば設置事業

災害復興公営住宅に、高齢者の自立を支援するひろばを設置し、自治会等と連携して常駐型の見守りや介護予防事業等を実施（設置箇所 51 か所）

■ 職場と地域の健康づくり環境整備事業

働き盛り世代の健康づくりを支援するため、企業等の空きスペース等の運動施設への改修や運動機器の整備、健康管理機器の購入のための経費を補助（補助件数 12 件）

■子育てほっとステーション設置事業

子育て家庭の孤立防止のため、商店街等の空き店舗を活用して親子がくつろげるスペースを設置（設置箇所 51 か所（累計））

地域間交流とにぎわいの拠点づくり支援

■古民家再生促進支援事業の実施

既存ストックの有効活用、伝統的木造建築技術やまちなみ景観の維持・継承を図るため、地域活動や交流・宿泊施設、店舗など地域のにぎわいや地域活性化に資する施設改修費を補助（実績 3 件）

[主な内容]

- ・ コワーキングスペースを有する施設として活用（洲本市）
- ・ 地域食材を中心とした食事を提供する農家食堂、マルシェとして活用（神戸市）
- ・ 地域産品を提供する飲食店として活用（南あわじ市）

■商店街新規出店・開業等支援事業

商店街の空き店舗への新規出店・開業や、子育て・高齢者支援等の地域交流・生活支援施設の設置運営等を支援し、商店街の魅力向上と活性化・コミュニティ機能強化を促進する取組に加え、若者・女性チャレンジ枠を拡充し、幅広い世代の参画を促進（新規出店・開業支援事業 38 件、空き店舗再生支援事業 13 件）

■空き家活用支援事業の推進

空き家の有効活用や地域活性化を図るため、地域交流拠点として活用する場合の改修費を補助（実績 1 件）

[主な内容]

- ・ 交流スペース兼ギャラリー・工房として活用（豊岡市）

■地域直売所整備促進事業

J A、農林漁業者等が組織する団体、N P O、自治会等が、農産物等の直売（買）活動を行うのに必要な施設・備品の整備等を支援（直売所利用者 26, 01 万 2 千人）

■楽農交流事業

生きがいとして農業を楽しむ人を対象とした基礎的技術の習得や、本格的に就農を目指す人を対象とした総合的技術の習得に係る研修等を実施し、県民の楽農生活の実践を支援（受講者 194 人）

■ふるさとむら活動の支援

集落（ふるさとむら）に都市部の県民をボランティアとして受け入れ、共に農作業や交流イベント等を行う活動を支援（ボランティア参加者 人）

■「ジャズの街 神戸」の推進（神戸）

神戸ならではの特色あるエリアでジャズイベントを定期的で開催（1 DAY JAZZ ROAD 出演バンド数 8 組／聴衆 950 人、六甲山夜景ジャズライブ出演バンド数 4 組／聴衆 150 人、お寺でジャズライブ in 兵庫津 出演バンド数 4 組／聴衆 150 人）

■水辺の魅力アップ交流促進事業（東播磨）

地域の小学生がため池や疏水を教材に学習し、地域の財産としての認識を高めるとともに、「ふるさと意識」の醸成につなげるため体験型の「ため池学習、疏水学習」を推進（ため池学習12校、疏水学習11校、ため池教育プログラム1校）

県民参加型によるアカミミガメなどの外来生物対策等の支援（外来生物捕獲、防除講習会の開催8地区）

■ため池コウノトリプロジェクト（東播磨）

ため池群を核とした地域団体が取り組む、コウノトリの生息環境整備や地域住民への啓発活動等を支援（かいぼりリレー、ビオトープ整備、浅瀬造成、野鳥観察会等4地区）

■道の駅「銀の馬車道・神河」（仮称）オープン関連事業（中播磨）

平成29年11月開業した道の駅を銀の馬車道の主要ステーションと位置づけ、沿道の活性化を図るため、観光拠点強化及びオープニングイベント開催を支援

観光ポスター、パンフレット設置スペース整備、銀の馬車道商品の販売スペースの整備を支援

■西播磨「ふるさとの風景づくり」整備事業（西播磨）

地域資源を活かした地域づくりを進める「西播磨ふるさとの風景づくり活動」を実践してきた集落等の活動がステップアップできるよう、市町や団体による集落再生に必要な施設整備を支援（活性化施設等の整備10件）

生涯学習・地域づくり活動の広域的な拠点づくり

【生涯学習・地域づくり活動の拠点】

■ひょうごボランティアプラザの運営

ボランティア活動に取り組む団体・グループ等を支援するため、活動・交流の場を提供（来所者数12,599人）

[機能]①交流・ネットワーク ②情報提供・相談 ③人材養成 ④活動資金支援
⑤調査研究 ⑥災害ボランティアの支援

■阪神シニアカレッジ専用学舎の整備

多様な学びの提供や学生同士及び卒業生等との交流の活性化を図り、新たな地域づくり活動につなげるため、阪神シニアカレッジの専用学舎整備を推進（H29実施設計及び建設工事）

■生活創造センター・生活創造情報プラザの運営

生涯学習や地域づくり活動に取り組むグループを支援するため、活動・交流の場を提供（利用者計973,498人）

[機能]①情報収集発信、②相談・助言、③学習機会提供、④ネットワーク化、
⑤協働事業企画実施、⑥支援機関連携促進

■「阪神南地域ビジョン交流プラザ」の運営（阪神南）

阪神南地域ビジョン委員の活動拠点となる場を阪神南県民センターに設置し、地

域ビジョンの実現に向けた継続的な活動を支援

【分野別拠点】

■兵庫陶芸美術館の運営

陶芸文化の裾野拡大を図るため普及事業や、県民交流を促進する取組を実施（来館者数 112,589 人）

■芸術文化センターの運営

舞台芸術を鑑賞・創作し、発表する機会を提供して芸術文化振興を図るとともに、地元商店街と連携したまちの賑わいづくりにも参画（公演入場者数 人）

■ピッコロシアターの運営

県立ピッコロ劇団の公演などを通じて県民が舞台芸術に触れる機会を創出（入場者数 人（6月中旬確定））

■原田の森ギャラリーの運営

造形芸術の情報発信拠点や創作活動の発表の場として施設を運営。利用団体等から成るギャラリー運営会議を設け県民の参画を促進（来館者数 164,612 人）

■横尾忠則現代美術館の運営

アーティストのライブやトーク、音楽家による施設内コンサートの開催など来館者だけでなく地域住民との交流も推進（来館者数 51,916 人）

■人と防災未来センターの運営

震災や防災に関する資料収集・展示をはじめ、実践的な防災研究、災害対策専門職員や若手防災専門家の育成、行政・研究者・市民・企業のネットワークの形成等を通じて、防災に関する知識及び技術の普及を促進（H29 来館者数 509,820 人）

■青少年交流プラザの運営

青少年や青少年団体の主体的な活動を支援するため、学習・交流の場を提供（来所者数 7,733 人）

■ひょうご国際プラザの運営

国際交流を実践するための場所、情報を提供し、ボランティアとの連携強化や、国際交流に関心のある県民とのネットワークづくりを推進（来所者数 24,750 人）

■ひょうごエコプラザの運営

県内の環境学習施設や環境学習の実践に役立つ情報等を発信するなど、県民の環境活動や環境学習を支援（利用者数 2,737 人）

■県立考古博物館の運営

県内の遺跡及び考古資料の調査研究を行い、その成果を活用して、誰もが主役として参加できる参加体験型・ネットワーク型の博物館活動を展開（来館者数 109,838 人）

(4) 人材確保

◆ 活動に参画・協賛する人材を確保

将来の後継者となる若者が活躍し、女性が持てる力を発揮し、高齢者がこれまで培ってきた知識や技能を生かすなど、全ての人々が活躍できる地域活動の機会づくり等を通じて、活動への参画を促進しました。

地域資源を活かした多彩な事業への住民参画促進

■六甲山における生物多様性保全事業の推進（神戸）

再生しつつある草原の環境学習やレクリエーションの場としての六甲山の利活用を推進（ガイド養成講座6回、ステップアップセミナー1回）

■六甲山自然保護センターの管理・運営（神戸）（新規）

管理・運営に加え、「山の案内人」やコーディネーターを配置することで六甲山の魅力発信と自然環境の重要性への理解促進による誘客促進

■六甲山自然保護センターを活用した環境学習の推進（神戸）

環境学習プログラムの実施や環境学習運営委員会による環境学習の選考検証など、六甲山のフィールド及び六甲山自然保護センターを活かした環境学習（26人参加）

■六甲山名建築物特別公開事業（神戸）（新規）

六甲山・摩耶山のツーリズム振興を図るため、常時公開されていない歴史的・建築美術的に貴重な建築物について、公開に向けた環境整備や見学ツアーや講演会（438人参加）の実施に対して補助

■「こうべ水の恵みウォーク」～淡山疏水の偉業にふれる～の開催（神戸）

日本の疏水百選・かんがい施設遺産に選定・登録された淡河川・山田川疏水（淡山疏水）を知り、親しんでもらうため、ウォーキング大会を開催（145人参加）

■阪神アグリパーク構想推進

阪神地域の多様な「農」と「食」に関わる活動拠点をアトラクションとし、地域全体をテーマパークと見立てた「阪神アグリパーク構想」を推進

農業者の自主運営による継続的なマルシェに発展させるため、試行的に阪神ファーマーズまちなかマルシェを実施（三田市ほか3市で9回）

■地域でキラリ☆走る環境学習教室（東播磨）（新規）

JR加古川線に貸切電車を走らせて移動し、加古川流域の生き物を実際に観察するなど、加古川を取り巻く環境について学ぶ学習教室を開催。温室効果ガス排出量が少ない乗り物である鉄道車両を利用することで、地球環境問題への関心や地球温暖化防止活動への取り組み意識の向上（平成29年7月29日、参加人数57人）

■北播磨地域ふるさと魅力発信サポート事業の推進（北播磨）

地域団体が実施する地域の魅力を発信する活動を支援。北播磨における交流人口の拡大促進

- 東条川疏水ネットワーク博物館構想の推進（北播磨）
「疏水百選」に選ばれている「東条川疏水」を、疏水の大切さを学習する場や地域の人たちが集える場などの地域資源として活用（イベント等参加者 6,000 人）
- 地域資源の再発見とその活用（北播磨）
管内の HACCP 承認施設を見学し、北播磨の地の利を活かした事業展開や企業の食の安全性確保に向けた取組の学習等を支援(44 人参加)
- 北播磨のため池安全・安心プロジェクトの推進（北播磨）
ため池災害の未然防止とため池を活用した総合治水（流域対策）のため、ため池簡易部分補修（6 団体）や管理体制支援事業（1 団体）を実施
- 環境学習の推進（中播磨）
中播磨地域づくり活動支援事業（助成事業）を活用して、地域団体が行う環境学習への取り組みを支援（助成：3 団体）
- 西播磨環境学習の推進（西播磨）
環境学習指導者養成のため、教員等を対象に、子どもの環境学習プログラムを学ぶ講座や小学生とともに行う水生生物調査を実施（講座参加者 213 人、生物調査参加者 256 人）
- 県立高等学校との連携による地域貢献をめざした新たな人材養成事業（西播磨）
公開講座の企画・受講やシニア向けファッションショーの開催等、高齢者大学受講生と高校生の連携事業を支援
- 「西播磨アグリフロンティアカレッジ」プロジェクト（西播磨）
西播磨地域で就農を希望する若年者を対象に、栽培技術や経営手法習得のための研修や、就農から定着までの支援を総合的に行い、担い手農業者として育成
- リニューアル記念“但馬文教府まるごと体感リレーイベント”の展開（但馬）
但馬地域の団体、教育機関等のネットワークを活かし幅広く連携。未来の但馬の担い手育成や文教府の周知及び利用促進（科学する但馬の子どものつどい 600 人、創作和紙人形展 500 人、マンドリンオーケストラ特別演奏 300 人、創作活動体験教室）
- ラムサール条約湿地の保全活動等による人材の育成（但馬）
ラムサール条約湿地で、高校生を主体とした若者によるフィールド観察・生態調査、保全活動等を実施し、湿地環境の保全推進と人材を育成。高校生が活動結果を発表する場を設定し、教育効果に貢献（調査・保全活動：8 回、参加者延べ 83 人、活動発表会：1 回、参加者 42 人）
- 鉱石の道プロジェクトの推進（但馬）
全国有数の鉱山として栄えた生野、明延、神子畑鉱山に中瀬鉱山を加えた 4 鉱山の産業遺産を「鉱石の道」として連携し、地域活性化を図るため、ツーリズムを通じて地域内外に魅力を情報発信（ガイド認定者数 14 人）
- コウノトリ翔る但馬まるごと感動市の開催（但馬）
多様な農林水産品や地場産品等の但馬ブランド、地域づくりに向けた取組等の発信や様々な資源を活用したツーリズムを推進するため、“食・物産”と“観光”をテー

マとした集客・交流イベントを開催（来場者数延べ 68 千人、出店（展）団体数 124 団体、ボランティアスタッフ参加者 129 人）

■清流の郷づくり大作戦の実施（但馬）

但馬北部の矢田川・岸田川・竹野川において、自然豊かな河川環境の復元を目指すにあたり、地域住民や漁協・高校生等の参画を得てイベントを開催し、農業用施設や環境保全に対する意識を高揚（環境保全イベント開催 10 回）

■丹波の環境パートナーシップづくり事業（丹波）

管内における貴重な動植物の保全・再生意識の高揚、環境学習の推進のため、住民参加型フォーラム開催や環境学習プログラム提供、体験型エコツアー実施（参加者 921 人）

■淡路人形浄瑠璃の振興（淡路）

淡路島の郷土芸能である淡路人形浄瑠璃の継承・発展に向けて、島外公演や後継者交流会の開催、人形浄瑠璃のふるさと“西宮～淡路～徳島～京都”の関係者が集い情報交換等を実施

■「淡路島文枝 100 選」を活用した誘客促進（淡路）

淡路島名誉大使の桂文枝さんが淡路島の自然、景観、歴史、文化、食など島の魅力から選定した「淡路島文枝 100 選」PR 動画を更新し、1 枚に再編集した DVD を関係各所に配付

交流等を通じた活動のきっかけづくり支援

■「がんばる地域」交流・自立応援事業

住民や地域等が企画した、地域活動及び交流拠点等の整備に要する経費を支援し、多自然地域の自立に向けた取組を促進（実施地区 23 か所）

■地域振興事業費補助

自然環境の保全や人材育成等、地域住民や民間団体が行う地域ビジョンの推進及び地域固有の課題解決に資する活動等に対して助成を実施（2 団体）

■ひょうご安全の日推進事業

NPO・ボランティアとの協働により 1.17 のつどいやメモリアルウォークを実施（つどい参加者 1,200 人、メモリアルウォーク参加者 2,000 人）

■地域相互見守りモデル事業（通称「地域となり組」）実施（新規）

子育て支援や高齢者の見守り、地域防犯活動など住民主体の地域づくり活動や住民交流の場づくり等を通じて、近隣住民が互いの顔の見える関係をつくることにより、世代・性別を問わず日頃から助け合いのできる地域コミュニティの構築を目指す取組を支援（9 団体）

■ひったくり防止キャンペーン事業（阪神南）

ひったくり防止の気運を高め、地域の主体的な取組を支援するため、管内各警察署、防犯協会等関係機関とも連携しながら啓発活動等を推進（防止キャンペーン 11 回）

■自転車運転マナーアップキャンペーンの実施（阪神南）

自転車関連事故発生件数の減少を図るため、各警察署、交通安全協会等と協働・連

携して、啓発グッズの配布等のキャンペーンを実施（啓発キャンペーン 24 回）

■ ころ豊かな人づくり 500 人委員育成事業の推進

青少年育成活動や地域づくり活動に積極的に参画する担い手を育成するため、500 人委員会 O B 会等で構成する実行委員会を設置し、セミナーや交流活動を実施

■ 多面的機能支払交付金制度の推進

農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮と地域資源の保全管理の担い手育成のため、自治会や子供会等の多様な団体との協働活動に支援（交付対象組織数 1,978 組織）

■ 生物多様性ひょうご戦略の推進

行政、NPO、事業者、県民等の連携・協働による生物多様性の保全・再生活動を支援するため、NPO 等による活動発表会などを実施（参加者 111 人）

■ 住民参画型森林整備

地域住民やボランティア等による自発的な森林整備活動に対し、資機材等を支援（12 地区（22.6ha））

■ コウノトリの野生化推進事業

コウノトリの野生復帰を進めるため減農薬・無農薬の「コウノトリ育む農法」を普及させる等、住民の参画と協働による取組を推進（H30.3.31 現在野外個体数 118 羽）

■ 里親制度の推進

里親制度の推進・運営のために、研修や養育相談事業、里親里子交流等を実施

短時間でも参加できる活動の機会の提供

■ 女性の就業サポート事業

出産・育児等で仕事を離れた女性の再就業や継続就業を支援するため、セミナー等の開催や職業相談・職業紹介等を実施（出前チャレンジ相談 243 人）

■ わくわく幼稚園の開設

幼稚園や保育所に通っていない在宅幼児を対象に、私立幼稚園等で在園児と同等の基本的な生活習慣を身につける専門的幼児教育を実施（146 園）

■ 乳幼児子育て応援事業〔私立幼稚園〕

地域の幼児教育センターとして、在宅乳幼児の子育てを支援するため、地域の私立幼稚園等で幼児教育体験や親子交流会等を実施（209 園）

■ わくわく保育所開設事業

地域における子育て支援の裾野を拡大するため、民間保育所における在宅児童（3～5 歳児）等に対する幼児教育・体験保育を先導的に実施（87 園）

■ 乳幼児子育て応援事業〔民間保育所〕

地域における子育て支援の裾野を拡大するため、民間保育所において在宅の 0～2 歳児とその親を対象に実施する幼児教育体験や親教育、遊び指導等を支援（495 園）

■環境体験事業の実施

小学生のふるさとの自然への愛着を醸成するため、保護者、地域ボランティア、NPO等との協働により、体験型環境学習を全公立小学校で実施（支援者延べ13,239人（752校））

■「スポーツ立県ひょうご」創出プロジェクト事業

全県スポーツサミット等の開催、大学・企業や障害者スポーツと連携したスポーツイベント及び親子で行うスポーツ大会等を実施（全県スポーツサミット参加者243人ほか）

■あわじ全島ゴミゼロ作戦の推進

分別・リサイクルなどによるごみの減量化や、漂着ごみ問題に対する住民の環境意識向上を図る取組を推進（一斉清掃年2回・参加者68,527人）

地域の中での若者の居場所づくりと新たなチャレンジの支援

■「ひょうご子ども・若者応援団」活動促進事業

青少年の健全育成に意欲ある企業・団体等と地域の青少年育成活動をつなぐため、ニーズマッチング及び寄附金を原資とした助成事業を実施（マッチング223件、助成54件）

■「ふるさとづくり青年隊」事業

地域の青年が地域外の青年と協力し地域の課題解決や地域活性化に取り組む活動を支援（9団体）

■「ひょうご若者ビジョンフォーラム2017」の開催

21世紀兵庫長期ビジョンの実現に向け、次世代を担う若者が兵庫の未来をつくるビジネスプランを提案するフォーラムを開催（9/19、38人参加）

■ひょうご青少年社会貢献活動認定制度の推進

社会意識の高い青少年の育成のため、ひょうご青少年社会貢献事業に参加した青少年の活動実績を、企業の採用選考等で活用できるよう公的に認定（参加者 人）【実績未確定】

■ものづくり体験館体験事業の実施

中学生等の職業意識醸成のため、本格的なものづくり体験の機会と場を提供（ものづくり体験学習105校、11,943人）

■「学びの農」実践活動促進事業

次代を担う子どもたちが、兵庫県の農林水産業を総合的に学び、ひいては本県農林水産業の理解者、応援団として育成するため、農林水産業の理解促進に資する活動を支援（副読本を県内公立小学校へ配布146校）

■自然学校の推進

小学生が自然に触れる機会を確保するため、技術指導員、自然学校に帯同する大学生等の指導補助員やボランティア等の支援を受けて、全公立小学校で実施（支援者延べ5,010人、752校）

■道徳教育推進事業の実施

児童生徒の道徳性を育成するため、道徳教育実践推進協議会の設置や実践研修の実施、実践事例集の作成等を実施(道徳教育実践研修の実施(年2回全県・地区別))

■県立高等学校における郷土伝統文化の継承振興

伝統ある郷土の文化を後生に伝えていくために、高等学校の部活動における郷土伝統文化継承事業を推進(推進校指定4校)

■高校生就業体験事業～インターンシップ推進プラン～の実施

高校生が就業について主体的な選択ができるよう、職業体験や職業人やキャリアアドバイザーによる進路講演会等の講話等を実施(インターンシップ140校(95.2%)、進路講演会の実施135校(91.8%))

■阪神北若い力の魅力発信事業(阪神北)

若い世代が持つ可能性を再認識し、ふるさと意識の更なる醸成を図るため、「きらっと☆阪神北オータムフェスタ」の場で、日頃の活動成果を発表する機会を提供するとともに、若者の感性を生かした広報・PRを展開

■西播磨就職フェアの実施(西播磨)(新規)

西播磨地域での就職を希望する若年者等と、人材の確保を目指す企業とのマッチングの場を提供するため、西播磨就職フェアを実施
(3/6 姫路商工会議所、参加企業50社、参加者:大学生222人、高校生65人)

■ラムサール条約湿地の保全活動等による人材の育成・普及啓発(但馬)

湿地環境の保全推進と人材育成を図るため、ラムサール条約湿地で、高校生を主体とした若者によるフィールド観察・生態調査、保全活動等を実施(調査・保全活動8回開催、参加者延べ83人(3高校))

■丹波の森若者塾の実施(丹波)

県立高校生が、丹波地域に活動拠点を持つ大学の教員及び大学生のサポートを受けながら、自身の力でふるさとの魅力を発見できる研究・体験・交流活動を支援(参加高校数6校)

■「淡路ふるさと学習副読本」、「あわじ環境未来島副読本」の活用(淡路)

副読本「あわじ環境未来島副読本」、「淡路ふるさと学習副読本」を作成配布(淡路島内の小学校(42校)に副読本を約3,000部配布)

女性があらゆるライフステージで参画できる環境づくりの推進

■男女共同参画リーダー養成講座の開催

地域で男女共同参画社会を推進する人材を養成するための講座を開催(修了生20人(うち女性19人))

■女性の活躍推進

企業訪問等を通じ企業における女性活躍の取組を働きかけるほか、女性の継続就業や職場復帰を目的としたセミナーを開催(企業訪問76社、セミナー開催13回)

■女性起業家支援事業

地域経済の活性化を図るため、有望なビジネスプランを有し、県内で起業を目指す

女性起業家等を支援（補助件数 45 件、申請件数 196 件）

■ひょうご仕事と生活センター事業の推進

ワーク・ライフ・バランスの全県的な普及を図り、多様で柔軟な働き方を推進するため、ひょうご仕事と生活センターにおいて、県内企業を対象に普及啓発、情報発信、相談・研修、各種助成事業等を実施（研修実施企業数 185 社）

■ひょうごで輝く女性農業者の活躍促進（新規）

女性向けの就農セミナー相談（セミナー参加者 38 人、相談者 20 人）や、若手女性農業者の交流会（参加者 10 人）、女性農業者の活躍事例の紹介冊子の作成により女性の就農促進と活躍を推進、女性を雇用する事業者向けの雇用研修会（参加者 36 人）や商品展示会を開催

■たんばの女性の活躍支援事業（丹波）

子育て中や丹波地域への移住希望の女性等の起業に必要なビジネスプランの指南と、事業立ち上げ等に関する様々な課題解決や悩み相談等を実施（参加者 21 人、ビジネスプラン完成 10 人）

シニア世代の知識や技能を地域で発揮する取組支援

■地域祖父母モデル事業

子育て支援に携わりたいというシニア世帯が、支援を受けたい子育て世帯に対して祖父母のように日常的に行う見守りや相談、緊急時の一時預かり等を通じ、地域における三世代家族の育成、地域全体で安心して子育てができる環境づくりを推進（実施地区 40 地区、実施団体 16 団体、マッチング数 457 組）

■老人クラブ活動強化推進事業

高齢者の生きがいをづくりと社会参画を促進するため、老人クラブと市町老人クラブ連合会が実施する、会員の生きがいと健康づくりのための諸活動を支援（補助対象数 4,756 クラブ）

■シニア起業家支援事業

地域経済の活性化を図るため、有望なビジネスプランを有し、県内で起業を目指すシニア起業家等を支援（補助件数 36 件、申請件数 80 件）

■高齢者起業支援事業

高齢者のグループによる、長年培った知識、経験等を活かした地域社会に貢献するサービスの提供活動等の立ち上げを支援し、参画や生きがいをづくりの支援（採択団体数 1 団体）

■高齢者コミュニティ・ビジネス離陸応援事業

高齢者の就業機会を創出するため、高齢者がコミュニティ・ビジネスを立ち上げる際に必要な経費の一部を補助（補助件数 14 件）

■シニア世代地域デビュー・交流フェスタの開催（東播磨）

シニア世代の地域づくり活動への参画を支援し、きめ細やかなマッチングが図られるよう、交流フェスタを開催（15 回、参加者延べ 186 人、参加団体延べ 15 団体）

■元気な高齢者や女性による地域安全まちづくり活動の推進

高齢者大学等に地域防犯講座を設置し、元気な高齢者の防犯活動への参加を促進するとともに、女性による女性のための地域安全ワークショップを開催し、女性の防犯意識の向上や防犯活動への参画を促進（防犯講座参加者 834 人、ワークショップ参加者 13 人）

各活動のOB・OGと地域での活動支援

■高齢者大学地域活動支援センターの運営

いなみ野学園、阪神シニアカレッジの学生や卒業生による地域づくり活動に関して、マッチング等による支援（マッチング：いなみ野 31 件・阪神シニア 27 件）

◆活動団体の担い手を育成

地域づくり活動の核となるリーダーの育成や後継者の発掘・育成支援に取り組みました。また、誰もが円滑に団体業務を担えるよう、活動に必要なノウハウ、相談・調整先等を学ぶ機会を提供しました。

リーダー養成支援

■ふるさとひょうご創生塾の開設

地域課題解決のための専門的な講義に加えてリーダーシップを身につけるための実践的なカリキュラムを実施し、一定の成果を収めた修了者を「ふるさとひょうご創生マイスター」として認定（入塾者数 18 人 卒塾者数 13 人 卒塾生累計 574 人、自治会等地域団体やNPOのリーダー、審議会委員等として活躍）

■生涯学習リーダーバンクの設置

県民の主体的な学習活動を支えるボランティア指導者の人材登録制度を運営（登録者数 246 人）

■防災リーダーの育成

自主防災組織など地域防災の担い手となる人材を主な対象として、防災に関する知識・技術を体系的・実戦的に習得するための講座を実施（修了者 224 人）

■いずみ会のリーダー養成と組織育成・活動支援

よりよい食生活を地域へ浸透させ、県民の積極的な健康づくりを推進するため、兵庫県いずみ会リーダーの養成や健康課題を踏まえた食生活改善活動を展開（いずみ会リーダー養成数 209 人）

■たんば交流実践リーダー育成モデル事業（丹波）

地域づくりを担う次世代の育成リーダー養成講座の実施・まちづくり交流会を開催し、都市部の参加者等新しい視点を交え交流事業を運営できる地域人材の育成に寄与（講座 2 回実施、延べ 42 人）

組織運営などのノウハウ・知識を有する人材養成

■ひょうご地域再生塾の実施

専門科目の講義と先進地の視察を通じ地域資源を活かした地域活性化の担い手を育成（実施地域 4 地域（西播磨、但馬、淡路、丹波））

■事業所防犯責任者設置事業

事業所における地域安全まちづくり活動を促進するため、防犯点検・改修の実施、事業所内の防犯体制の整備等の役割を担う「防犯責任者」の各事業所での設置を促進（設置届出数 9,038 人）

■自主防災組織の活性化

自主防災組織が実施する避難訓練等を支援する「自主防災組織避難訓練等補助事業」などを実施し、自主防災組織の活性化を推進（補助 30 件）

■ボランティア振興事業

地域福祉のコーディネーター育成のための研修・会議の開催や市町ボランティアセンターへの個別支援を推進し、地域における福祉コミュニティを形成

■認知症の人と家族を支える地域の人材育成（キャラバン・メイト等）

認知症の人とその家族を地域で支える体制づくりのため、正しい知識と具体的な対応方法等を市民に伝える講師役のキャラバン・メイトを養成（県養成者数 190 人）

■みんなの声かけ運動の推進

障害者、高齢者、妊婦などまちで困っている人に、みんなが声をかけて助け合う「みんなの声かけ運動」推進のため、推進員の登録及び企業・団体等との応援協定を締結（協定締結団体 22 団体（累計 168 団体））

■生涯学習ボランティア活動支援・推進事業の実施

博物館等におけるボランティア活動の拠点となる博物館ボランティアセンターを開設し、情報提供・相談を行うとともに、各種セミナー等を実施（養成セミナー参加者 237 人）

■共生博物館地域研究員養成事業の実施

ひとはく地域研究員をはじめ多様な個人・団体の研究や活動の成果発表機会を確保することで、人と自然の博物館との連携事業やボランティア活動等の実践におけるコーディネーターとしての更なる資質向上を推進（発表会参加者 750 人（76 件））

■篠山層群化石を活用した地域活性化を目指す人材システム構築事業

篠山層群から出土した岩砕を活用して、丹波市および篠山市において 21 日間の研修会を行い（参加者延べ 200 人）、石割と化石割出ボランティアの人材育成を実施した（登録者：石割 24 人、化石割出 2 人）

■防災情報活用研修会の実施（北播磨・丹波）

自主防災組織リーダー等を対象とし、モバイル端末を活用した防災情報の収集方法等を習得する研修を実施（参加者：北播磨 219 人、丹波 145 人）

■北播磨圏域認知症対策基盤整備支援事業の推進（北播磨）

早期認知症対策として、地域の交流基盤の整備を支援し、認知症の人やその家族の応援団となる人材を育成するため、認知症カフェの立ち上げ支援及び認知症に関する専門研修を実施（北播磨型認知症カフェ（絆カフェ）立ち上げ支援 5 か所）

■攻めの農業の推進（北播磨）

北播磨の農産物について、黒田庄和牛同志会、若手ぶどう生産農家等と協力し、生

産性向上や販路開拓を推進（黒田庄和牛の飼養技術改善への支援2件等）

■北播磨森林（もり）の担い手フォローアップ作戦

森林組合作業員を対象とした先進事業体等での現地研修を実施（現地研修開催等12回、58人受講）

■地域防災力の充実・強化（但馬）

風水害や地震などの自然災害に対して、防災知識の普及・啓発を進め、県民の防災意識の更なる高揚を図るため、防災講座、防災リーダーフォローアップ研修等を開催

◆ 地域活動に取り組む多様な主体を育成

地域が抱える課題をビジネスの手法により解決していこうとする地域運営組織の設立（法人化）への取組、地域課題を解決するための地域団体の取組、生活支援サービス維持に向けた取組への支援や、大学や企業が保有する知見や活動資源（人材、資金、施設等）を地域づくりに活かす取組を支援しました。

グループ、団体・NPO等の取組支援

■地域創生（再生）会社設立・運営支援事業

地域活動から事業活動への転換を促進し、持続的、自立的な地域づくりの実現を図るために、専門アドバイザーなどの派遣を行うとともに地域運営組織の設立（法人化）のために必要な経費を支援（補助実績3件）

■まちづくり防犯グループの活動支援（防犯カメラ設置補助事業）

地域の見守り力の向上を図るため、まちづくり防犯グループ等の地域団体が行う防犯カメラの設置に係る経費を助成（487団体・487か所）【未確定】

■地域安全マップ作成支援事業

“死角のないまちづくり”に向けて、まちづくり防犯グループ等が行う活動地域内の危険箇所等を点検する地域安全マップ作成に係る研修を実施することにより、地域の防犯力向上を推進（22か所）

■DV防止対策の実施

民間支援団体によるDV被害者支援活動を強化するため、DV被害者支援ボランティア養成講座、DV被害防止啓発事業、DV被害者へのカウンセリング等を委託（委託団体数延べ10団体）

■空き家を活用したグループハウス設置モデル事業

要介護2以下で一人暮らし等のため自宅生活に不安のある低所得の高齢者が、見守り等の支援を受けつつ共同生活を行う「グループハウス」を、空き家を活用し設置・運営するNPO法人や社会福祉法人等に対して、バリアフリー改修工事等に要する経費の一部を補助

■商店街ご用聞き・共同宅配の実施

買い物利便性の低い市街地や、中山間地域等における商店街等で行われている、地域特性や住民のニーズに応じた買い物利便性を高めるための取組を支援（実施件数4件）

■商店街次代の担い手支援（新規）

次代を担う商店街リーダーとして、商店街の若手商業者グループが取り組む活動を支援するとともに、活動の成果発表をする場（全県交流会）を設け若手商業者の交流を通じ、ネットワーク形成と学びの深化を支援（補助実績 8 件）

■レジ袋削減対策の推進

「ひょうごレジ袋削減推進会議」は全県的にレジ袋の削減を推進することとし、消費者等にマイバッグの持参を推進

■地域団体等による藻場・干潟等の再生・創出支援事業

地域の多様な主体による瀬戸内海沿岸域の良好な環境の再生等、豊かで美しい「里海」づくりの取組を推進するため、地域団体等が行う新たな藻場等の再生・創出を支援

■「地域ふれあいの会」による地域安全活動の推進

地域住民と協働して地域安全活動を推進するため、県下全域に地域ふれあいの会を設置し、防犯パトロール・キャンペーン等を実施（委員活動回数 26, 047 回）

■「走る防犯の目」活動事業（阪神南）

県道路パトロールカーなどにドライブレコーダーを搭載することにより、防犯活動の強化・街頭犯罪の抑止を促進（搭載数 54 台）

■子育て世代対象の体験型交通安全イベント事業の開催（阪神南）

受講機会の少ない子育て世代の理解促進のため、交通安全教室等親子で楽しみながら交通ルールを学ぶイベントを実施（参加者約 300 人）

■廃棄物不適正処理未然防止活動の拡充（阪神北）

地域住民、県、市町、警察等の主体が連携して、監視パトロールやクリーン活動などの未然防止活動を行い、市民力を活かした廃棄物不適正処理に強い地域づくりを推進（不法投棄未然防止協議会：宝塚市西谷地区（13 自治会）、猪名川町阿古谷地区（3 自治会）、猪名川町北部地区（4 自治会））

■不法投棄・不適正保管への地域一体となった対応の強化（北播磨）

地域住民、事業所と行政が一体となって不法投棄、不適正保管への対応を強化し不法投棄、不適正保管を許さない地域づくりを効果的に推進するため、監視カメラ、啓発看板、防止ネット等を提供（不法投棄防止地区 259 地区、不法投棄防止協力事業所 119 事業所を指定）

■住民全体の介護予防・介護支援の推進（丹波）（新規）

地域住民が主体となって運営し、健康づくりを継続的に実践していく仕組みを構築するとともに、「丹波地域介護支援サポーター」の養成により、地域住民による介護力の底上げを推進（講座開催 5 回）

■廃棄物の適正処理の推進（淡路）

不法投棄防止看板や資材の貸し出し等、地域住民等が実施する不法投棄監視活動を支援することにより活動の活性化を図る。また、広域的に移動している産業廃棄物の不適正処理を未然に防止するため、廃棄物運搬車両の路上検問を徳島県と合同で実施（合同検問実施 1 回、検問車両 7 台）

■地域防災力の向上支援（淡路）

活動の機運醸成を図り、避難訓練の実施等の防災活動への取組を促進するため、イベントを開催するほか、島内小中高等学校に対して防災学習経費を補助（福良地区防災フェスタ来場 約 500 人）

コミュニティビジネス等の事業化支援

■地域おこし協力隊等起業化モデル事業

多自然地域において多様な集落活動サービスが利用できる地域づくりを進めるため、集落（地域）が集落に関わる人材（地域おこし協力隊・集落支援員等）と協力して起業する場合に支援（実施地域 12 地域）

■ソーシャルビジネスの実現に向けた障がい者就労支援モデル事業

障害者が安心して働き続けられる環境づくりのため、社会問題の解決を目的として収益事業に取り組む「ソーシャルビジネス」の実現・普及の可能性を探るためのモデル事業を実施
（モデル事業例）発達障害などを抱える若者に対する支援を行う団体が野菜の生産及び販売を行う取組に対して補助

■コミュニティ・ビジネス等総合支援事業

コミュニティ・ビジネスの起業や就業等を支援するため、運営等に関する相談対応や立ち上げの際に必要な経費の一部補助等を実施（相談件数 17,360 件、起業団体数 363 件、補助件数 9 件）

[主な起業例]

- ・社会起業家たちが集まる寄付型店舗とコワーキングを融合させたコミュニティスペースを設置（神戸市）
- ・形が悪い野菜など、これまで廃棄処分されていた地元の減農薬・無農薬作物を無添加ペットフードへ加工し、新たなアグリビジネスを開拓（豊岡市）

大学の活動支援

■COC事業（地（知）の拠点整備事業）

県立大学が市町と連携して地域課題解決のためのプロジェクトを研究成果としてまとめ、カリキュラムの中で共有（6プロジェクト、地域入門科目履修学生数 339 人）

企業等の地域貢献支援

■企業の社会貢献活動の促進

地域密着型の CSR を行っている企業へのインタビューを HP「地域とともに歩むひょうごの企業」で発信（インタビュー 10 社、累計 97 社）

■地域サポート型（特養）推進事業

高齢者の安心した生活を支援するため、生活援助員(LSA)等を配置して地域の高齢者の見守り等に取り組む特別養護老人ホーム等を「地域サポート型施設（特養等）」として認定し、活動を支援（累計 57 か所）

■企業のふるさと支援活動推進事業

企業による農山漁村への様々な支援活動について、企業ニーズ等に応じた幅広い活動を推進するため、活動フィールドに応じて企業と農山漁村とのマッチングを支援（協定締結 累計 7 件）

■企業の森づくり推進事業

「新ひょうごの森づくり」の趣旨に賛同する企業が所有者に代わって県内の森林を整備・保全する活動に対して支援し、多様な担い手による森づくりを推進（実績2社）

■阪神地域 障がい者就労促進大会の開催（阪神南・北）

障がい者の自立と社会参加をめざし、阪神間の市町障害者就労支援センターとハローワーク、一般企業が、障がい者の働きたいとの希望を応援（シンポジウム参加者215人、就職面接会での就職者 人）

(5) 資金調達支援

◆ 活動の立ち上げと自立に向けた財政的支援

地域づくり活動に取り組む団体やボランティアグループ・NPO等の活動が安定的・継続的に展開できるよう、持続的で自立に向けた取組や先導的な取組等を支援しました。

地域づくり活動の実現に向けた財政的支援

■ 地域づくり活動応援事業

地域団体の活性化やコミュニティの充実をめざして、地域団体が創意工夫により企画・提案する事業に対して助成。公開提案会や報告交流会を実施（助成件数 277 件、助成金額 49,941 千円）

【主な内容】

- ・六甲を拠点とした世界とつながる地域コミュニティ（神戸市）
- ・高齢者社会対応調査研究事業（多可町）
- ・かいばら雛まつり（丹波市）

■ 暮らしの持続チャレンジ団体助成事業

生活の質を重視したすこやかな暮らしづくりや新たな産業・雇用の創出、賑わいのあるまちづくりなど、暮らしの持続につながる新たな取組にチャレンジする NPO 法人等を支援（助成件数 7 件、助成金額 800 千円）

■ 地域創生！再エネ発掘プロジェクト事業（新規）

再生可能エネルギー発電設備の導入に向けて地域団体等が協働で実施する取組に対し、事業化に向けた立ち上げ時の取組、基本調査・概略設計等の一部費用を補助
また、導入の意欲はあるが、資金やノウハウが不足する自治会等に対し、無利子貸付を実施（立ち上げ時の取組支援 2 団体、基本調査等補助 1 団体、無利子貸付 2 団体）

■ ひょうごボランティア基金助成事業

ボランティアグループ・団体や NPO 法人等が行う地域づくり活動に対する資金支援を行い、活動の活性化を推進。交流会の開催等を通じ、団体・グループの活動のレベルアップを支援

【県民ボランティア活動助成】

法人格を持たないグループによる草の根の活動に対し助成（助成件数 3,546 件 助成金額 88,650 千円）

【助成内容】朗読ボランティア、点訳ボランティア、手話サークル、傾聴ボランティア、ふれあい喫茶、ふれあい給食、いきいきサロン、防犯パトロール、子育て支援、読み聞かせ、留学生支援 等

【地域づくり活動 NPO 事業助成】

NPO 法人等が地域団体等と連携し、機動力、専門性を生かして地域づくりを進める活動に対し助成（助成件数 33 件 助成金額 14,992 千円）

【助成内容】就学後の子育て支援、田舎暮らし体験、生活再建及び再犯防止のための支援、古民家再活用による地域活性化、認知症予防プログラムの実施 等

【中間支援活動助成】

地域のNPO法人等の活動を支援するNPO法人、公益法人等の活動に対し助成（助成実績18件 13,551千円）

[助成内容]団体の組織力向上、ファンドレイズを中心とした相談、NPO・地域団体連携マッチング、中堅スタッフ育成、ネットワーク強化 等

◆ 活動資金を生み出す仕組みづくりを支援

ふるさとひょうご寄附金や、クラウドファンディングの仕組み整備など、多様な資金確保の仕組みによる地域活動への支援を行いました。

資金調達のノウハウの提供・寄附文化の醸成

■キラリひょうごプロジェクト（ひょうごふるさと応援・成長支援事業）

地域資源等を生かした県内中小企業の優れたビジネスプランを「キラリひょうごプロジェクト」として選定し、投資型クラウドファンディング（インターネットを活用した小口投資）による資金調達や顧客獲得を支援（実施プロジェクト7件）

[主なプロジェクト]

・老舗料理旅館が狩猟から手掛ける「白味噌ぼたん鍋」プロジェクト（神河町）等

■「ふるさとひょうご寄附金」の募集事業

ふるさとひょうご寄附金として、16プロジェクトに対して寄附を募り、県内外から多くの寄附申し出（1,792件、139,439千円）

(6) 連携支援

◆ 多様な主体の連携を支援

ネットワーク会議の開催や、地域づくり活動の取組の報告会などの場を活用し、ボランティアグループ、団体・NPO、企業、大学・学校等の多様な主体が情報を共有し、地域での連携につながる支援をしました。

ネットワーク会議や事業報告会を通じたつながり形成の支援

■子育て応援ネットの推進

小学校区ごとに地域の団体や住民がネットワークを組み、地域ぐるみの子育て家庭支援を全県的に推進（県内の全小学校区でネットワークを立ち上げ）

■ひょうご家庭応援県民運動の推進支援

家庭の絆を深め、地域で家族を支える取組を進めるため、「ひょうご家庭応援ネットワーク会議」による「ひょうご家庭応援県民運動」の展開を支援（「家族の日」運動、ひょうご家庭応援県民大会（参加者 280 人））

■「お父さん応援フォーラム」の開催

家庭や地域、職場とのバランスの取れた環境づくりを推進するとともに、地域活動の新たな担い手として活躍できるよう、フォーラムを開催し、男性の子育てや地域活動への参画機会を広げるきっかけ作りを支援

■ひょうご子育てコミュニティ

子育て支援団体と支援を受ける者との交流会を開催することにより、少子対策ネットワークを構築し、子育て支援団体や少子対策団体の発展を図る（フォーラム 3 回、参加者延べ 1,396 人）

■NPOと行政の協働会議（ひょうご中間支援団体ネットワークとの意見交換会）の開催

中間支援団体と連携しながら、地域に関わる様々な課題について、NPO法人、団体、行政等が協働で解決に取り組むための情報交換・意見交換会を実施（2回開催、参加者 53 人）

■こころ豊かな美しい兵庫をめざす県民運動の推進

県民一人ひとりが地域課題に応じたネットワークを築きながら連携・協働する“こころ豊かな美しい兵庫”をめざす県民運動の展開を図った。（年間テーマ「家族・地域の絆を深め、ふるさと意識を育もう」のもと、12の実践目標を「こころ豊かな美しい兵庫推進会議」を通じて提唱）

※県民局・県民センターごとにも地域推進会議を通じ研修交流会等を実施

■被災地「絆」ボランティア活動支援事業

「ひょうごボランティアプラザ」を中心に、東日本大震災や熊本地震災害の被災地においてボランティアバスの派遣などの支援活動を実施

■高齢者・障害者等消費者トラブル防止事業

高齢者・障害者の消費者被害の未然・拡大防止のため、まちづくり防犯グループと連携し、地域における見守りや家族への啓発を推進（被害防止連絡会議 10 回）

■地域で守る！子どもの安全安心確保事業

地域が一体となって、子どもの安全を確保する体制を構築するため、リーダー養成講座の開催や、地域における子ども等への実践的な訓練・研修会の実施を支援する子ども安全サポート事業を実施（リーダー養成数 1,216 人、サポート事業 18 団体）

■地域安全まちづくり推進員の設置

地域安全まちづくり活動に自ら取り組むとともに、活動の先導や団体の連携のリーダーとなる「地域安全まちづくり推進員」の委嘱を進め、研修等により活動を支援（委嘱人数 3,941 人）

■ユニバーサル社会づくり普及推進事業

推進大会、先進事例顕彰、メールマガジンによる情報発信等を通じ、取組団体・機関等をネットワーク化（大会参加 180 人、ひょうごユニバーサル社会づくり賞 10 件）

■「譲りあい感謝マーク」・「ヘルプマーク」の普及啓発

内部障害や難病の方、妊娠初期の方など、援助や配慮を必要としていることが外見からわかりにくい方の社会参加を応援するため平成 23 年に制定した「譲りあい感謝マーク」及び平成 30 年 1 月より導入した「ヘルプマーク」について、公共交通機関等と連携した普及啓発を実施するとともに、バッジ、マーク等のグッズを配布（配布実績「ゆずりあい感謝マーク」107 個、「ヘルプマーク」550 個）

■兵庫ゆずりあい駐車場の普及啓発

障害者や難病患者、高齢者、妊産婦、傷病人などで歩行が困難な方が使用する障害者等用駐車区画の適正利用を図り、これらの方の社会参加を促進するため、協力駐車場の登録と利用証の交付を実施（協力駐車場 1,812 施設・4,518 区画）

■地域活動コーディネーターの設置

地域情報の提供や地域資源のつなぎ役となるコーディネーターの設置（県民局・県民センター圏域ごとに 1 人設置、活動実績 7,421 件）

■幼児期の環境学習ネットワーク化推進事業（新規）

幼児期等の環境学習を支援するため、環境学習に取り組む幼稚園・保育所等へ専門家を派遣し、環境体験事業を通じて形成したネットワーク化を推進

■家庭教育支援モデル事業

地域において、公民館、子育て学習センター、婦人会、地域にある団体等の活動主体が、連携・協働する体制を構築するため、家庭教育支援協働ネットワークの設置及び協働イベントの開催等を通じ、家庭教育支援活動を活性化させるとともに、県内市町へその成果の普及を促進（モデル実施 2 市、全県報告会参加者 61 人）

■悩みを抱える妊婦等の孤立防止対策

医療団体、学識経験者や行政等が、一同に会し、周産期及び小児期における医療・保健課題について検討し、母子の安全安心な医療等を提供するとともに、健やかな発達を促進

- ・周産期及び小児期の医療・保健に係る専門家会議の開催（年 5 回）
- ・妊娠・出産に関する地域の現状と課題について、関係機関とともに協議を行い、各地域で妊娠期から子育て期にわたるまでの支援体制構築を支援
- ・妊娠・出産包括支援連絡会議の開催 実施主体 13 健康福祉事務所（延べ 17 回）

■北播磨ふるさとフェスタの開催（北播磨）

「ふるさと川柳コンテスト」や「“ふるさと北播磨” 写真コンテスト」作品展示、ボランティア顕彰、自治会関係者やボランティア等が交流するフェスタを実施（参加者450人）

■高齢者の消費者被害防止に向けた見守りの推進（西播磨）

高齢者の消費者被害の防止のため、消費者団体と高校生が協働して啓発チラシを作成するなど、消費者被害に強い地域づくりを推進（配布枚数20,000枚）

■専門家によるコーディネート等の支援

■集落再生支援事業

過疎化・高齢化が進展する集落の活動を維持・継続するため、アドバイザーの派遣等により地域内外の合意形成や地域活動の試行的取組について支援（アドバイザー派遣数46人）

■青少年愛護活動推進員の設置

各県民局・県民センターに青少年愛護活動推進員を配置し、青少年を取り巻く良好な社会環境づくりと地域ぐるみでの青少年育成活動を効果的に実施。地域における環境浄化活動が推進され、図書類販売店・レンタルビデオ店における有害図書の区分陳列、カラオケハウス等における青少年の深夜立入り禁止掲示、がん具類等取扱店での青少年への販売禁止等の条例遵守の割合が向上

◆地域を越えた連携・交流を促進

地域相互の連携を深め、補完し合う関係をつくるため、地域づくり活動に関する情報の発信、交流の機会の充実に向けた取組を進めました。

■兵庫県や地域に縁や関心のある人・団体とのネットワークづくりの推進

■県政150周年記念県民連携事業（新規）

県内の地域団体、NPO法人、ボランティア団体等が「五国の魅力を磨く」、「交流の輪を拡げる」、「兵庫の未来を創る」といったテーマのもとで企画・実施する様々な取組を支援（助成額：5～50万円、助成件数：234件（H30.1～3））

■大学等との連携による地域創生拠点形成支援事業

持続可能な地域創生・再生の仕組みを構築するため、地域と大学等が連携した地域創生拠点の設置（12か所）を支援

■アートde元気ネットワーク in 兵庫・神戸推進事業

県内各地で開催されている地域資源を活かした芸術祭や、地域の文化力向上・まちおこしのためのアートプロジェクト等の連携を促進し、ノウハウの共有や県内外への情報発信力を強化（参画団体：10団体）。港都KOBEBE 芸術祭の会場において、参画芸術祭の共同出品を行い、各地域の芸術祭及び開催地のPRを実施

■まちむら元気交流会の開催

地域再生大作戦に取り組んでいる集落部と都市部との交流促進や、集落等の活動発表の場を設け「稼ぐ仕組みづくり」の支援を行うため、全県及び県民局地域単位で交流イベントを開催

■交流を通じた地域づくり活動支援事業

地域づくり団体が、相互の情報交換や交流を行うため、全国研修交流会や地域づくりコーディネーター研修会への派遣等を実施し、団体間の交流やスキルアップに寄与

■地域再生大作戦PR推進事業の実施

多自然地域でのにぎわい創造や活性化などへの地域住民、都市住民の参画促進を図るため、地域再生大作戦に取り組む集落の魅力と地域活性化等の取組事例などを多様なツールを活用し、広くPRを実施

■ふれあいの祭典の開催

県民の様々な活動発表の場として「ふれあいの祭典」を開催し、地元住民の参画のもと、地域内外の交流を促進（10/28～29：播磨科学公園都市芝生広場、来場者：約3万2千人）

■地域づくり活動ネットワーク会議の開催

ボランティア活動や地域づくり活動等、社会貢献活動をしている、または模索している企業、学生、NPO法人等のネットワーク拡大の場を提供（参加者124人）

■県民交流広場事業全県交流会の開催

各地域の県民交流広場で活動する団体等が一堂に会し、交流を深める「ふるさと交流会2017」を開催し、相互の情報交換、意見交換の場を設け活動のノウハウを共有（参加者100人）

■「あいたい兵庫キャンペーン2017」の実施

県、市町、観光関連団体、JR西日本、地域団体が連携し、本県へのさらなる誘客を図る「あいたい兵庫キャンペーン」を実施（観光客入込数対前年106.7%）

■観光地魅力アップ支援事業

県内各地の観光地等への入り込みを増加させ、交流人口を拡大させることにより地域の活性化を目指すため、地域の観光資源を活かした新たな誘客促進等を支援（補助件数14件）

■外国人県民安全安心ネットの推進

外国人県民を取り巻く課題に対し、行政と外国人団体が協議する場として「兵庫県外国人県民共生会議」を開催するとともに、外国人県民インフォメーションセンターの運営や、NGO・市町との連携による相談窓口を設置し、様々な生活情報等を提供（相談数2,570件、**NGOと連携した外国人県民相談 現在確認中件**）

■プロから学ぶ創造力育成事業（新規）

様々な分野で世界の第一線で活躍する兵庫ゆかりのクリエイターを学校へ招聘し、中学生を対象に講話や実演を行うことで、これからの社会において、より豊かな感性を働かせ、新たなアイデアを生む力を身につける機会を支援（実施校数：39校 参加生徒数：10,016人）

■「あにあん倶楽部」での阪神南の情報発信（阪神南）

地域情報総合ポータルサイト「あにあん倶楽部」を運営し、尼崎、西宮、芦屋の多彩な観光資源や魅力、特色を情報発信し、3市の交流を促進（会員4,583人）

■交流サロン「きらっと☆カフェ」の開催（阪神北）

地域団体の市町域・活動分野を越えた地域づくり活動団体相互のネットワークを構築するため、情報交換の場としての交流サロンを開催

■北播磨“ふるさと”発信事業（北播磨）

「北播磨ふるさとフェスタ」（参加者 450 人）を開催。北播磨にまつわる川柳コンテスト（応募 4,664 句）や写真コンテスト（応募 213 作品）等を実施し、優秀作品をまとめて、「ふるさと北播磨の“宝物”」として発刊

■北播磨の観光資源の魅力アップ（北播磨）

交流人口の拡大のため、観光関連団体、商工会議所及び商工会等が行う、集客イベント、観光ルートの開発、観光地づくり、施設整備などの事業をソフト、ハードの両面から支援（補助件数 12 件）

■北播磨広域観光事業の推進（北播磨）

交流人口の拡大のため、「ハートにぐっと北播磨」をキャッチフレーズに、管内市町、観光団体等とも連携し、バスツアーや他言語版ガイドマップ作成などの観光宣伝、情報発信事業を展開

■北播磨地域景観資源の発掘（北播磨）

交流人口の拡大のため、観光資源としての北播磨地域の景観資源を発掘・選定し、住民への啓発 PR 冊子の作成やホームページ上で景観づくり運動の情報を発信

■中播磨地域活動交流メッセの開催（中播磨）

地域で先導的な活動を行っている様々な団体が互いの活動を知り、協働して活動するきっかけをつくるとともに、地域コミュニティの活性化を図ることを目的に、団体の実践活動発表、住民同士の交流の場となるイベントを開催（雨天のため中止）

■食と農による夢前川流域のアグリアルカディア（中播磨）

夢前川流域において、食・農・観光の連携イベント等による地域活性化、健康レストラン且緩々を拠点とした交流活動支援、高齢者参画による耕作放棄地の有効活用（ハーブ育成等）

■ひめじ前どれ海の幸グレード UP 作戦（中播磨）

姫路の名物として前どれ水産物を定着させるため、観光関係者と漁業関係者が連携し、漁協や漁業者による直売事業の活性化とイベント開催による交流人口の増加を促進することにより前どれ水産物をグレードアップ

■生活創造活動グループの活動支援（中播磨）

グループ登録制度を設け、会議室、印刷室、情報交流コーナーを設置するとともに、情報誌の発行により、地域づくり等の情報を発信。また、コミュニティの様々な課題解決を応援するため、県民が自主的に行う学習会等に講師を派遣（登録 93 団体）

■兵庫・岡山県際交流の推進（西播磨）

兵庫・岡山県際地域の活性化を図るため、歴史資源や牡蠣等の共通するツーリズム資源を活用した連携・交流事業を、岡山県、関係市町等と連携して実施（モニターバスツアーの実施（8 コース））

■ラジオを活用した西播磨魅力発信推進事業（西播磨）

西播磨地域への定住人口、交流人口の増加を図るため、ラジオ関西のパーソナリティ谷五郎氏の協力により、ラジオを通じて西播磨の魅力を県内外に情報発信

■西播磨楽農大学の設置による都市農村交流の促進（西播磨）

都市と農山漁村の交流を促進のため、地域の農業者や施設等が主催する農林漁業体験活動などを大学の講座に見立てて情報発信（楽生数 690 人・20 施設）

■塩の国・赤穂復活事業（西播磨）

「赤穂の塩」に関する情報を発信するため、赤穂海浜公園「塩の国」に存在する、全国的に希少な流下式製塩施設の機能回復工事の見学会や、展示施設の改修等を実施（工事見学会等参加者 34 人）

■「落ちない城・白旗城」PR プロジェクトの支援（西播磨）

国指定史跡「白旗城跡」を新たな観光・交流拠点とするため、難攻不落の城の言葉から「落ちない城 白旗城」をキャッチフレーズとして、特に受験生等をターゲットにした観光キャンペーンを展開（白旗城まつり集客数 5,000 人）

■ツーリズム EXPO ジャパン 2017 への出展（但馬）

交流人口拡大のため、但馬ふるさとづくり協会、各市町等と連携し、首都圏でキャンペーンを実施（兵庫県ブース来場者 10,000 人）

■参画と協働による但馬地域ビジョン（バージョン2）の推進（但馬）

但馬地域ビジョン（バージョン2）が目指す将来像を実現するため、幅広い世代の参画を目指した夢カフェの開催など但馬夢テーブル委員会を中心としたビジョンの普及啓発、実践活動を支援（実践活動数 62）

■「但馬の未来に向けて」高校生の夢実現プロジェクトの実施（但馬）（新規）

但馬の青少年（高校生）が但馬への愛着を深め、自らの可能性への気づきと自信につなげていくため、高校生が提案した事業への環境整備・経費の助成を実施（地域づくりサミット in 但馬の開催、環境フェスティバルで環境について展示・発表等）

■大丹波観光キャンペーンの展開（丹波）

交流人口拡大のため、名古屋でのイベントのブース出店など、京都縦貫自動車道等の開通による交通アクセスの向上した中京圏からの誘客を促進（旅まつり名古屋 2017 ブース出展等）

■丹波地域観光情報の発信（丹波）

交流人口拡大のため、"大丹波ホームページ・Facebook による情報発信や大丹波観光サポーターに地域情報を積極的に提供。イベント情報紙“ぶらり丹波路”を発行（大丹波観光サポーター 人）

■丹波ファン「ふるさと村」作戦（丹波）

都市農村交流の促進のため、都市部のイベントでのPRリーフレットの配布や農作業体験者の報告会、ワークショップ（11 団体参加）

災害に備えたネットワークの構築

■災害救援ボランティア活動支援システムの強化事業

市町社協等関係団体の連絡会議やボランティアコーディネーターの研修等、災害ボランティアに関わる主体のネットワーク強化(災害救援ボランティア活動支援関係団体連絡会議4回開催・災害ボランティアコーディネーター養成研修2回)

2 県行政への参画と協働の推進

(1) 情報公開の推進

◆ 情報公開の推進

県民が的確な判断ができるよう、施策や各種調査データなどの情報を、様々な手段で提供しました。

情報公開と各種媒体による広報

■ 印刷・電波・映像媒体・インターネットによる広報活動

県民だよりひょうごのほか、FacebookなどのSNSを効果的に活用して県政情報を提供するとともに、広報モニターからの意見を広報媒体作成に反映（広報モニター308人）

- ・印刷媒体：全世帯配布広報紙「県民だよりひょうご」、
グラフ広報誌「ニューひょうご ごこく」、
「あなたの県政ーひょうごEYEー」
- ・電波・映像：県民情報番組「ひょうご“ワイワイ”」、
「日曜さわやかトーク」、
「こちら知事室！井戸敏三です」ほか
- ・その他：点字広報誌「広報ひょうご」、声の広報「愛の小箱」ほか



■ 読者編集員の広報紙（誌）作成への参画

県広報紙（誌）の内容、構成、デザイン等について、公募した読者編集員による県民目線での意見を反映（読者編集員7人）

■ 県民リポーターによる地域の魅力の発信

公募した県民リポーターが、県民目線で取材した地域の魅力等を県広報紙（誌）やテレビ番組で紹介

■ 報道機関等への情報提供

知事の定例記者会見（週1回）により、新聞やテレビなどの報道機関を通じて情報を発信するとともに、会見の動画はインターネットでライブ・録画配信。また、県政記者クラブ等と連携し、記者レクを開催

■ 職員に対する広報研修の実施

広報マインドを高め、広報技術の向上を図るための職員研修を実施

■ ひょうごチャンネルの運営

インターネット上で県政情報を動画で配信する「ひょうごチャンネル」を運営。誰もが自由に利用・加工可能な動画素材の制作及び配信を利用希望者に提供（配信動画2,424本、配信動画素材申請件数40件）

■ 主な事業・施策の重点的広報

県内外への積極的な広報活動が求められる事業・施策を重点広報事項に選定し、県参与から指導・助言を得て戦略的な広報活動を展開

■県主催イベントにおける情報配慮支援事業

聴覚障害者の社会参加促進のため、聴覚障害者が参加又は不特定多数の参加者が300人以上の県主催イベントで手話通訳者・要約筆記者の配置や磁気ループの設置を実施

■情報公開制度の運用

公正で透明な開かれた県政を実現するため、公文書の公開、情報提供等、情報公開制度を適正に運営（請求件数 公開率(※) 6,053件(94%) ※公開率=(全部+部分公開)/(請求件数-取下)

■県民情報センターでの情報公開・情報提供

情報公開制度及び個人情報保護制度の推進、県の施策・計画・統計等の資料の閲覧サービスを実施

- ・県民情報センター
- ・地域県民情報センター（阪神南、阪神北、東播磨、北播磨、中播磨、西播磨、但馬、丹波、淡路）

各分野の情報提供

■ひょうご水ビジョンの推進

ひょうご水ビジョンの実現に向けて、ホームページ「ひょうご水ステーション」を運営。県内の水源の貯水状況を月1回更新・情報発信し、渇水や節水への注意喚起を行っているほか、「中学生水の作文コンクール」の入賞者、最優秀作品を掲示

■食の安全安心フェアの開催

食の問題に関する正しい情報を普及するため、講演会や意見交換会などによるリスクコミュニケーションや、食品の安全性に関するパネル展示、手洗い教室、紙芝居等を実施

■ひょうご住まいサポートセンター運営事業

高齢者向け住宅情報や住宅改修業者の登録情報など、住まいに関して行政が保有する情報をホームページで提供し、消費者の住宅に関する諸問題をサポート

■インターネットを活用した県民への情報発信（警察本部）

兵庫県警察ホームページ、兵庫県警察フェイスブックページ、兵庫県警察ツイッター、ユーチューブ兵庫県警察公式チャンネルを活用し、積極的に情報発信

(2) 政策形成への参画機会確保

◆ 県行政に県民の意見・提案をつなぐ機会を積極的に確保

県民から広く意見を求める機会を確保するとともに、県民による提案が行われる仕組みを運用し、県民が県行政に提案できる多様な機会を確保しました。

気軽に提案できる機会を確保

■ さわやか県民相談

県民から寄せられる県政への意見や日常生活の諸問題等に関する相談に電話や面談で直接対応（相談件数 19,489 件）

■ 県民モニターを活用した広聴の推進

施策や事業の立案等に生かすため、インターネット上で募集した「県民モニター」の意見を聴取（登録者 2,585 人 平均回答率 74.7%）

■ 「さわやか提案箱」の実施

ホームページ上の専用送信フォームから県政に関する意見、提案等を受け付け、県民との対話機会を充実（受信件数 226 件）

■ 「21 世紀兵庫長期ビジョン」に基づく活動の促進

2040 年にめざす兵庫の未来像として「創造と共生の舞台・兵庫」を掲げたビジョンの実現に向け、地域の課題や解決策の共有と、具体的取組についての機会を確保

■ 地域ビジョン委員会の設置・運営

公募委員と学識経験者などによる専門委員が、地域ビジョンの推進に向け、様々な実践活動を実施

■ 地域夢会議の開催

地域ビジョンの普及と実践活動の輪を拡げることを行なうとして、県民との意見交換会を開催（開催・参加者 10 地域 10 回、960 人）

■ 「さわやかフォーラム、さわやかトーク」の開催

知事と県民が気軽に語り合える場を設け、地域づくりについて幅広い意見交換を行う「さわやかフォーラム」や、地域活動グループを訪問し、現地で自由に意見交換を行う「さわやかトーク」を開催

■ 外国人県民共生会議の開催

外国人県民を取り巻く課題に対し、行政と外国人団体がその取り組みを協議する場として設置（開催回数 1 回）

■ ひょうご農林水産ビジョンのフォローアップ

農林水産業・農山漁村施策の基本となる計画であり、県民の食と「農」に関する行動指針となる「ひょうご農林水産ビジョン」のフォローアップを実施

■ 「知事と神戸市民が語る集い」の開催（神戸）

神戸市内で活動する地域団体のリーダーと知事が県政や地域課題等について意見交換を実施（自治会、婦人会、老人クラブ、神戸青年会議所）

■神戸地域で活躍する若者グループとの意見交換会の開催（神戸）

神戸地域で活躍する若者グループと県民センター幹部が、センターの主要施策等について自由な意見交換を実施

■県民意見提出手続（パブリック・コメント手続）の効果的な運用

県民生活に密接に関わる計画や方針、条例案等を策定する際に、県民の意見を募集し、対応を公表（実施案件 20 件 提出意見 926 件）

【パブリック・コメントを実施した計画・方針等】

- ・ 郡家川水系河川整備基本方針、視川水系河川整備基本方針、山田川水系河川整備基本方針、岩戸川水系河川整備基本方針
- ・ 都賀川水系河川整備基本方針、西郷川水系河川整備基本方針及び高羽川水系河川整備基本方針案
- ・ 暴力団排除条例の一部改正
- ・ 明石港東外港地区再開発計画
- ・ 住宅確保要配慮者に対する賃貸住宅の供給促進について
- ・ 青少年愛護条例の改正
- ・ 兵庫県自殺対策計画
- ・ 兵庫県がん対策推進計画
- ・ 住宅宿泊事業の適正な運営の確保に関する条例（仮称）の骨子
- ・ 兵庫県消費者教育推進計画
- ・ ユニバーサル社会づくりの推進に関する条例
- ・ 第 5 期兵庫県障害福祉推進計画
- ・ 播磨灘流域別下水道整備総合計画
- ・ 兵庫県地域創生戦略
- ・ ひょうご基幹道路のあり方
- ・ 第 3 期兵庫県医療費適正化計画
- ・ 兵庫県保健医療計画
- ・ 兵庫県老人福祉計画（第 7 期介護保険事業支援計画）
- ・ 兵庫県健康づくり推進実施計画
- ・ 兵庫県廃棄物処理計画

◆ 審議会などへの県民の参画機会を拡大

審議会や委員会など県行政の政策形成にかかる審議に、県民が直接参画できる機会を確保し、審議会等にかかる情報の積極的な公開や、県民の広範なニーズの把握に努めました。

■附属機関等の委員公募の推進

県が設置する附属機関等の審議に県民の意見等を反映させることを通じて、参画と協働による県行政を推進するため、委員公募を積極的に導入（実施 24 機関）

【委員公募を行った主な附属機関等】

男女共同参画審議会、長期ビジョン審議会、県民生活審議会、地域安全まちづくり審議会、科学技術会議、障害福祉審議会、兵庫県子ども・子育て会議、健康づくり審議会、薬事審議会、食の安全安心と食育審議会、環境審議会、まちづくり審議会、国土利用計画審議会、景観審議会、住宅審議会 等

■病院運営懇話会の開催

病院運営に当たって、県民の多様な意見を求めることにより、医療ニーズの的確な反映を図るための懇話会を開催（県立病院ごとに設置）

■警察署協議会の運営

県民の意見を警察業務の運営に反映させるとともに、警察署の業務運営について県民の理解と協力を得るため設置（全警察署に設置）

■学校評議員制度の推進

学校評議員が、学校の教育活動について地域住民などから幅広く意見を聞き、開かれた学校づくりを推進（学校評議員 952 人）

■審議会等の公開の推進

県の政策の形成に関して調査審議する附属機関等の公開を推進（公開：49 機関）

【会議を公開した主な附属機関等】

男女共同参画審議会、長期ビジョン審議会、統計委員会、県民生活審議会、地域安全まちづくり審議会、交通安全対策会議、公益認定等委員会、防災会議、国民保護協議会、社会福祉審議会、障害福祉審議会、兵庫県子ども・子育て会議、青少年愛護審議会、健康づくり審議会、薬事審議会、食の安全安心と食育審議会、職業能力開発審議会、農林水産政策審議会、環境審議会、環境影響評価審査会、河川審議会、港湾審議会、まちづくり審議会、国土利用計画審議会、土地利用審査会、景観審議会、都市計画審議会、住宅審議会、いじめ対策審議会 等

(3) 協働事業の機会確保

◆多様な公民協働の取組を展開

地域の課題解決に向けたグループ・団体・NPO法人・大学・企業等との協働事業を展開するとともに、地域防犯などの特定分野の行政課題解決に向けて取り組む推進員の活動を支援しました。

また、県民局（センター）域ごとに取り組む地域特性（里山、ため池、芸術文化等）を活かした多彩な事業の開催や運営の中で、様々な公民協働を推進しました。

多様な主体の共催事業の推進

■県民文化普及事業の開催

県内全域に文化の裾野を拡大するため、県域文化団体が主体となり、県内各地で文化事業を展開（23事業、参加者35,428人）

■がんばろう東日本・熊本！アート支援事業

被災者の心の復興や、被災芸術団体の復興を図るため、被災地における芸術文化活動や被災芸術団体との交流事業の取組を支援（7件、参加者1,558人）

■第6次男女共同参画兵庫県率先行動計画の推進

県が男女共同参画のモデル職場となるよう行動することにより、企業や市町における取組を推進

■多自然地域アンテナショップ運営事業

多自然地域の集落等で生産された生鮮野菜、花卉、加工食品、特産品等を販売するとともに、多自然地域と都市との交流拠点となるアンテナショップを運営（来店者278,801人）

■「ひょうごっ子・ふるさと塾」の実施

青少年団体や地域団体の協力を得て、自然体験、ふるさと体験活動を実施（37件、参加者 人）

■ひょうご地域安全SOSキャッチ事業

県民が日常生活の中で身近な異変に気付いた際に、匿名で通報できる窓口を設置。地域安全まちづくり推進員等とも連携し、積極的な通報を推進

■ひょうご性被害ケアセンター「よりそい」の設置（新規）

警察に相談できない性暴力被害者の心身の負担軽減、被害の潜在化を防止するため、専用相談窓口と医療機関へのつなぎを一体的に行うセンターを設置

■「ストップ・ザ・交通事故」県民運動の推進

県民を交通事故から守るため、交通安全思想及び交通モラルの高揚を図るため、交通安全教室等を実施（交通安全教室1,682回、飲酒運転追放宣言書41店舗、キッズ交通保安官188人、出前式交通安全教育60回）

■青少年愛護条例に基づく青少年を取り巻く社会環境の整備

青少年愛護条例の趣旨に則り、県民、事業者、県、市町の相互協力により、青少年の健全育成に向け、携帯電話のフィルタリング利用徹底、カラオケハウス、インターネットカフェにおける青少年の深夜立入り禁止掲示など環境整備を推進

■青少年を守り育てる県民スクラム運動の充実

関係団体、業界の参画を得て、効果的な青少年施策の展開方法や少年非行への対策等について協議する青少年育成スクラム会議を開催し、非行防止に向けた取組を展開
(青少年スクラム会議開催 回)

■青少年のインターネット等の利用対策の推進

スマートフォンの急激な普及に伴う青少年のインターネット依存への対策として産官学民言の様々な主体による推進会議を設置して連携・協働し、全県大会の開催を通じたルールづくり支援など、青少年が安全かつ安心してインターネットを利用できる社会づくりのための取組を展開(全県大会「スマホサミット in ひょうご 2017」参加者約 340 人)

■ひょうご子育て応援の店(子育て支援パスポート)の展開

子育て世帯を社会全体で応援する取組として、店舗等事業者の協賛を得て、子育て世帯を対象とした商品割引・特典サービスを実施(会員数 68,575 世帯)

■全国健康福祉祭予選会の開催

全国健康福祉祭へ派遣する兵庫県代表選手を選考するため、全国健康福祉祭(ねんりんピック)の予選会を開催し、高齢者の交流を推進(出場者 694 人)

■民生委員制度創設 100 周年記念事業の実施(新規)

民生委員制度 100 年の歴史を振り返り、今後一層の活動の充実・発展に向け、思いを新たにす機会として、平成 30 年 1 月 20 日に記念式典・記念講演会を実施(参加者 1,031 人)。その他、全県モニター調査結果の概要版作成や、制度創設 100 周年通史を作成

■企業との協働による健康づくり促進事業

従業員及び家族の受診促進など健康づくりに取り組もうとする企業を「健康づくりチャレンジ企業」として登録。健康情報の提供、専門人材の派遣や健康教室を実施した場合の助成等の支援を実施(登録数 1,158 件、補助金活用件数 50 件)

■健康ひょうご 21 大作戦の推進

県民一人ひとりが自らの生活を見つめ直し、生活習慣の改善を図るため、県民総ぐるみで生活習慣病予防などの健康づくりを推進(参加団体の取組件数 12,638 件)

■まちの保健室による健康づくり推進事業

身近な場所で気軽に健康や子育てについて相談できる「まちの保健室」を開設する兵庫県看護協会の取組を支援。運営にあたり、兵庫県理学療法士や兵庫県栄養士会との協働体制を整備(開設箇所 677 か所)

■健康づくり声かけ運動推進事業

高齢者や母子等への声かけと健康学習会の開催など健康づくり声かけ運動を展開する地域組織「愛育班」の活動を支援するため、交流会や研修会等を開催(愛育班員

1,206人)

■悩みを抱える妊婦等の孤立防止対策

思春期保健や妊産婦を支援する関係団体が連携し、正しい性意識や性行動、妊娠・出産などのライフプランニングについて、シンポジウムの開催等により普及啓発を推進。「思いがけない妊娠SOS」相談を開設（開設回数96回 相談者数345人）
若者を対象としたピアサポートルームの開設（開設回数年24回）

■高校生献血等推進ボランティア事業

若年層の献血の普及啓発のため、高校生ボランティアが文化祭の場などを活用し、パネル展示等を実施（実施校数30校）

■骨髄等移植ドナー・環境づくり支援事業（新規）

ドナー休暇制度の導入など、骨髄等ドナーが骨髄提供しやすい職場環境づくりに取り組む事業所に対して支援金を交付（交付先5事業所）

■薬物乱用防止対策啓発事業

地域での薬物乱用防止啓発活動を実施するため、県民に「薬物乱用防止指導員」を委嘱。ボーイスカウトやガールスカウト等とも連携し活動を展開（啓発活動回数139回、参加者1,909人）

■兵庫しごとカレッジ推進会議の運営

離転職者の早期就職を支援するため、職業能力開発実施機関や経営者団体、労働団体、行政機関等が連携し、能力開発プログラムの開発等を実施（推進会議開催2回）

■ふるさと企業就職活動支援事業

中小企業の人材確保を支援するため、UJIターン就職希望者等に面接時の旅費や採用時の転居費用を支給する中小企業に対し、支給額の1/2を助成（助成件数 面接旅費74件、転居費用8件）

■障害者雇用・就業支援事業

障害者の雇用事業所の開拓・確保に向けた啓発や事業主団体・関係機関との連携、障害者雇用優良事業所等の表彰を実施（優良事業所等の表彰 企業1社、勤労者3人）

■障害者雇用就業・定着拡大推進事業

障害者就業・生活支援センターに推進員を配置し、障害者の実習、就職先の開拓や、障害特性・能力に応じた就職相談等を実施（支援による就職者 人）

■外国人県民相談事業

外国人の言葉や労働、生活面など多岐に渡る不安に対応するため、NGOや市町と連携した相談体制を整備
（外国人県民相談2,570件、NGOとの連携による相談 件）

■ひょうごツーリズム協会活動支援事業

民間の活力と地域の主体性を生かしながら国内外からの誘客、地域の活性化に取り組むひょうごツーリズム協会の活動を支援

■農のゼロエミッションの推進

農山漁村等における資源の有効利用と循環型社会の構築をめざし、県、市町、民間事業者、県民等が連携し、バイオマス（食品廃棄物、間伐材等）について、たい肥化などのマテリアル利用や、メタン発酵などのエネルギー利用を推進

■農山漁村活性化応援事業

農林漁業体験の場や農産物特産品など様々な地域資源を有する農山漁村の魅力を生かし、都市住民等との交流に係る取組を計画・実施する NPO 法人等を支援（事業採択件数 7 件）

■おいしいごはんを食べよう県民運動の推進

団体、企業、市町、県等が一体となった「おいしいごはんを食べよう県民運動推進協議会」を中核として、ごはん食の有用性や農業・農村の保全につながる米食を提唱する県民運動を展開

■都市農村交流資金の推進

都市と農山村の交流を促進するため、体験農園、農家民宿、農家レストラン等の農村体験交流施設の開設資金を支援（制度研修会開催 13 回）

■ひょうご環境体験館 10 周年記念事業（新規）

県民が環境問題の大切さについて「気づき」「学び」「知る」ことのできる環境学習施設として開館した「ひょうご環境体験館」が平成 30 年 3 月に 10 周年を迎えるのに合わせ、記念式典および古着のリメイクファッションショーを開催
（開催日：平成 30 年 3 月 21 日、参加者：約 300 人）

■人と環境が適正な調和を保つ環境適合型社会づくり推進事業

省エネルギー・節電型の持続可能なライフスタイルへの転換を目指し、地域に根ざした普及活動を促進するため、県民・事業者・地域団体・NPO・行政などが連携し、環境創造に向けた場づくりを推進（環境月間（6 月）にフォーラム開催）

■地球環境時代に適応した新しいライフスタイル展開推進事業

環境に配慮したライフスタイル確立に向けて、地域団体や業界団体等の参画を得て、環境にやさしい買物運動などのキャンペーンや学習会を開催

■上山高原エコミュージアムの推進

上山高原の豊かな自然を次代へ継承するため、地域の魅力を体験する多彩なプログラムやイベントを地元住民の参画を得て実施
（実施プログラム数 23 回、参加者 1,344 人）

■ふるさとの森公園の運営

地元住民と都市住民や世代間の交流の場、親子・家族のふれあいの場を提供し、人と自然が共生する豊かな森づくりを推進するため、やしろの森公園など 6 公園を整備し、県民の参画を得て、自然環境学習などの自主プログラムを展開
（参加者 20,409 人）

■オールドニュータウン再生モデル事業

住民、行政、事業者等が連携し、地域の情報や課題等を共有するまちづくり委員会の開催、県営住宅の空き住戸を活用した学生シェアハウスの運営などの取組を実施

(まちづくり委員会2回、学生シェアハウス事業入居者8人)

■県民まちなみ緑化事業

都市の環境改善や防災性の向上を図るため、住民団体等が実施する植樹や芝生化などの緑化活動を支援(補助件数201件)

■緑化基金事業の推進

県民の緑化活動を支援するため、基金を活用し、緑化資材等を活動団体に提供(支援団体数868団体)

■社会参画推進学習プログラム研究事業

大学、専門機関、行政機関、NPO団体等が連携し、高校生の主権者意識、社会発展に寄与する力など、社会参画のための実践力を身につける体験的・実践的学習プログラムを開発(実施校2校)

■環境体験事業の実施

ひょうごグリーンサポーター、保護者、地域ボランティア、NPOなどの支援を受けて、全公立小学校で3年生を対象に、自然にふれあう体験型環境学習を実施(支援人数13,137人)

■学校・家庭・地域の連携協力推進事業

地域と学校が連携・協働して、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えていく活動(地域学校協働活動)を積極的に推進するため、従来の個別の教育支援活動[学校支援活動、学習支援活動(地域未来塾)、放課後等支援活動(放課後子ども教室)、土曜日の教育活動]の充実、総合化・ネットワーク化を図り、「支援」から「連携・協働」を目指す体制づくりを推進(地域学校協働本部の設置35市町559校 政令指定都市・中核市除く小・中学校)

■PTAによる学校、家庭、地域の連携強化事業

地域コミュニティ活性化による地域の教育力向上のため、PTAや地域団体との協働によりフォーラム等を開催(参加者約2,000人)

■「関西マスターズスポーツフェスティバル」開催事業

ワールドマスターズゲームズ2021関西開催の開催に向けて気運醸成を図るため、県民が参加可能なオープン型の生涯スポーツ大会を開催(参加者15,212人)

■地域安全まちづくり推進員との協働による地域安全まちづくり活動の推進

地域安全まちづくり推進員、警察、防犯グループなどの活動団体が連携して、犯罪のない安全で安心な兵庫県の実現を推進(推進員3,941人)

■地域交通安全活動推進委員との協働による交通安全活動の推進

公安委員会が委嘱した委員と警察が協働し、交通安全教育や違法駐車追放に向けたキャンペーン等の活動を展開(交通安全教育1,967回)

■業界団体との協働による高齢運転者交通安全推進事業

自治体・企業・団体等の協力を得て、「高齢者運転免許自主返納サポート協議会」を設置し、交通機関の運賃割引等の措置を講じることで、運転に不安をもつ高齢者の運転免許自主返納を促進(高齢者返納数19,728人)

■ 県民局（センター）ごとに取り組まれている協働事業

- 神戸**
- ・川に親しむ多彩な活動の場整備
 - ・河川環境の改善と保全
 - ・湊川隧道の活用
 - ・河川愛護活動の支援
 - ・県立舞子公園の利活用の推進
- 阪神南**
- ・阪神南ふるさとづくり応援事業の実施
 - ・尼崎港水質浄化プロジェクトの推進
 - ・尼崎 21 世紀の森づくりの推進
- 阪神北**
- ・「阪神地域障がい者就労促進大会」の開催（阪神南・北）
 - ・北摂里山博物館（地域まるごとミュージアム）構想の推進
 - ・「きらっと☆阪神北オータムフェスタ」の開催
 - ・阪神アグリパーク構想推進事業
- 東播磨**
- ・水辺の地域づくりの推進
 - ・みんなでつくって食べよう「東はりま発ヘルシーメニュー」
 - ・チャレンジショップ「きずな」定着支援事業
- 北播磨**
- ・北はりま田園空間博物館交流事業の推進
 - ・北播磨異業種交流・新ブランド創出支援事業の展開
 - ・「ハートにぐっと！北播磨」魅力アップ事業の推進
 - ・おいしんぼ館発・北播磨の魅力情報発信事業の推進
 - ・地域包括ケアシステムの推進
 - ・孫ターンの推進（新規）
 - ・海外からの誘客促進事業
- 中播磨**
- ・J R 姫新線利便性向上対策事業
 - ・「ストップ・ザ・交通事故！県民運動」啓発活動強化事業
- 西播磨**
- ・播磨科学公園都市まちびらき 20 周年事業の実施
 - ・姫新線利用促進・活性化対策事業
 - ・平福・瓜生原邸を核としたまちづくり交流支援
 - ・しゃくなげが彩る「宿場町平福」景観づくり支援
 - ・道の駅「宿場町ひらふく」の魅力向上に向けた整備
 - ・音水湖の西日本一のカヌー競技場づくり
 - ・森林セラピー健康の里づくり
 - ・氷ノ山ツーリズムの振興
 - ・西播磨ふるさと人材確保の応援
 - ・西播磨地域における提案型ふるさとづくり協働事業
 - ・都市部アンテナショップによる西播磨ファンづくり
 - ・西播磨環境学習の推進
 - ・J R 赤穂線沿線地域の活性化
 - ・西播磨ツーリズム振興事業
 - ・西播磨・ホテルの郷プロジェクト 2017
 - ・国道 29 号周辺地域活性化の推進
 - ・高齢者口腔ケアの地域定着の推進

- ・「西播磨フードセレクション」の開催

- 但馬**
- ・“但馬はひとつ”夢但馬の推進
 - ・「夢但馬」応援事業の推進
 - ・夢但馬周遊ツーリズムの推進
 - ・クリーン但馬10万人大作戦の推進
 - ・清流の郷づくり大作戦
 - ・「コウノトリ翔るまると感動市」の開催
 - ・但馬グリーン・ツーリズムの推進

- 丹波**
- ・地域医療を支える健康福祉ネットワークの推進
 - ・地域を守れ！たんば感染症予防プロジェクト（新規）
 - ・JR福知山線利便性向上対策の実施

- 淡路**
- ・「北前船寄港地フォーラム in 淡路島」の開催
 - ・「御食国・和食の祭典 in 淡路島」の開催
 - ・いきいき暮らせる島づくり
 - ・あわじ植えてはいけないけし自生エリア拡大阻止作戦
 - ・放置竹林の拡大防止とその利用促進
 - ・「あわじ環境未来島」島民率先行動の推進
 - ・あわじ全島ゴミゼロ作戦の推進

指定管理者制度による施設運営の展開

■指定管理制度の効果的な運用

公の施設としての公共性、利用の公平性、運営の安定性を確保する一方で、施設の特性に応じ、民間事業者のノウハウを活用することにより、効率的で県民サービスの向上につながる質の高い管理運営が期待できる場合は、原則として公募により指定管理者を選定（29年度公募実施 兵庫県民会館、東播磨生活創造センター、県営住宅など6施設）

ひょうごアドプトの推進

■県民等とのパートナーシップによる道路・河川等の維持管理（ひょうごアドプト）

道路・河川・海岸などにおいて、地域団体・県・市町の3者による合意書を締結し、県民とのパートナーシップによる軽易な維持管理や美化活動を推進（団体数 388団体）

企業等との連携協定に基づく協働の推進

■男女共同参画社会づくり協定

男女共同参画社会づくりに向けた職場づくりに積極的に取り組む県内の事業者と県が協定を結び事業者の取組内容を広くPRする等、取組を支援（協定締結数 1,287社・3団体）

■兵庫県子育て応援協定

連合兵庫、兵庫県経営者協会、兵庫県の三者が、少子対策・子育て支援に民間・行政が一体となって取り組むために締結した「仕事と生活の調和と子育て支援に関する三者合意」に基づき、地域の子育て家庭への応援や従業員の子育てと仕事の両立

支援を進める企業・団体と協定を締結（協定締結数 1,297 社・38 団体）

■健康づくり推進サポート企業との健康づくり応援協定

県と健康づくり推進サポート企業が協力して、健康教室の実施に係る相談、企画立案、講師の派遣、研修プログラムの提供等、より一層健康づくり支援メニューを充実（協定締結数 12 社）

■兵庫県地域見守りネットワーク応援協定

一人暮らし高齢者世帯などの孤独死が社会問題となる中、見守り活動や緊急事態への早期対応が課題となっていることから、各家庭を訪問し異変を発見する可能性のあるライフライン企業等と県、兵庫県社会福祉協議会、兵庫県民生委員児童委員連合会が協定を締結し、市町が取り組む見守り活動を支援（協定締結数 29 社）

推進員等の設置

地域福祉、防犯・防災、教育など特定分野の課題の解決に向けて県行政と協働して取り組む推進員を設置。その活動が円滑に進むよう活動に必要な情報提供や活動のPR、他の推進員とのネットワークづくりを推進

〔推進員委嘱数〕70 職種、28,509 人

〔主な推進員〕

男女共同参画推進員、くらしの安全・安心推進員、健康づくり推進員、民生・児童協力委員、地域安全まちづくり推進員、地球温暖化防止活動推進員等

(4) 評価・検証への参画機会確保

◆ 県行政の評価・検証への県民参画を促進

県民と政策目標を共有し、県事業への関心を高めるため、県施策の推進状況や成果等をわかりやすく公表する取組を推進するとともに、インターネットアンケート等を活用し、県民が県施策の事業評価に参画する機会を確保しました。

■ 「21世紀兵庫長期ビジョン」点検・評価指標の運用

「21世紀兵庫長期ビジョン」の実現に向け、「全県ビジョンフォローアップ指標」や「兵庫のゆたかさ指標」等を活用し、評価・検証を実施

■ 「21世紀兵庫長期ビジョンの推進状況報告書」の作成（HP掲載）

長期ビジョンの掲げる4つの社会像と12の将来像の体系に沿って、その推進状況を明らかにする報告書を作成し、HP上で公表

■ 「ひょうごの男女共同参画」の作成

市町等における意識醸成や取組推進のため、男女共同参画の推進状況をまとめ、ホームページ等で発信し市町へも周知

■ 県民モニターを活用した広聴の推進

インターネット上で募集した「県民モニター」の意識をアンケート調査で把握し、施策や事業の立案等に生かす（登録者2,585人、平均回答率74.7%）

■ 男女共同参画申出処理制度の運営

男女共同参画に関する県民からの申し出の窓口を設置し、申出処理委員が公平、中立な立場から対応

■ 民生委員制度創設100周年に向けた全県モニター調査の実施（新規）

民生委員・児童委員を対象にモニター調査を実施し、「災害に備えた民生委員・児童委員活動に関する調査（モニター調査）」報告書を取りまとめ（委員数9,981人、回答率約90%）

■ 外部監査人による監査

監査結果とともに、監査結果に係る措置結果についても公表

■ 投資事業評価の実施

審査会において投資事業評価を実施し、審査結果、評価調書等を県ホームページ上で公表（106件）

■ 県立試験研究機関に係る研究評価の実施と評価結果の公表

県立試験研究機関における内部評価に加え、外部評価委員会において研究課題の評価を実施し、評価結果を公表（外部評価委員会開催4回）

■ ひょうごみどり白書の作成

農林水産ビジョンの実現に向けた取組を評価・検証し、「ひょうごみどり白書」として作成・公表

